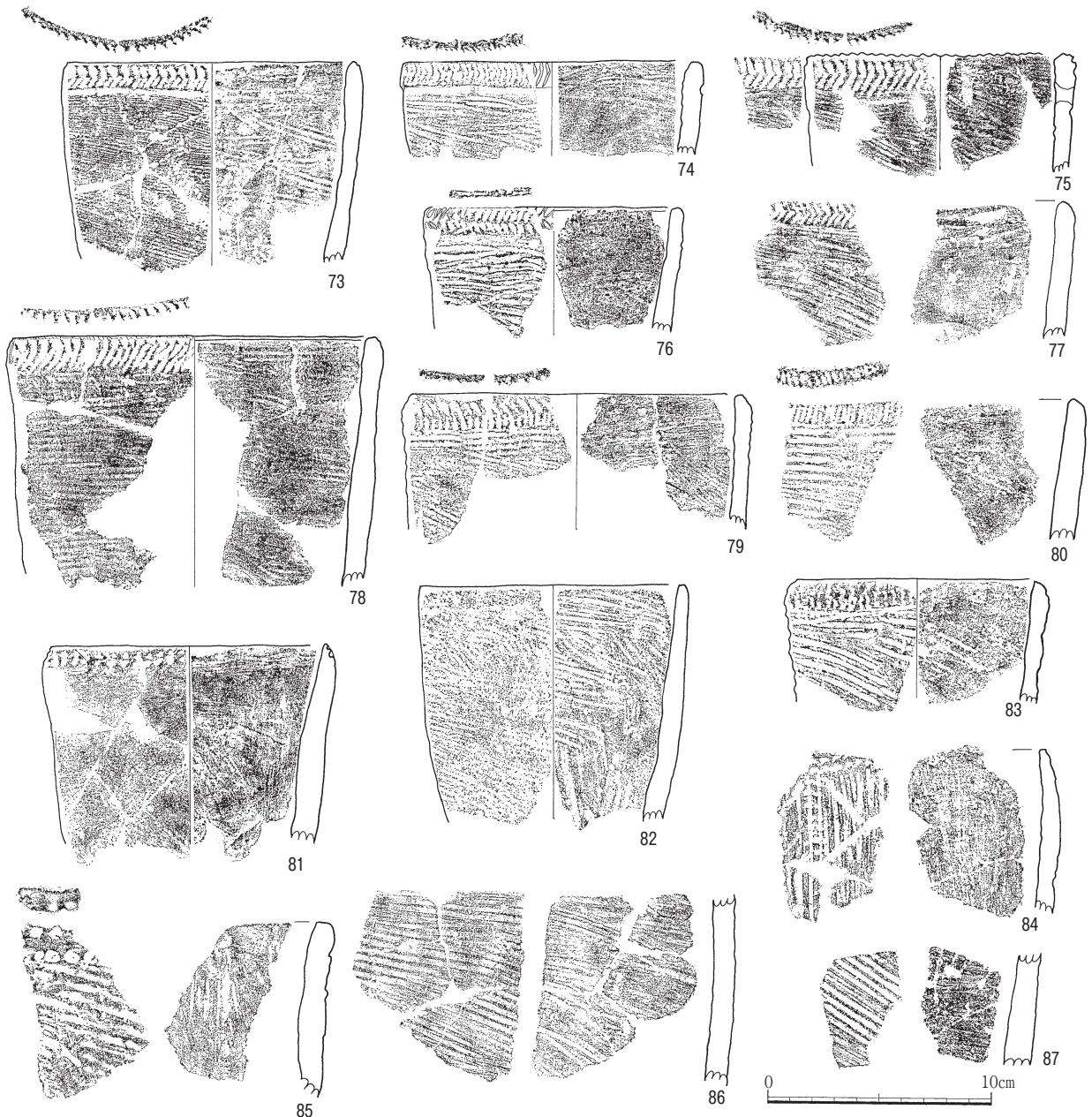


付文を有する円筒の口縁部である。楔間に縦位や斜位の貝殻刺突文が直線状に施されている。92は摩滅が激しいが楔がかすかに確認できる。88・90・92・95は口縁がやや外反している。99～103は楔形貼付文がある円筒の胴部である。斜位の条痕が施された後、貝殻刺突文を重ねているものである。99と102はヘラ状の工具による補修孔が穿たれている。104・105は楔形貼付文のない円筒の口縁部である。104は口縁部に横位の貝殻刺突文が4条廻り、胴部は横の条痕の上に斜位または縦位の貝殻刺突を重ね

ている。106～125は円筒形の胴部である。斜位の貝殻条痕文の上に縦位もしくは横位の貝殻刺突文を重ねている。126～139は角筒である。126～128は口縁部である。126は角部に向かって波状になり、楔形貼付文を有する。また、ヘラ状の工具による補修孔が穿たれている。127・128は楔形貼付文をもたない。129～139は角筒の胴部である。129～138は斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねている。139は貝殻押引文が施されている。140～146は底部である。胴部の立ち上がり部分に縦位の刻みを施す。胴部に



第34図 縄文時代早期 土器3 (Ⅱ類)

施された条痕文，貝殻刺突文は刻みの周辺部分まで施されている。

IV類土器（第38図・第39図 147～173）

IV類土器は口縁部が外反し，横位の貝殻刺突文がめぐり，その下に楔形貼付文や密接な貝殻刺突文を施すことで楔状を呈するものである。また，胴部には

は貝殻押引文が施されるものである。

147～153は楔形貼付文が施されている口縁部である。楔形貼付文の左右には刺突，上部には刻みが施される。147は楔形貼付文が2段貼り付けられている。胴部には貝殻押引文が施されている。154～157は楔形貼付文が貼り付けられた胴部である。楔形貼



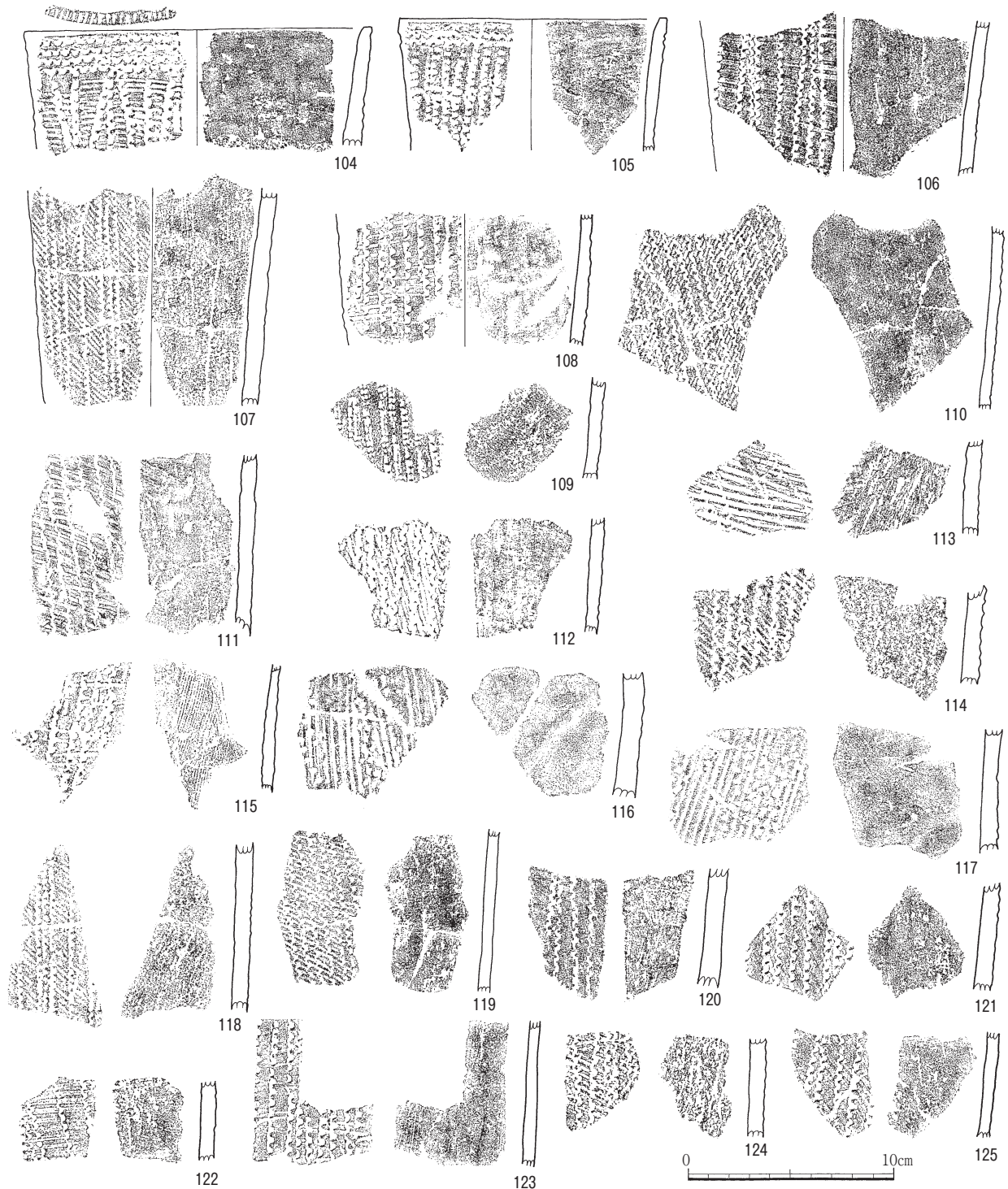
第35図 縄文時代早期 土器4（Ⅲ類）

付文の左右には刺突文が施される。158・159は楔形貼付文をもたない口縁部である。158は口縁部に横位の貝殻刺突文が3条廻り、その下部に斜位の貝殻刺突文、その下部に貝殻押引文が施されるものである。159は口縁部に横位の貝殻刺突文が3条廻りその下部に貝殻押引文が施されるものである。160～

169は胴部である。貝殻押引文が施されている。170～173は底部である。胴部の立ち上がり部分に縦位の刻みを施すものである。

V類土器 (第40図～第57図 174～382)

V類土器は、口縁部に貝殻刺突文が廻り、胴部には貝殻条痕が施されている円筒形の土器である。貝

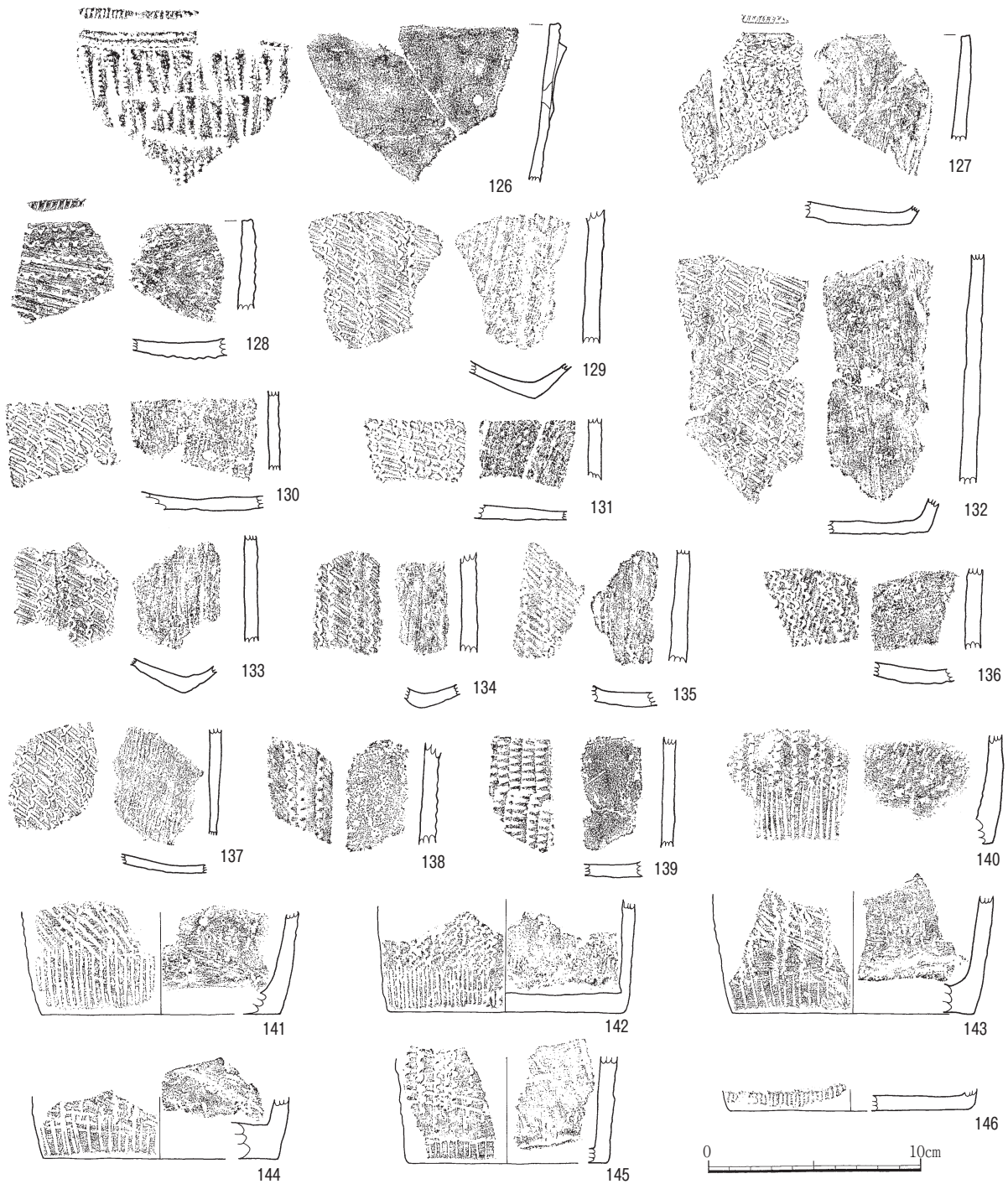


第36図 縄文時代早期 土器5 (Ⅲ類)

殻条痕文は綾杉状のものがほとんどであるが、縦位、横位のものもある。口唇部には刻目を施すものが大半である。口縁部が肥厚し外反するものと、ほぼ直行するものがある。

174~263は外反もしくはやや外反する口縁部をもつタイプである。174~179は口縁部に横位の貝殻刺突文を2~4条ほど廻らすものである。さらに、そ

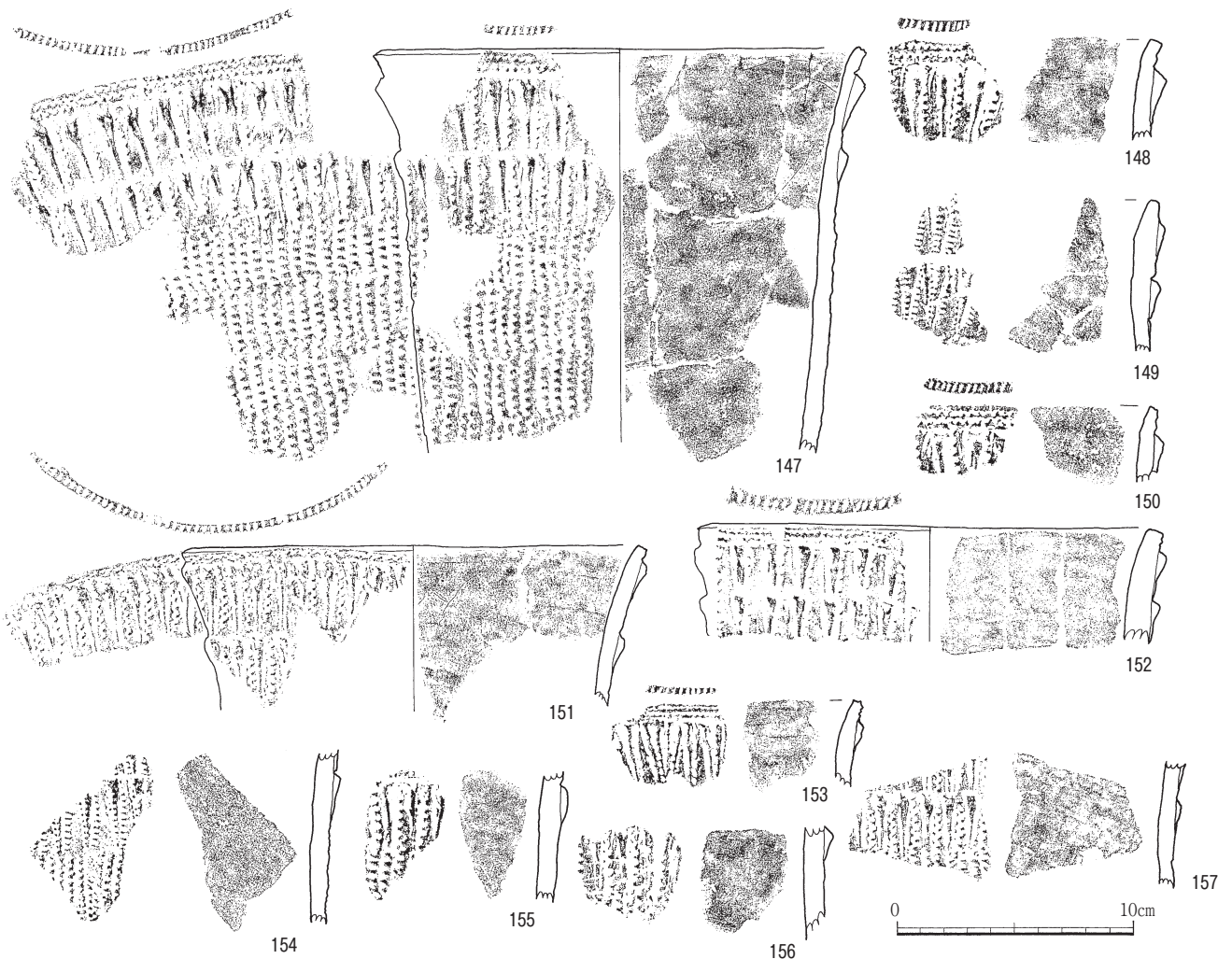
の下に斜位の貝殻刺突文を廻らすものである。口唇部には刻目が施されている。176・178・179の胴部には綾杉状の貝殻条痕文が施されている。180~189は口縁部に横位の貝殻刺突文を施すものである。口唇部には刻目が施されている。189は横位の貝殻刺突文の下部に棒状工具による刺突文が廻らされている。190~218は口縁部に斜位の貝殻刺突文を施すもので



第37図 縄文時代早期 土器6 (Ⅲ類)

ある。190～195は口唇部に刻目，胴部に綾杉状の貝殻条痕文が施されるものである。194はヘラ状の工具による補修孔が穿たれている。集石24から出土した。196～202は口唇部に刻目，胴部に縦位，横位，斜位の貝殻条痕を施すものである。201は胴部に縦位の貝殻条痕を施文した後に貝殻刺突文を施している。202は斜位の貝殻条痕文を施した後に貝殻刺突文が施されている。209～217は口唇部に刻目を持たないタイプである。209～215は胴部に綾杉状の貝殻条痕文が施されている。209は土器内部に熱を受けた礫を伴って出土した（14図参照）。218は口唇部から口縁部にかけて斜位の貝殻刺突文が施されるものである。胴部には棒状の工具によると思われる条痕が見られる。219～249は口縁部に羽状の貝殻刺突文を施すものである。219～246は口唇部に刻目が施さ

れている。219の破片の一部は集石25の中から出土した。円形の補修孔が2個穿たれている。224は羽状の貝殻刺突文の下に横位の貝殻刺突文が2条施されている。231はヘラ状の工具による補修孔が穿たれている。237は口唇部に上から見て逆「く」の字状の刻目が施されている。241は羽状の貝殻刺突文の下に棒状工具によると思われる刺突文が連続して施されている。243は羽状の貝殻刺突文の下に横位の貝殻刺突文が施されている。247～249は口唇部に刻目のないタイプである。249は羽状の貝殻刺突文が深くまばらに施されている。250～252は口縁部に横位の貝殻条痕文が施されるものである。253～256は口縁部に縦位の貝殻刺突文が施されるものである。253・254は胴部に綾杉状の条痕文が施されている。255は縦位の貝殻刺突文の下に横位の貝殻条痕文が1



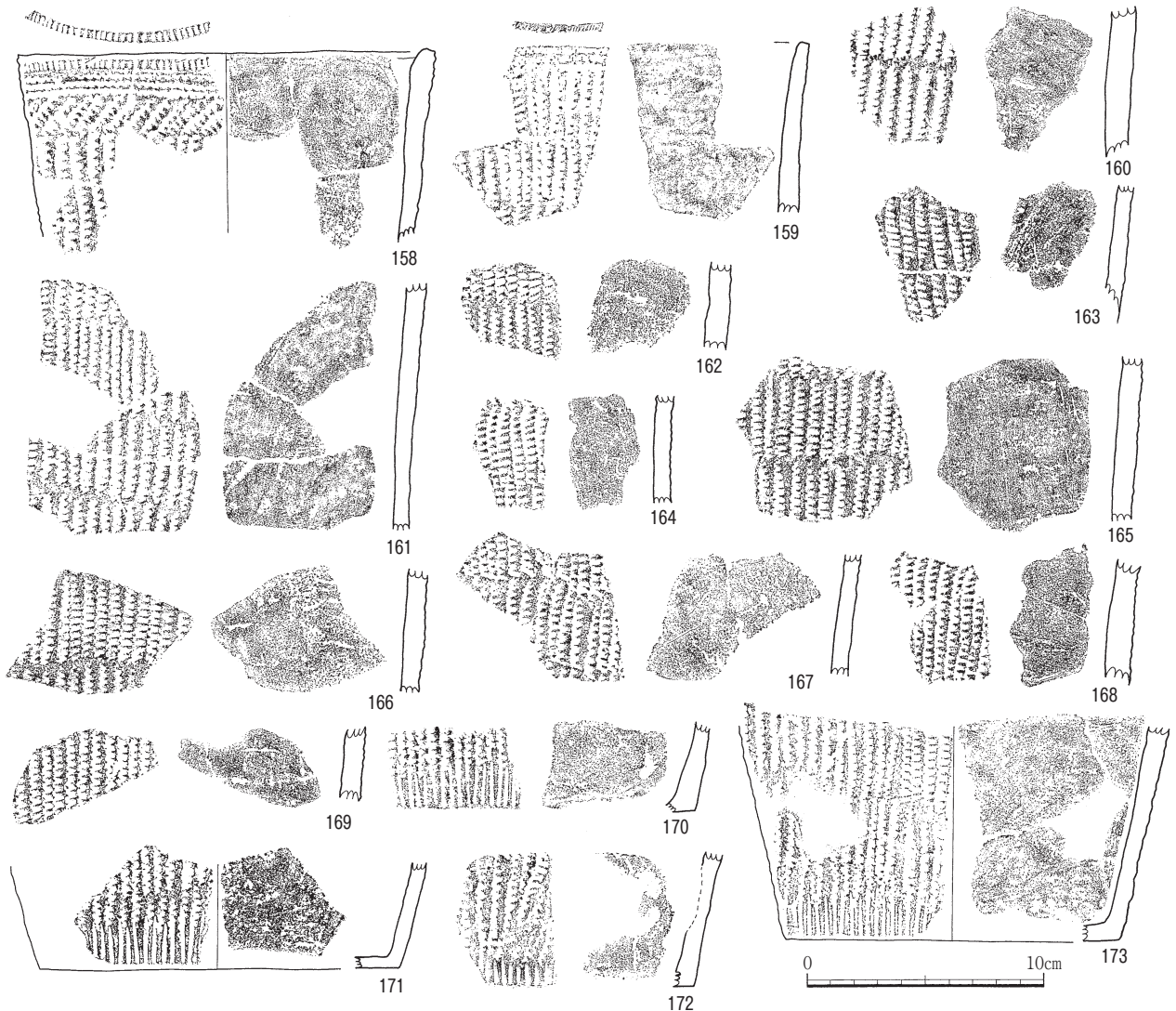
第38図 縄文時代早期 土器7 (IV類)

条施されている。

257～263は口縁部が波状を呈するものである。257は口縁部に斜位の貝殻刺突文が施され、波状の頂上部付近で羽状の貝殻刺突文に変わるものである。口唇部には刻目が施されている。258～262は口縁部に横位の貝殻条痕文を施すものである。261は口唇部に鋸歯状の刻目が施されている。263は口縁部に羽状の貝殻刺突文が施されるものである。

264～289は直行する口縁をもつものである。264～266は口縁部に横位の貝殻刺突文をもつものである。267～270は棒状の工具による横位の刺突文を施すものである。271～275は口縁部に斜位の貝殻条痕文を施すものである。271～273は口唇部に刻目を施すものである。272は口縁の上部まで斜位の貝殻条

痕文を施した後に貝殻刺突文を施している。274～279は口縁部に刻目がないタイプである。274は円形の補修孔が穿たれている。279の同一個体と思われる。276は貝殻条痕文の下に横位の貝殻刺突文が1条施されている。278は胴部に横位の条痕文が施される。280・281は口縁部に羽状の貝殻刺突文をもつものである。280は羽状の貝殻刺突文の上下に横位の貝殻刺突文が1条施されている。282は口縁部に横位または斜位の貝殻条痕文が施されるものである。283～288は口縁部に縦位の貝殻刺突文を施すものである。283～287は口唇部に刻目が施されている。284の口唇部には貝殻刺突文が施されている。284は貝殻刺突文の上下に、285・289は下に横位の貝殻刺突文が1条施されている。288は口唇部に刻目を



第39図 縄文時代早期 土器8 (IV類)



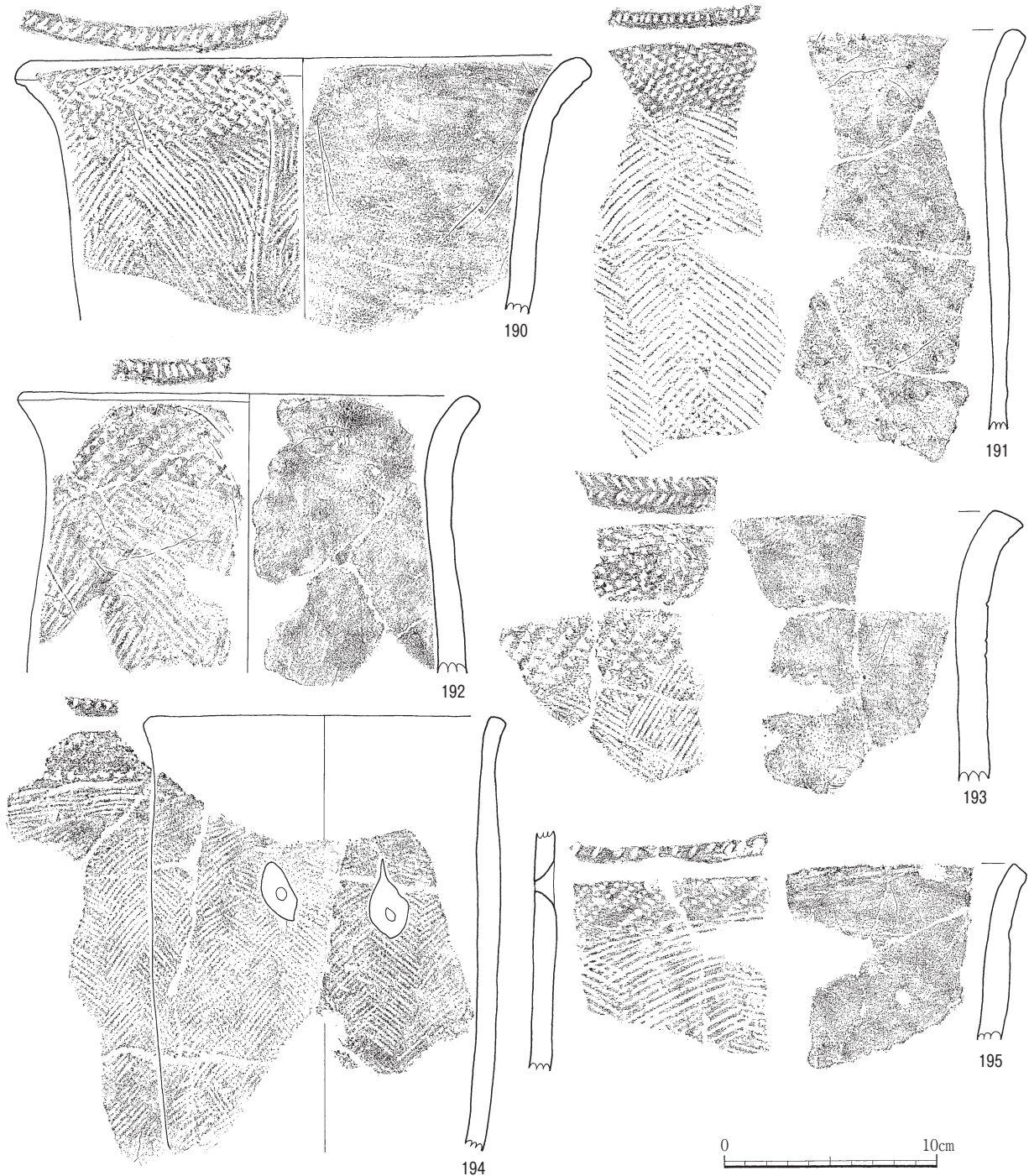
第40図 縄文時代早期 土器9 (V類)

たない。289は口縁部上部まで横位の条痕文を施すものである。

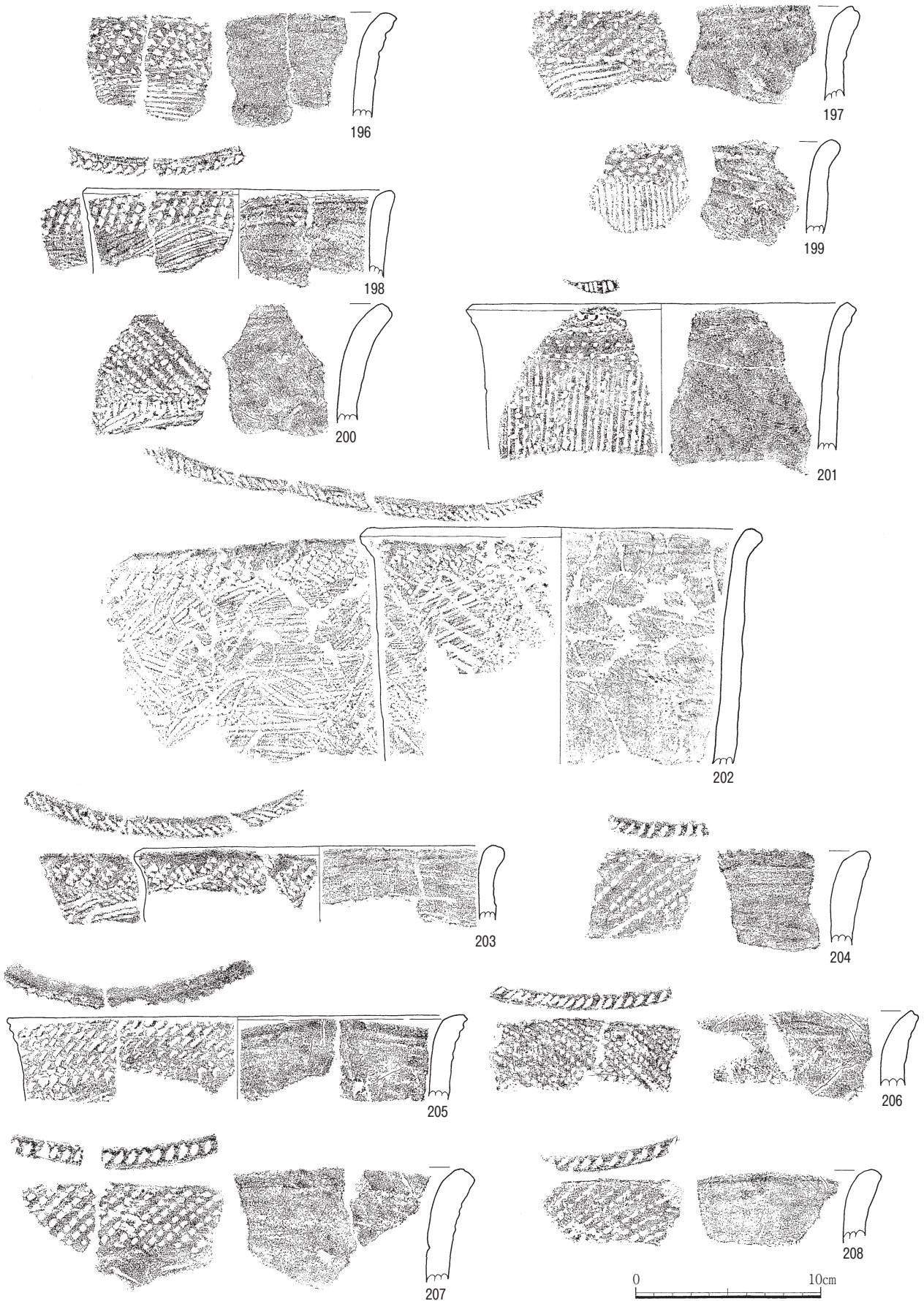
290～299は口縁部に瘤状突起を貼り付けるものである。290は突起の上面に刻目、側面に横位の貝殻刺突文を施している。291～293は突起の側面に横位の貝殻刺突文を施している。293は突起の上面にも貝殻刺突文を施している。294・295は瘤状突起側面

に刺突文を施している。296～298は突起の側面に縦位の貝殻刺突文を施すものである。295・298は突起部分を横に貫く穴があけられている。298の突起の上面は刻目が施されている。299は突起部分まで貝殻条痕文が施されている。

300・301は口縁部が波状を呈するものである。口縁部に棒状の工具による刺突文が施されている。



第41図 縄文時代早期 土器10 (V類)



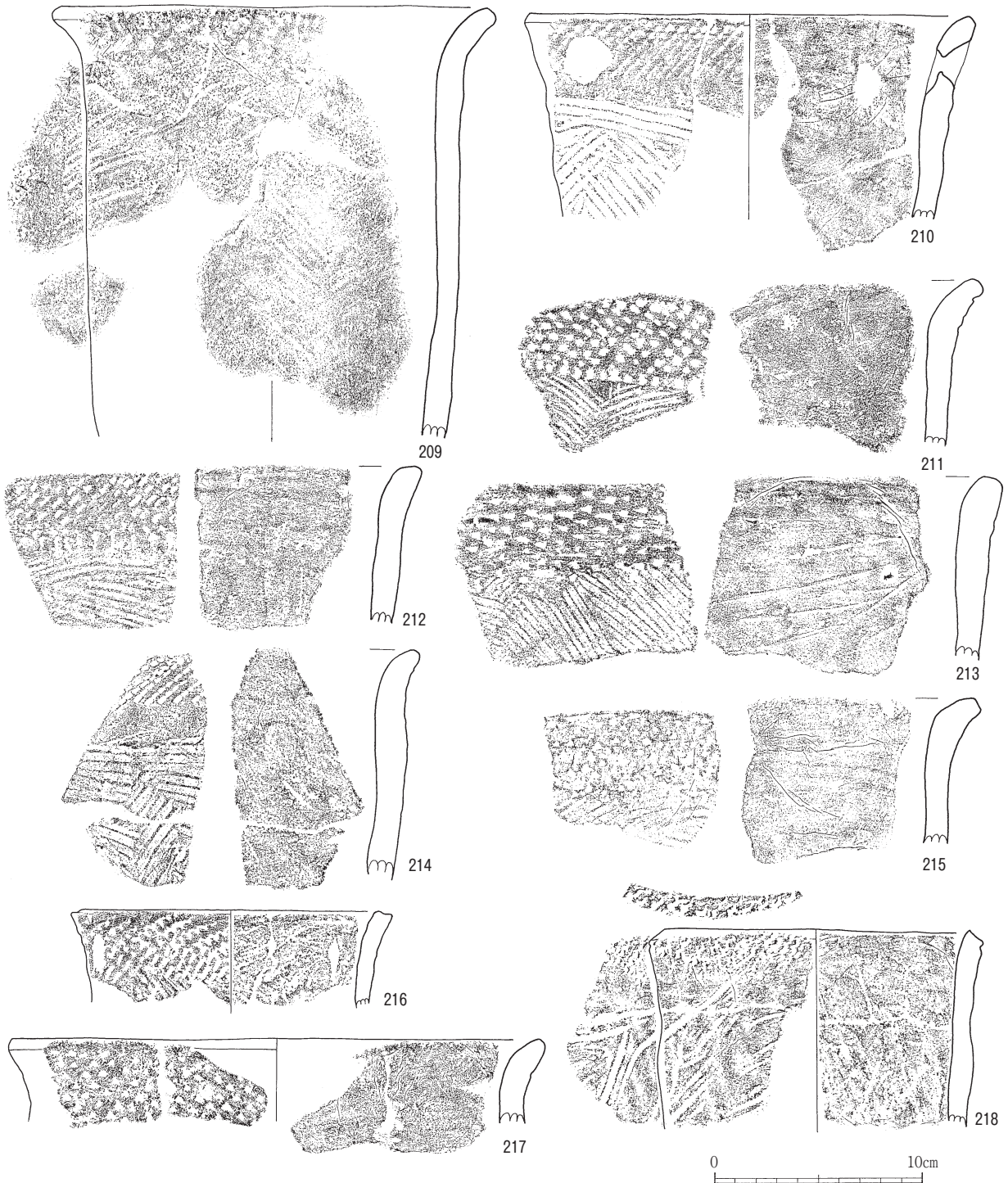
第42図 縄文時代早期 土器11 (V類)

胴部には貝殻条痕文が施されている。

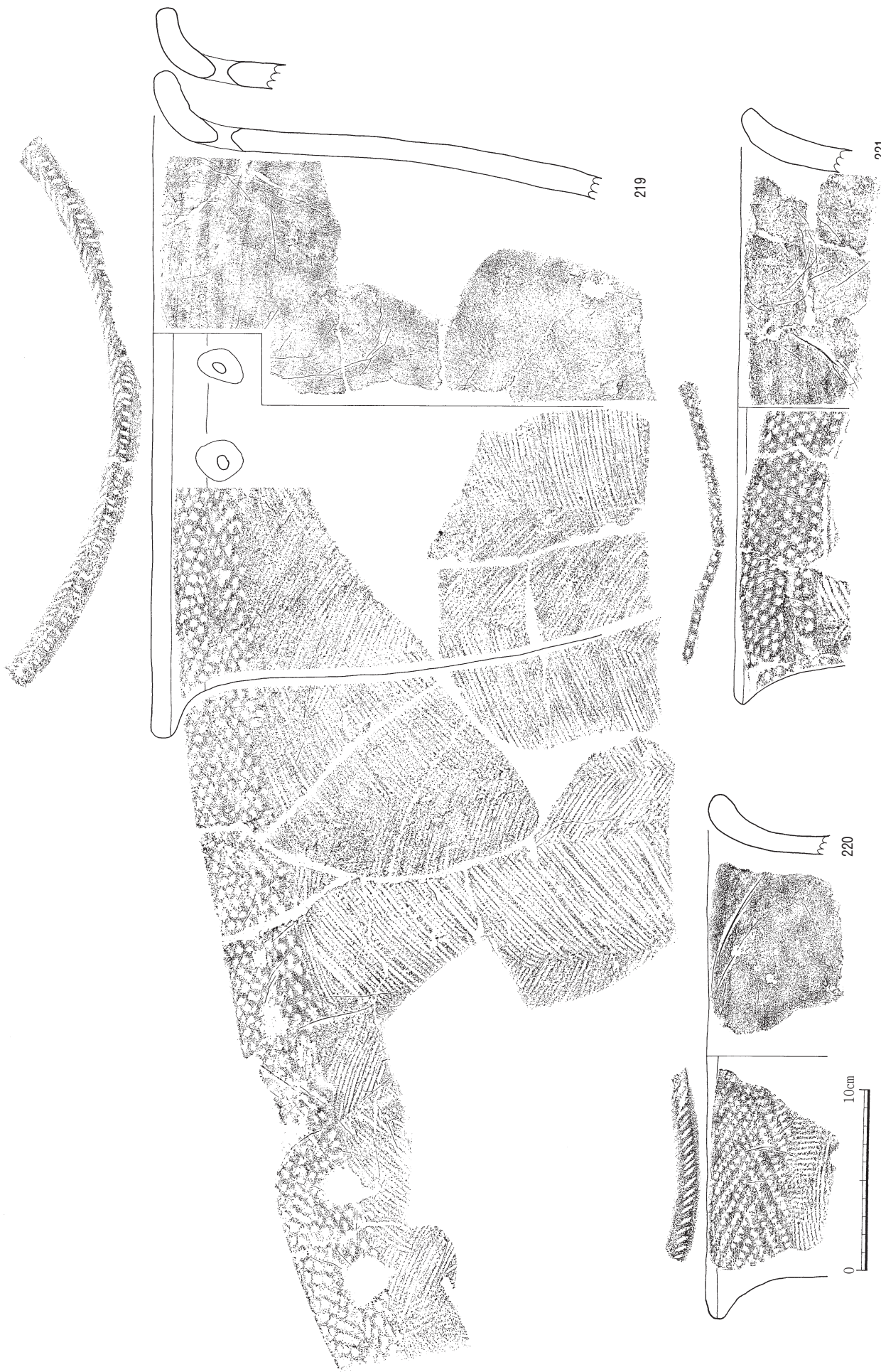
302～338は胴部である。302～320は綾杉状の貝殻条痕文を施すものである。307は270の同一個体と思われる。313は集石24から出土した。321～323は綾杉状の貝殻条痕文を施した後に縦位の条痕文を施すものである。326は縦位の条痕文が施されている。328は条痕文を施した後に貝殻刺突文が施されてい

る。329～338は「V」字状の貝殻刺突文が施されている。

339～382は底部である。339～350は底部下面の外周に刻目が施されている。339～347は刻目の上部に横位の条痕文が施されている。339・340の内面は指ナデで調整されている。346は集石20から出土した。348・349は胴部の立ち上がりに縦位の条痕が施され



第43図 縄文時代早期 土器12 (V類)

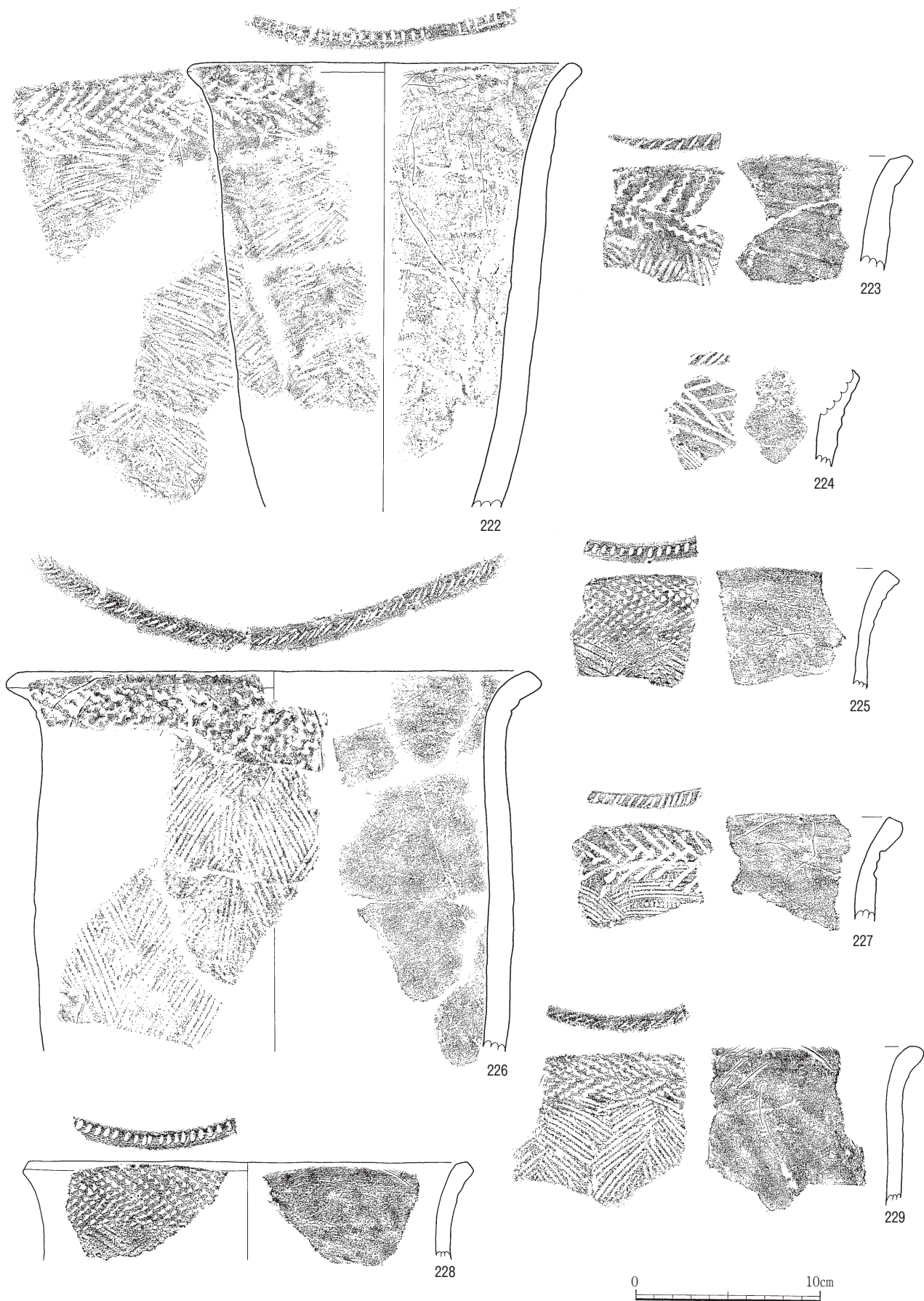


221

220

219

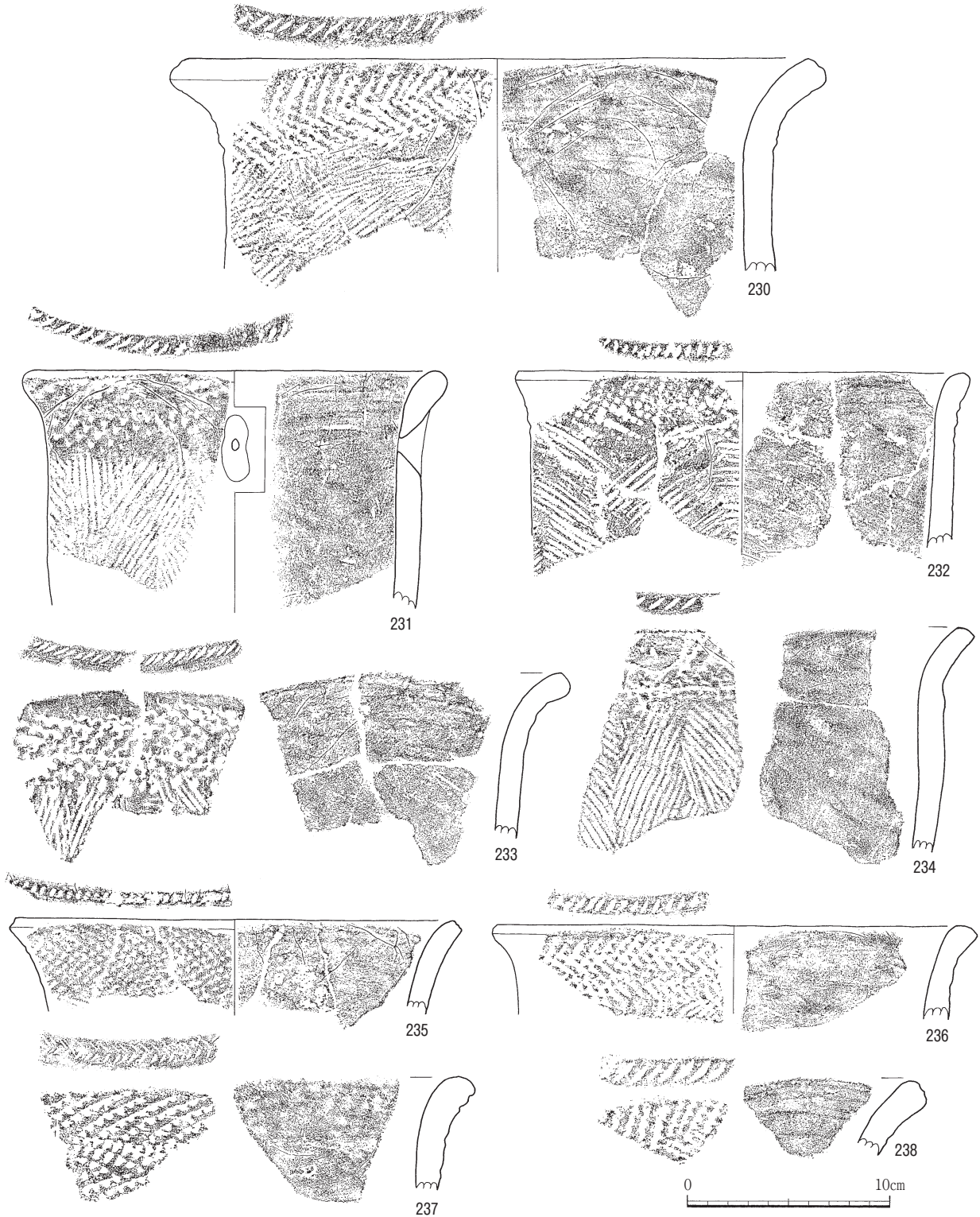
第44図 縄文時代早期 土器13 (V類)



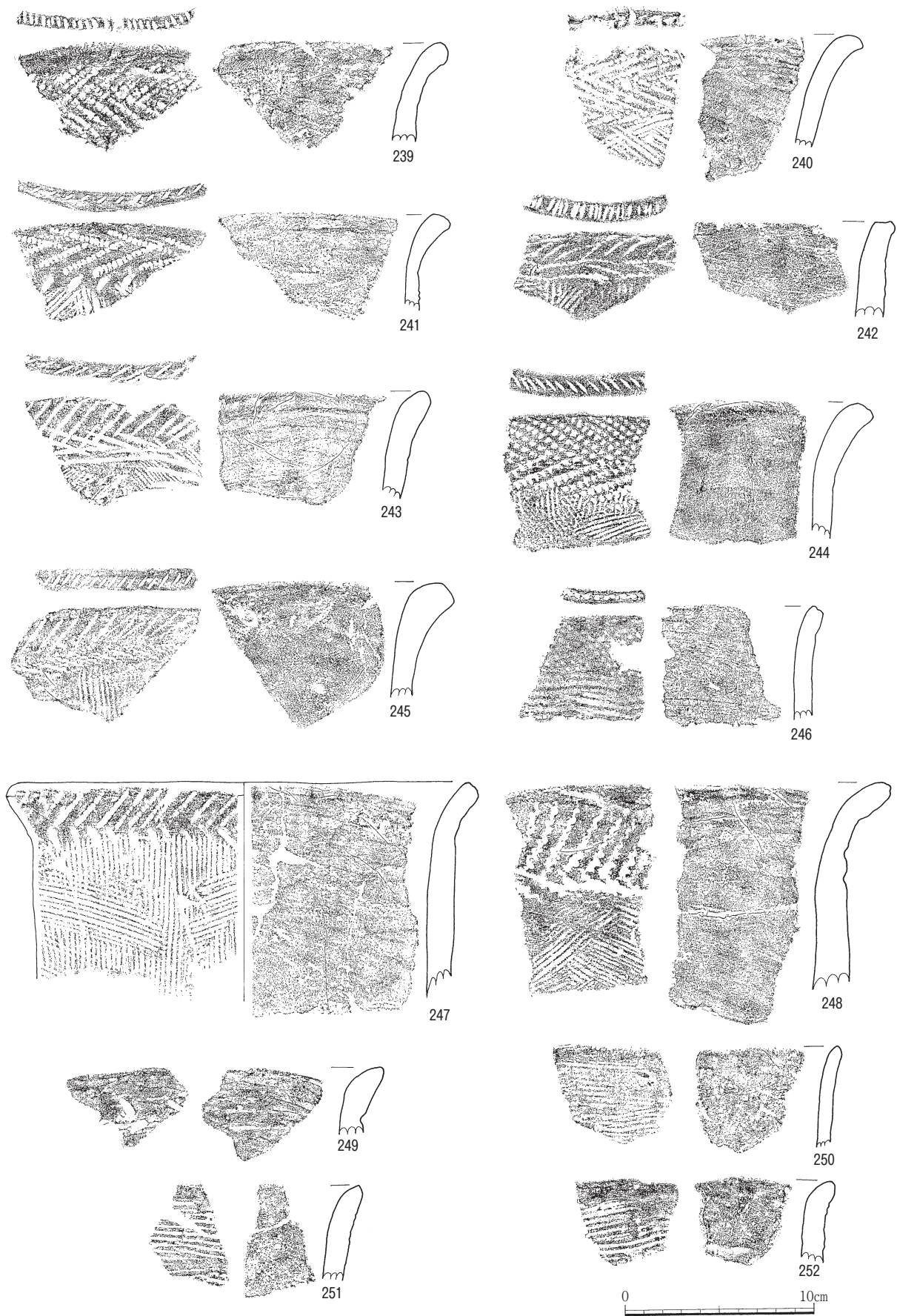
第45図 縄文時代早期 土器14 (V類)

ている。351～358は底部下面の外周の刻目が鋸歯状のものである。359～378は底部下面の外周まで斜位、横位、縦位の条痕文が施されるものである。361は胴部の内面と底部の内面に貝殻条痕文が見られる。374の底部外面はヘラケズリによる調整が見られる。

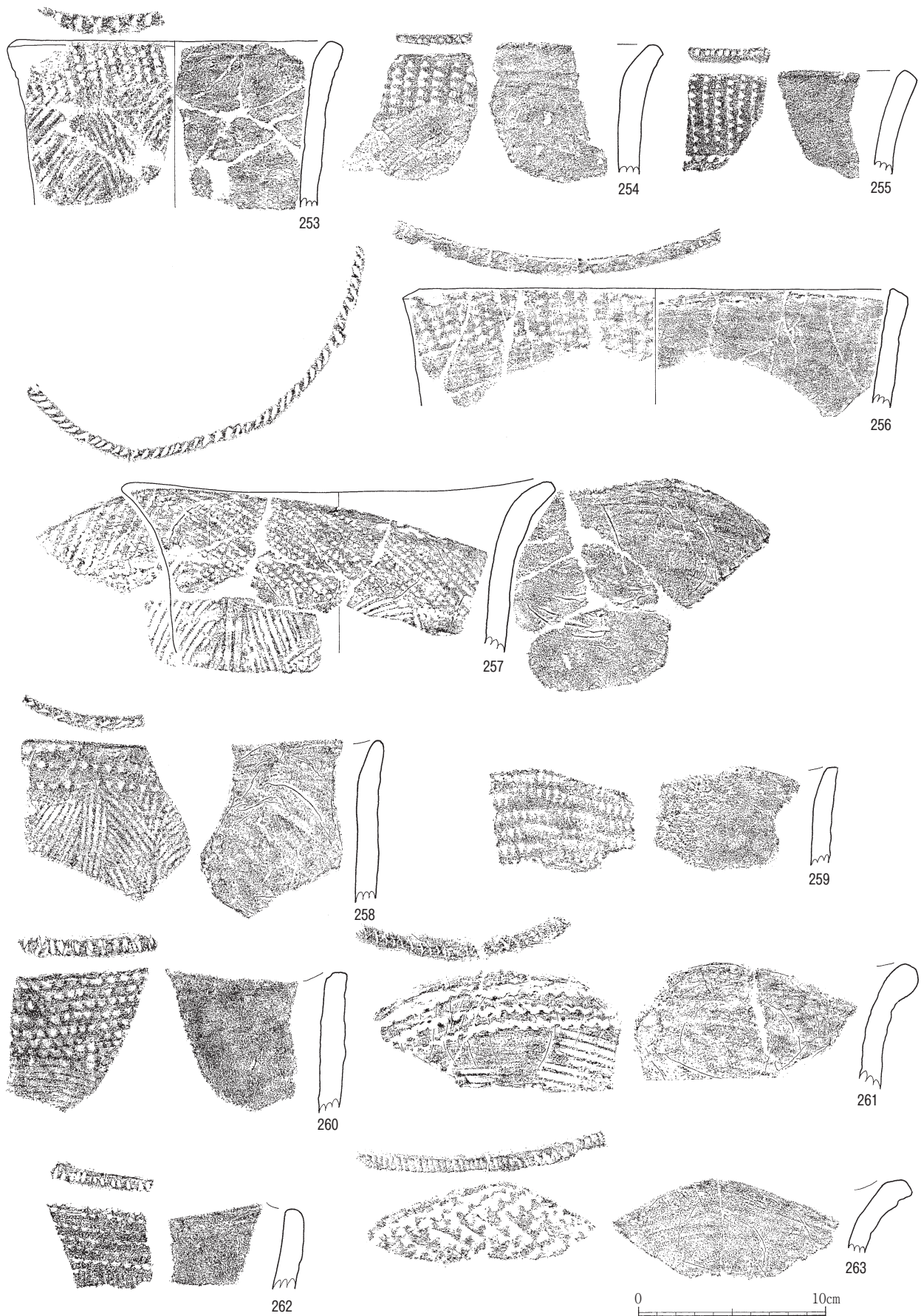
377の底部外面は条痕文が施されている。379の胴部はナデで調整されている。380は胴部、底部外面にヘラケズリによる調整が見られる。382は外面底部にわずかにミガキによる調整が見られる。



第46図 縄文時代早期 土器15 (V類)



第47図 縄文時代早期 土器16 (V類)



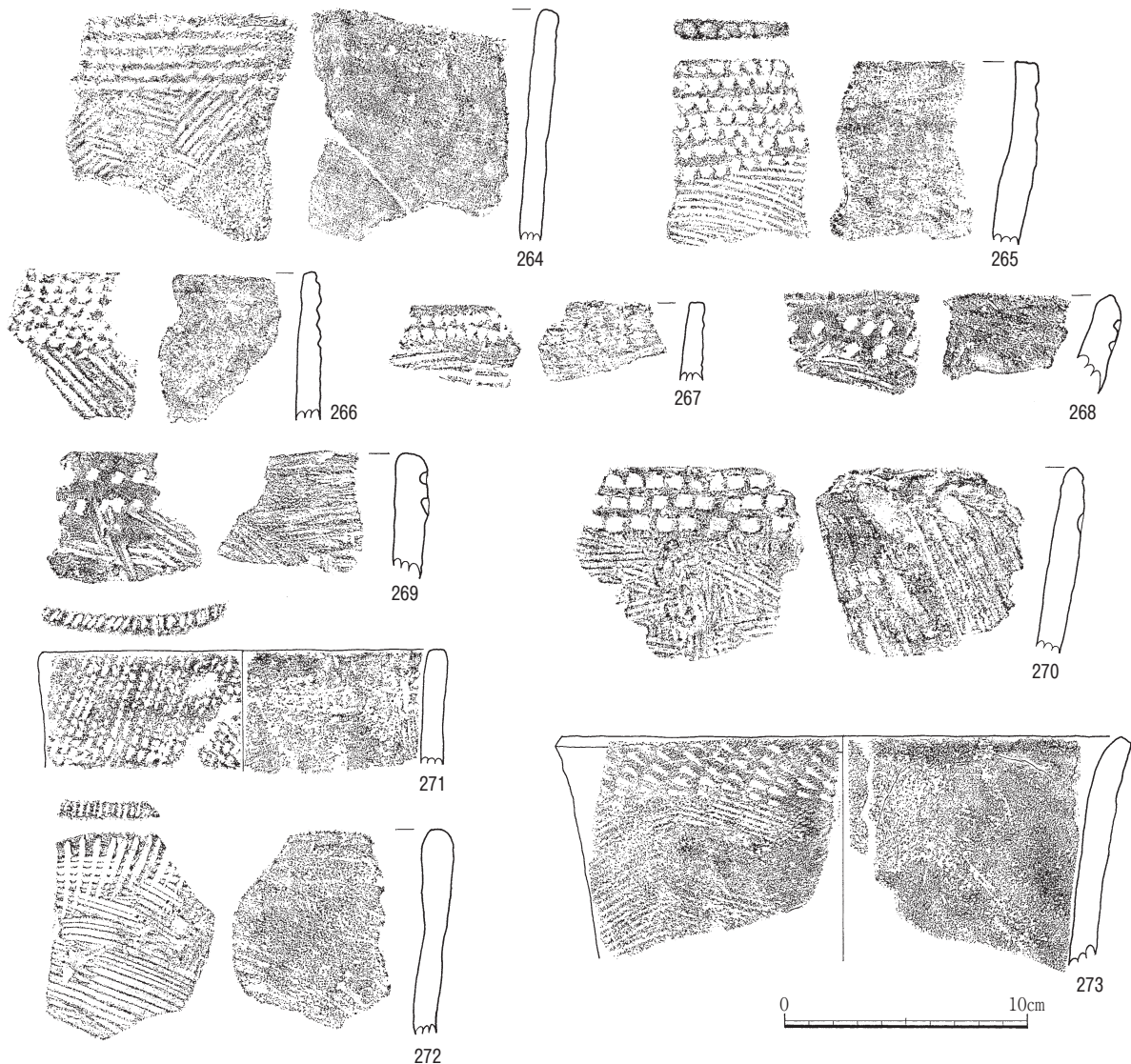
第48図 縄文時代早期 土器17 (V類)

VI類土器 (第58図・第59図 383~407)

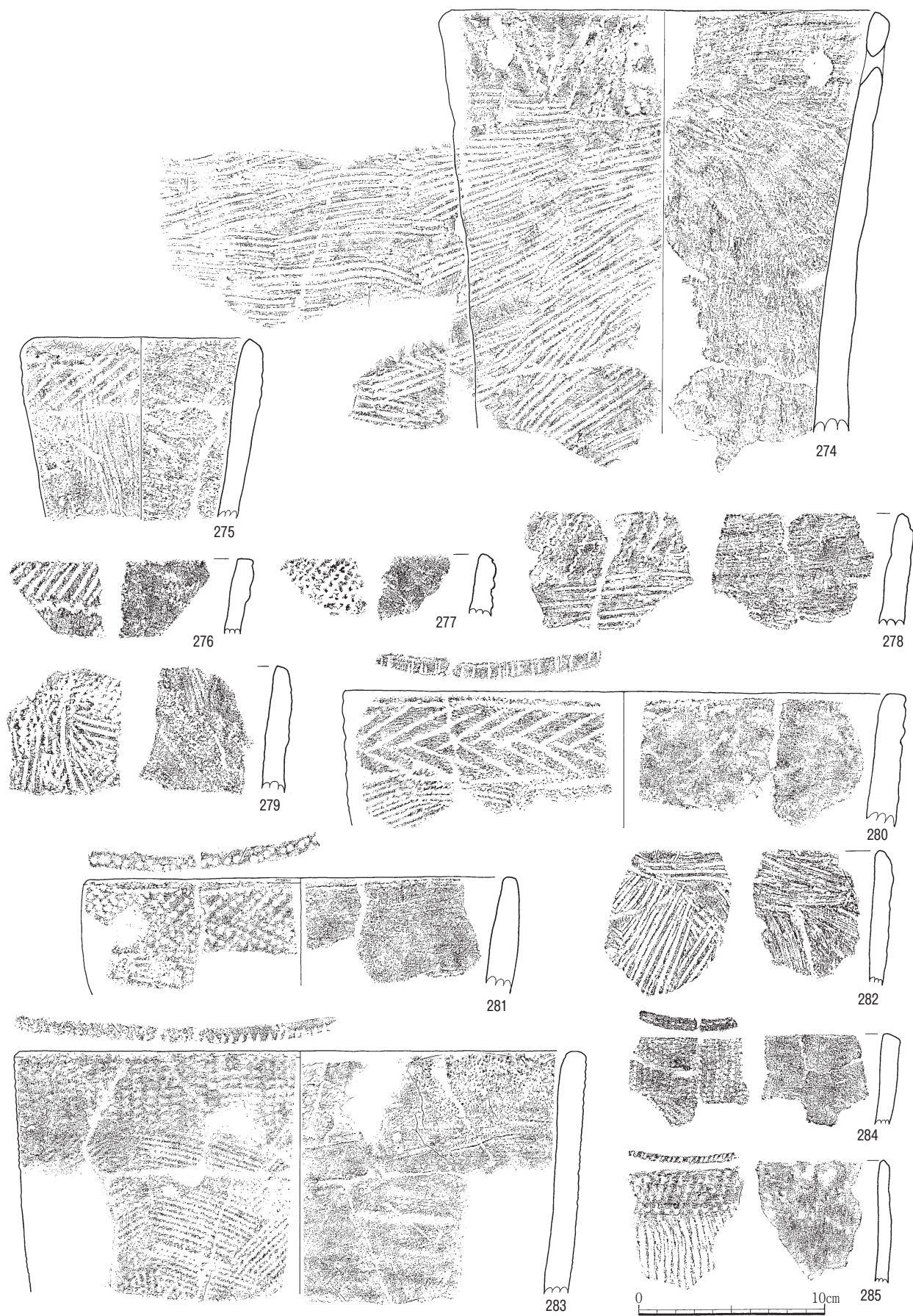
VI類土器は口縁部が直行ないしわずかに内湾し、口縁部から底部まで貝殻刺突文のみで文様が構成されるものである。

383~394は口縁部である。383~388は口縁部が若干内湾しているものである。386~389は口縁部の上端のみ内湾するものである。383・384は「C」の字状に貝殻刺突文が連続して施されている。385は口縁部に連続した斜位の貝殻刺突文、その下に横位、斜位の貝殻刺突文が施されている。386は斜位の貝殻刺突文が施され、瘤状の突起が貼り付けられている。387は口縁部に横位の刺突文が2条、その下に斜位の貝殻刺突文が綾杉状に施されている。388~390は横位、斜位の貝殻刺突文が施されている。388

は内面をケズリで調整している。390は瘤状突起部分である。391~394は口縁部が直行するものである。391は口縁部上端に横位の貝殻刺突文が2条廻り、その下に斜位の貝殻刺突文が綾杉状に施されている。また、にぶい赤褐色の土と灰色の土を交互に積んで土形成している。392は口縁部に斜位の貝殻刺突文が施されている。口唇部には刻目が施されている。393は口唇部、口縁部に棒状の施文具による刺突文が施されている。394は横位、斜位の貝殻刺突文が施されている。内面はケズリで調整されている。395~407は胴部である。395~405は貝殻刺突文が施されている。396と399~401は同一個体と思われる。406・407は棒状の施文具による刺突が横位に施され、その下に貝殻刺突文が施されている。



第49図 縄文時代早期 土器18 (V類)



第50図 縄文時代早期 土器19 (V類)

VII類土器 (第59図 408~410)

VII類土器は口縁部がわずかに内湾し、口縁部から胴部にかけて横位または縦位の羽状の短沈線文を施すものである。408・409は口縁部である。408は口縁部に横位の貝殻刺突文、その下に横位の羽状の短沈線文が施されている。409・410は口縁部から胴部に縦位の沈線文、その横に羽状の貝殻刺突文が縦位に施されるものである。

VIII類土器 (第60図・第61図 411~430)

VIII類土器は口縁部が直行ないし内湾し、口縁部内面が肥厚しバケツ形の器形を呈するものである。施文は短い条痕や沈線による羽状文や縦位の流水文を施すものである。内面は丁寧に磨かれているものが多い。

411~420は羽状文が施された口縁部である。412は円形の補修孔が穿たれている。口唇部から内面は丁寧に磨かれている。417の口縁部はやや丸みを帯びているが施文が類似しているためVIII類土器として扱った。419は横位の条痕文が施され、補修孔が穿たれている。421は横位の条痕が施されている。422は斜位の短い条痕が施されている。施文パターンが

整然さにかける。423~425は流水文が施されている。426~428は胴部である。427は横位の貝殻刺突文が数条施され、その下に羽状文が施されている。429・430は底部である。430は羽状文が施され内面は磨かれている。

IX類土器 (第62図・第63図 431~444)

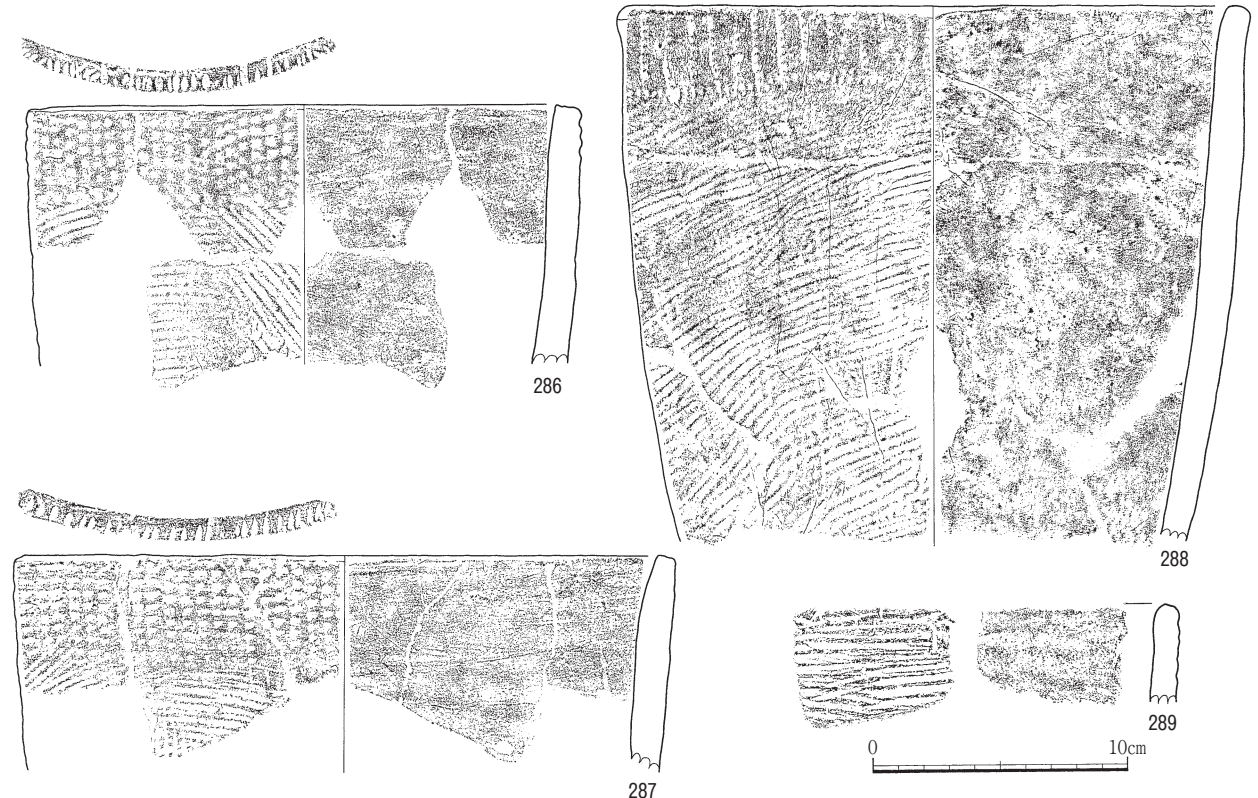
円筒形条痕文土器と呼ばれるものである。

431~441は口縁部である。431は胴部がわずかに膨らみ、口縁部はやや外反する。端部は丸くつくられている。外面は縦位の条痕を施した後、胴部中程から口縁部にかけて波状の条痕文が横位に施されている。432~441は横位の波状の条痕が施されるものである。435は円形の補修孔が穿たれている。442~444は胴部である。横位の条痕文が施されている。

X類土器 (第64図~第69図 445~518)

X類土器は器面に山形・楕円の押型文を施文するものである。

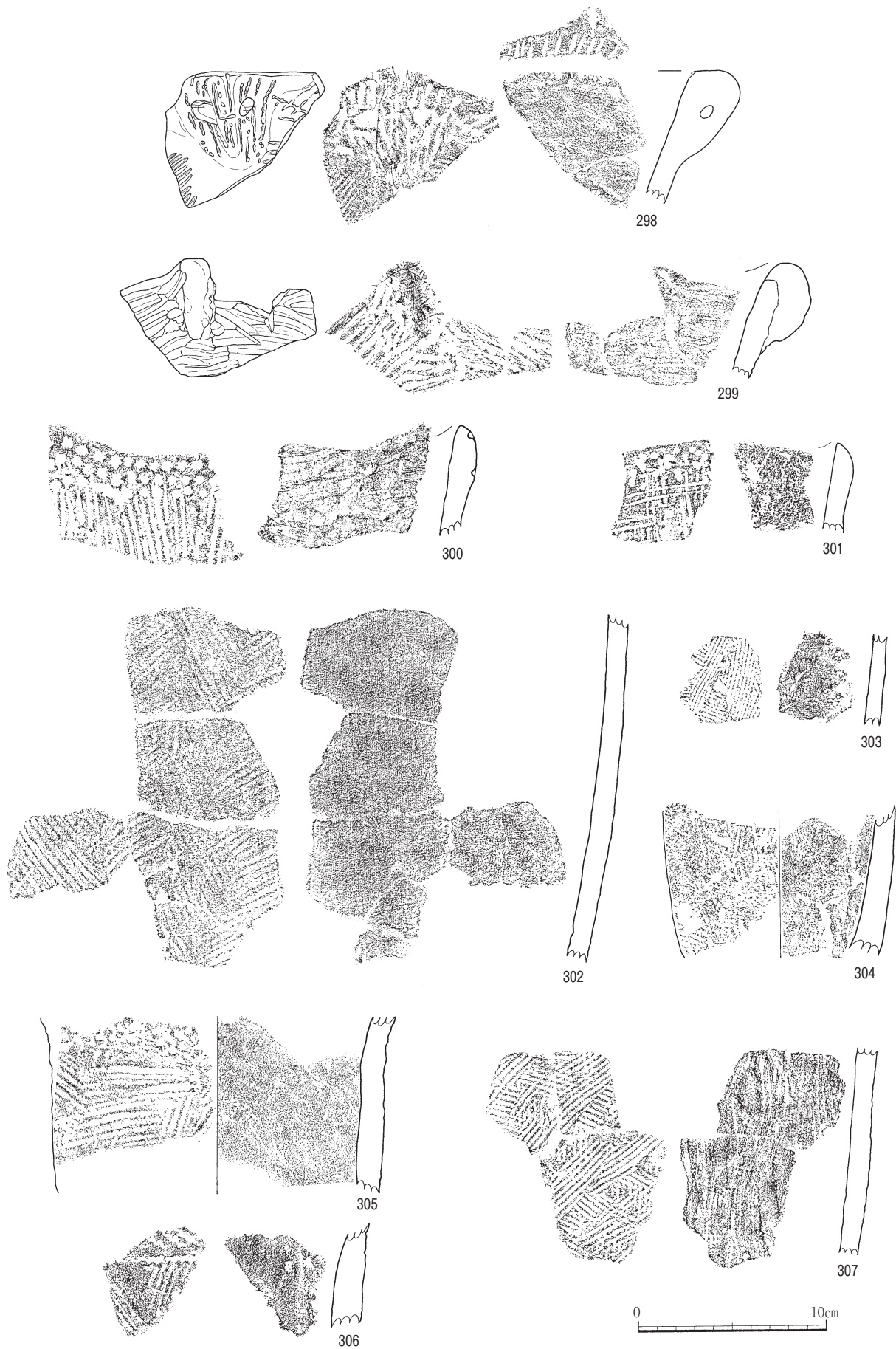
445~474は山形の押型文土器である。445~452は口縁部である。445は膨らんだ胴部から口縁部にかけて窄まり外反するものである。446~452は外反も



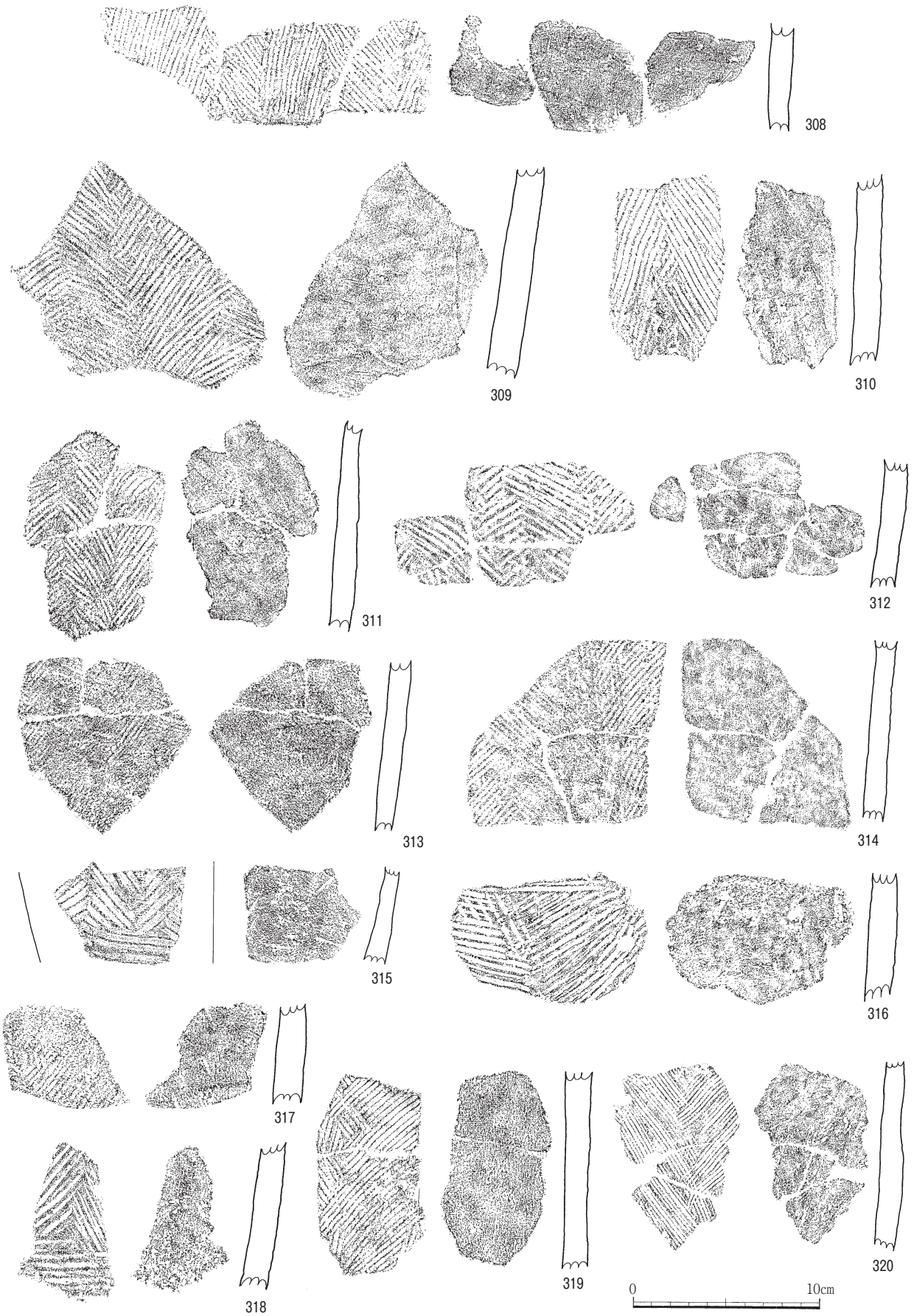
第51図 縄文時代早期 土器20 (V類)



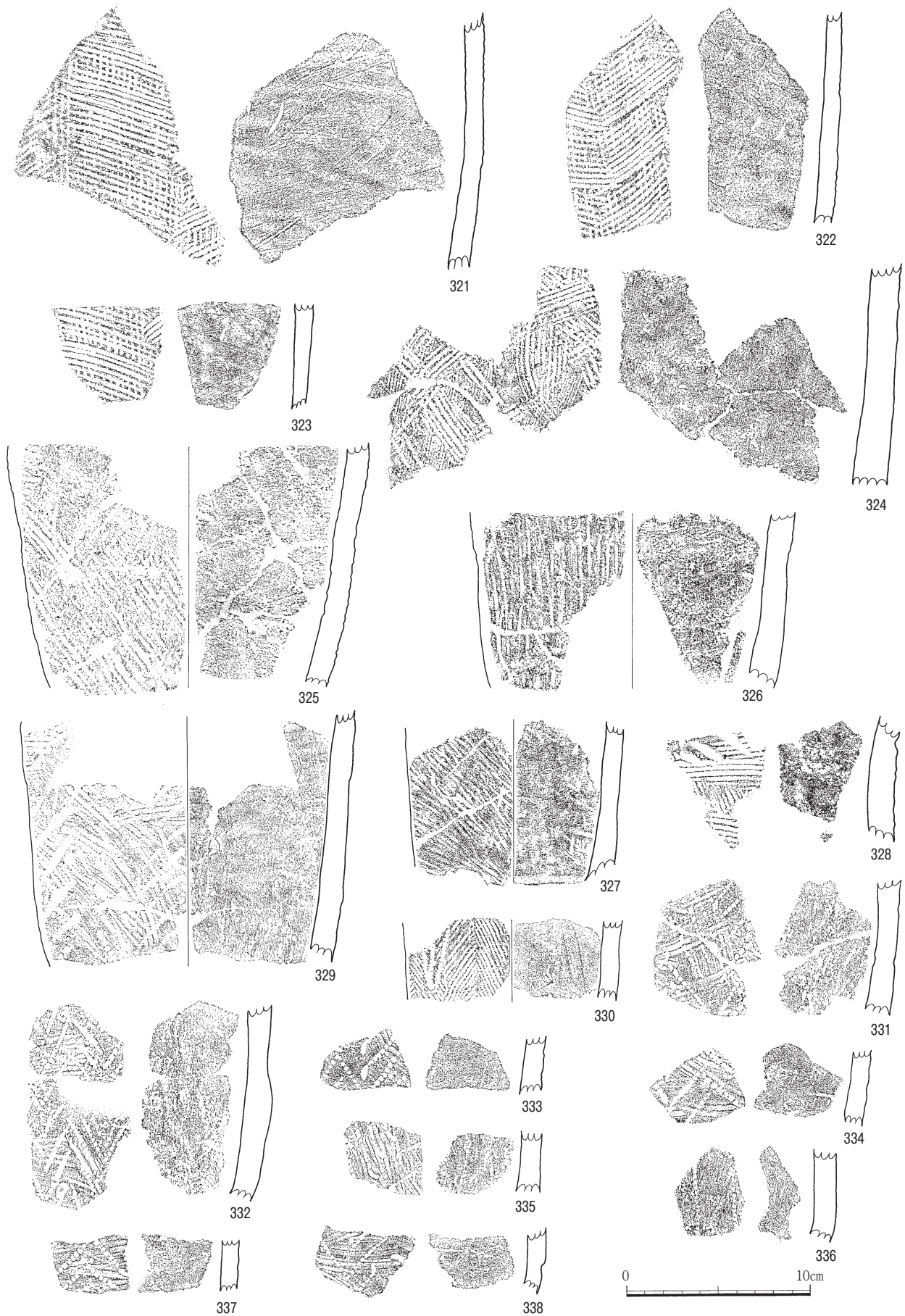
第52図 縄文時代早期 土器21 (V類)



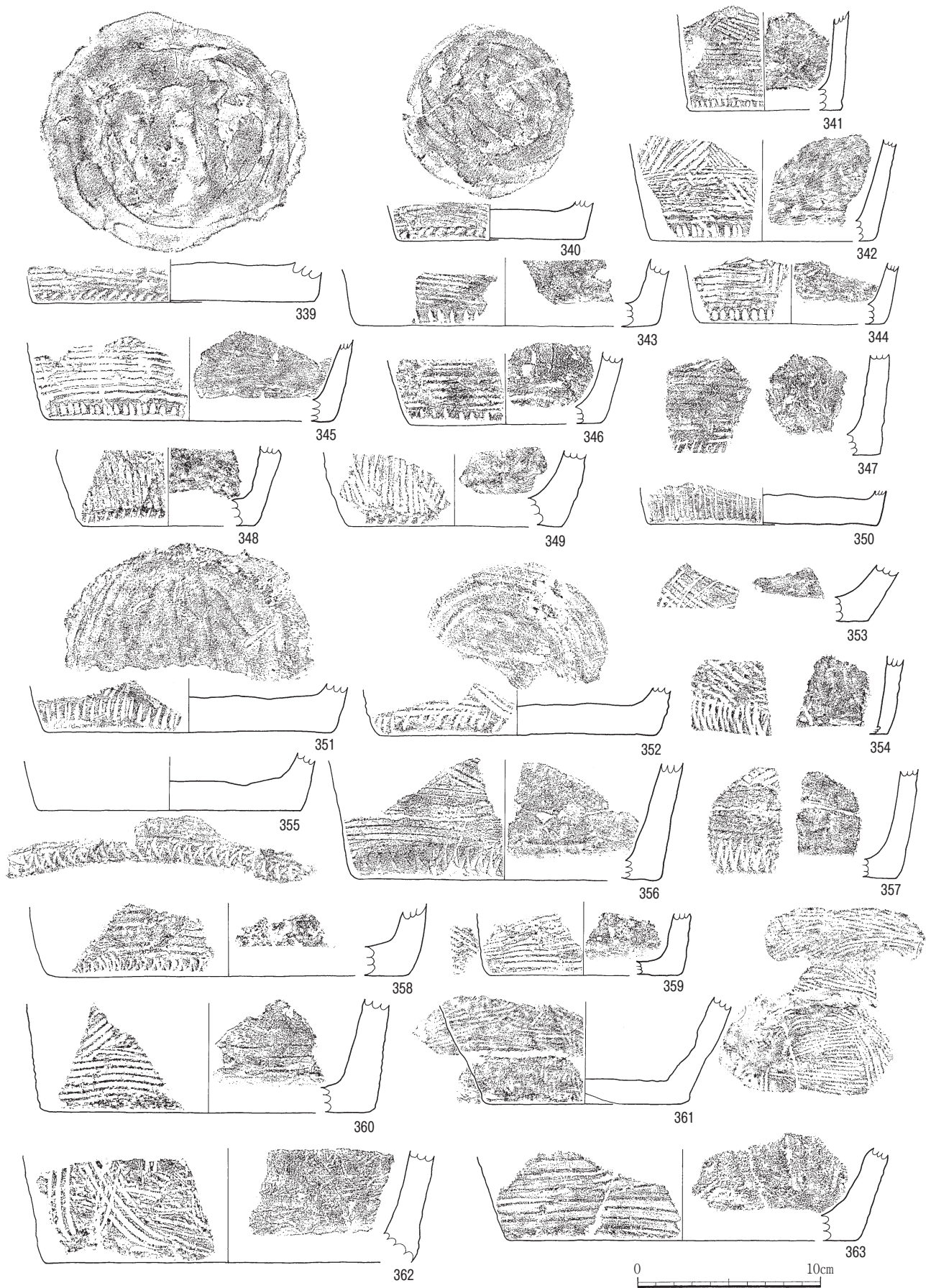
第53図 縄文時代早期 土器22 (V類)



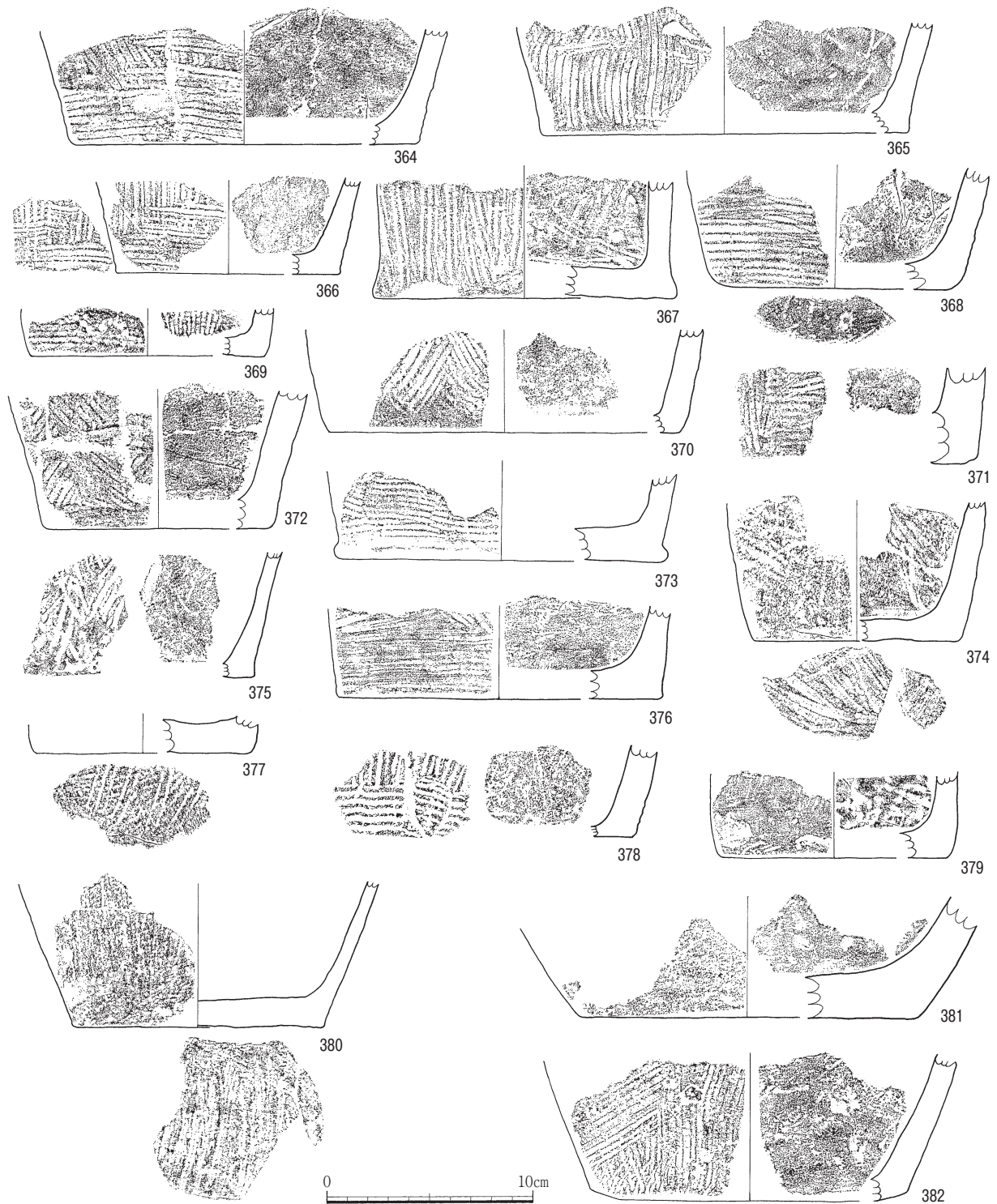
第54図 縄文時代早期 土器23 (V類)



第55図 縄文時代早期 土器24 (V類)



第56図 縄文時代早期 土器25 (V類)

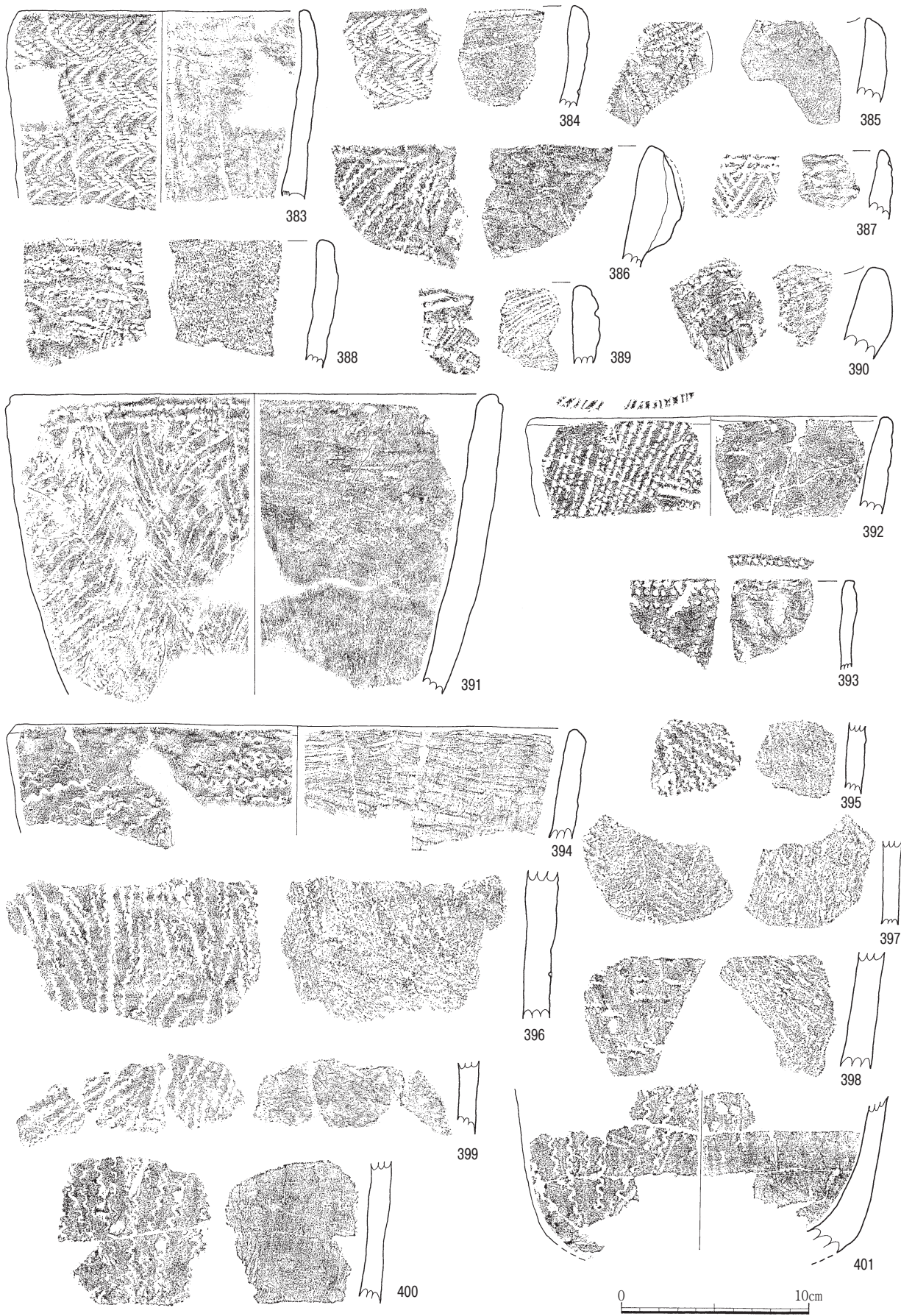


第57図 縄文時代早期 土器26 (V類)

しくはやや外反するものである。445~447, 449~452の口縁部内面の上端に山形の押型文が施されている。453~471は胴部である。472~474は底部である。

475~516は楕円の押型文土器である。475~491は

口縁部である。475・476は直行するものである。475は口縁部内面の上端に楕円形の押型文が施されている。また、円形の補修孔が穿たれている。477・478は膨らんだ胴部から口縁部にかけて窄まり外反する。479~490は口縁部が外反するものである。



第58図 縄文時代早期 土器27 (VI類)

481・484は口唇部に刻目が施されている。488・489は内面に楕円形の押型文が施され、外面はナデで調整されている。491は口縁部が窄まるものである。外面に楕円形の押型文が施されているが押型文部分の一部がなでで消されている。集石22から出土した。492～512は胴部である。495・506は外面の押型文が一部なでで消されている。513～516は底部である。517は完形品である。平底で胴部はまっすぐに立ち上がり口縁部は外反する。外面は山形の押型文と貝殻刺突文が不規則に施されている。口縁部内面上部に貝殻刺突文が施されている。底部外面は条痕文が施されている。518は苺の表面状の文様が施されている。

XI類土器 (第70図 519～522)

XI類土器は口縁部が大きく外反し、頸部でくびれ、胴部中央部よりやや下方で「く」の字状に張り出す器形をもつ土器である。

519・521・522は山形の押型文が施されている。

521・522は同一個体である。520は上部に山形の押型文、下部に撚糸文が施されている。

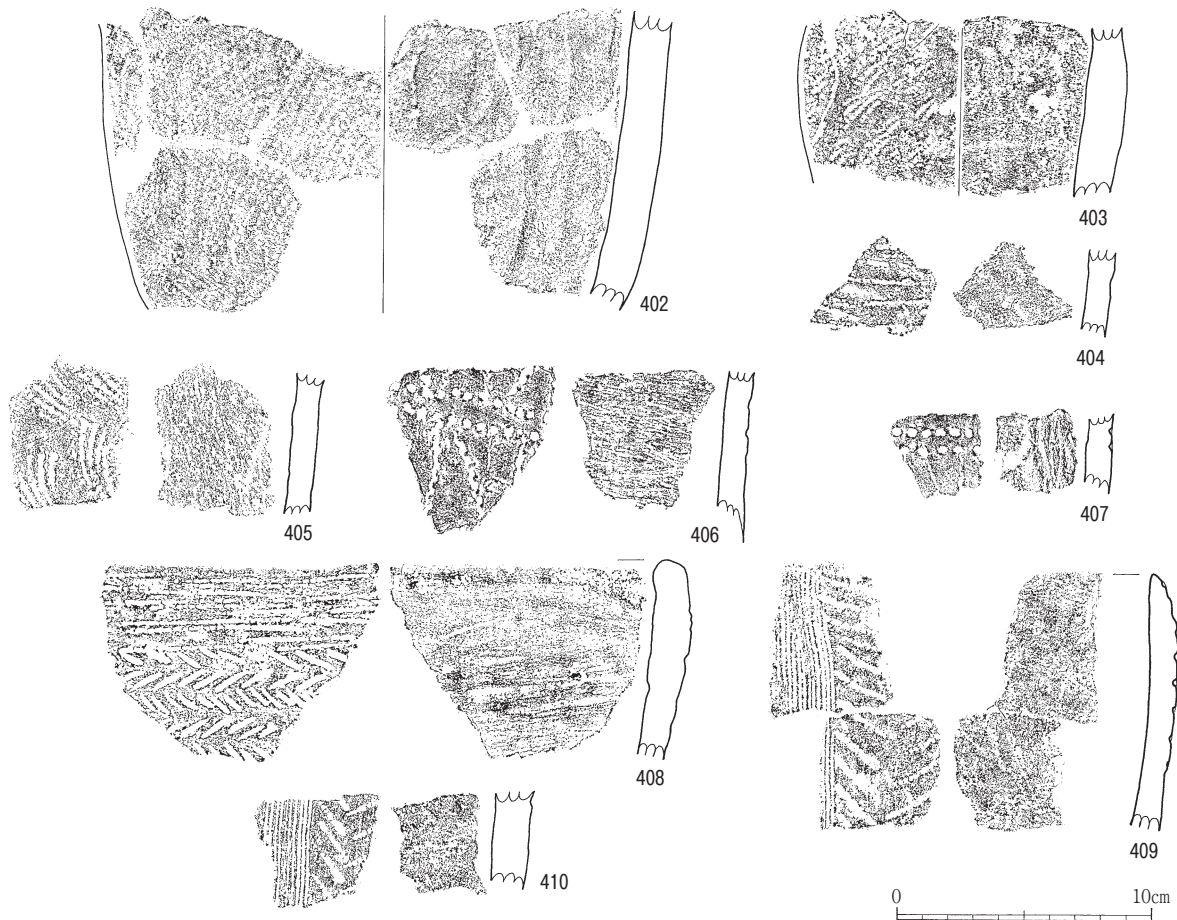
XII類土器 (第70図 523～528)

XII類土器は縄文が施されているものである。523～527は口縁部である。523～526は口唇部に縄文が施され棒状の工具による連続した刺突文が施されている。524は集石18から出土した。528は胴部である。

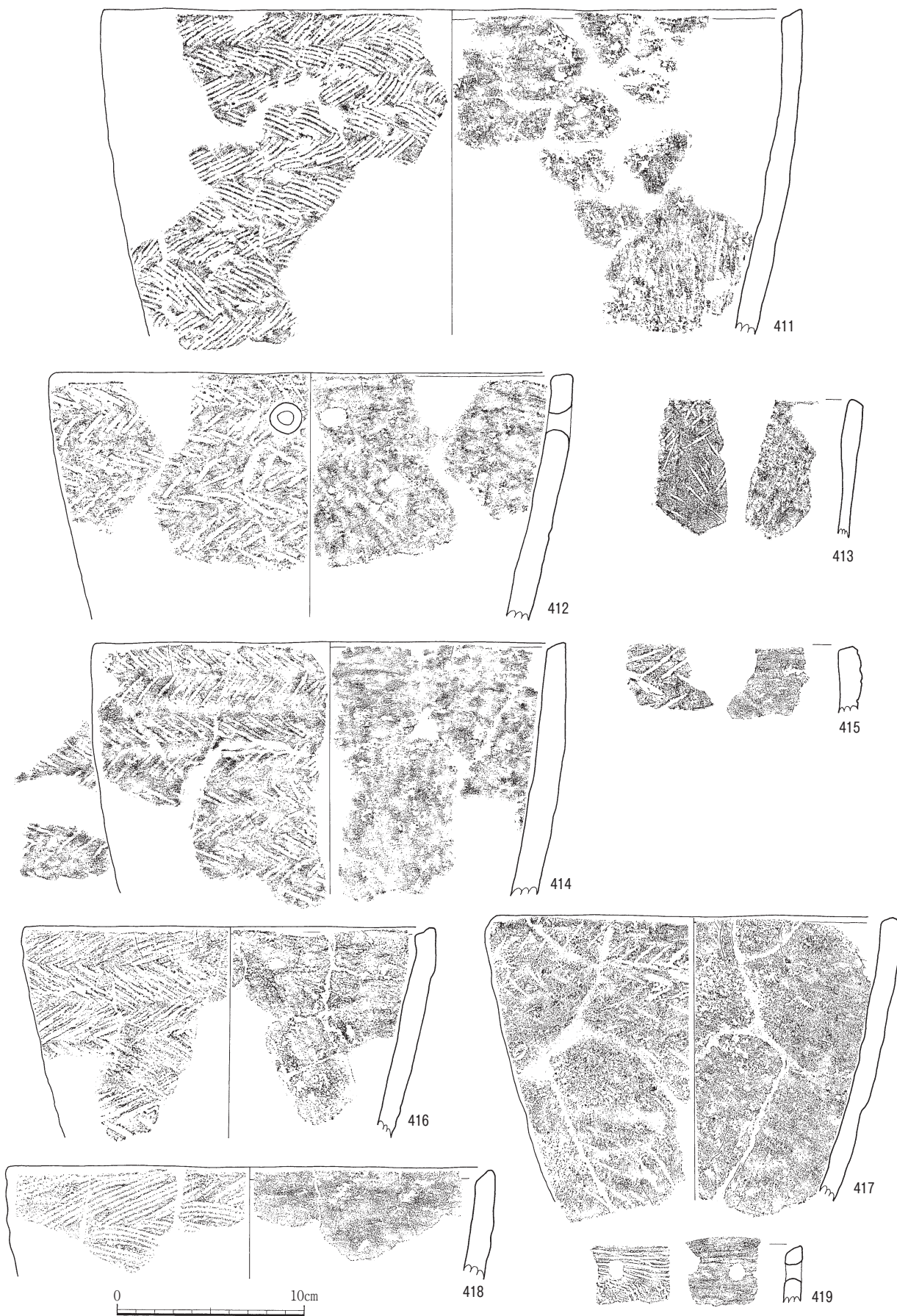
XIII類土器 (第71図・第72図 529～556)

XIII類土器は、円筒形もしくは口縁部がラッパ状に開き、胴部は垂直に伸びる形態のものである。XIII類土器は文様により2つに分類した。XIII aは貝殻刺突文と条痕文が施されるものである。XIII bは沈線文と撚糸文が施されるものである。

529は完形である。口唇部は水平で口縁部上端に貝殻刺突文が施され細かな波状を呈する。胴部の上部に連続した貝殻刺突文が3条廻り、胴部下には貝殻による沈線文が斜位に施されている。530・531は口縁部が大きく開き口唇部に貝殻刺突文が施され



第59図 縄文時代早期 土器28 (VI・VII類)



第60図 縄文時代早期 土器29 (Ⅷ類)

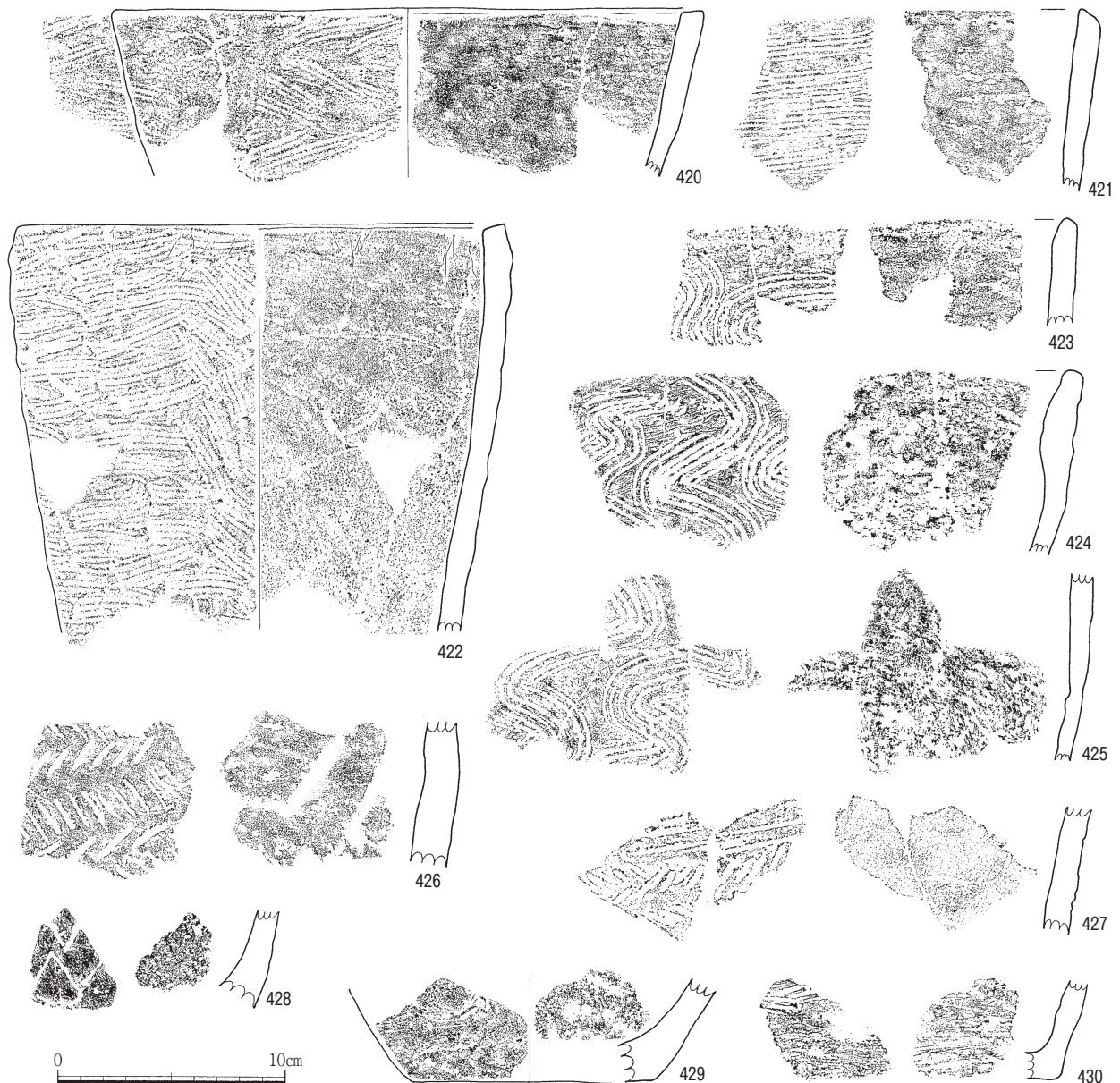
ている。口縁部上部に2～3条の沈線その下に連続した貝殻刺突文さらにその下に沈線が施されるものである。532～544は胴部である。532・533・535～537は貝殻刺突文の下に横位の沈線文が廻りその下に縦位の条痕文が施されるものである。538～544は貝殻もしくは櫛状の施文具により斜位、横位の条痕文が施されている。

545～550はラッパ状に開く口縁部である。口唇部に刻目が施されている。外面に数条の沈線文が施されている。551～556は胴部である。551は屈曲部分である。552・553は撚糸文が施され、沈線文が横位、

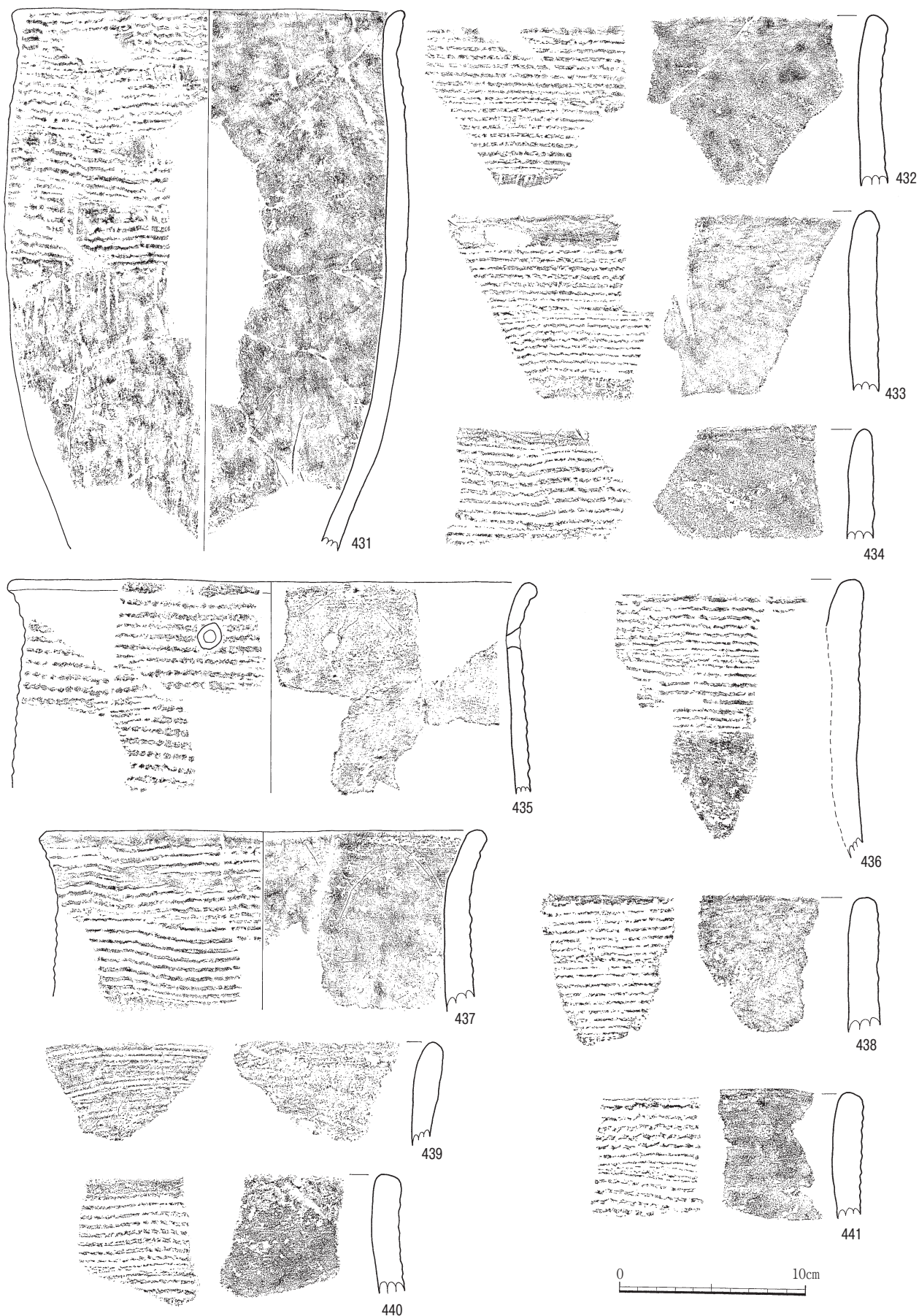
斜位に施され、刺突文が施されるものである。552の撚糸文は間隔を置きながら施されている。554、555は沈線区画を施文し、その区画内を撚糸文で充当するものである。556は撚糸文が施されている。

XV類土器 (第73図 557～567)

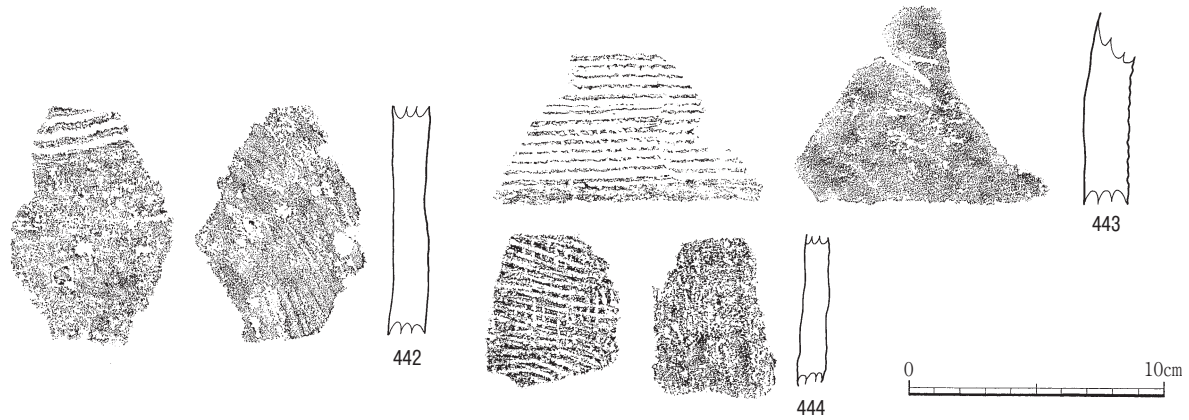
XV類土器は11点である。口縁部が緩やかに立ち上がり外面に条痕文が施されるものである。557～560は口縁部である。口縁部上端に横位の条痕文、その下に縦位、斜位の条痕文が施されている。561～566は胴部である。567は底部である。



第61図 縄文時代早期 土器30 (VIII類)



第62図 縄文時代早期 土器31 (Ⅸ類)



第63図 縄文時代早期 土器32 (Ⅸ類)

XV類土器 (第74図 568~572)

早期の特徴を持つものの、細分化が不可能なものを一括してXV類として扱った。568は斜位の条痕文が施されている。569は横位、縦位の条痕文が施されている。円形の補修孔が穿たれている。570は棒状の工具による刺突文が施されている。571は口縁

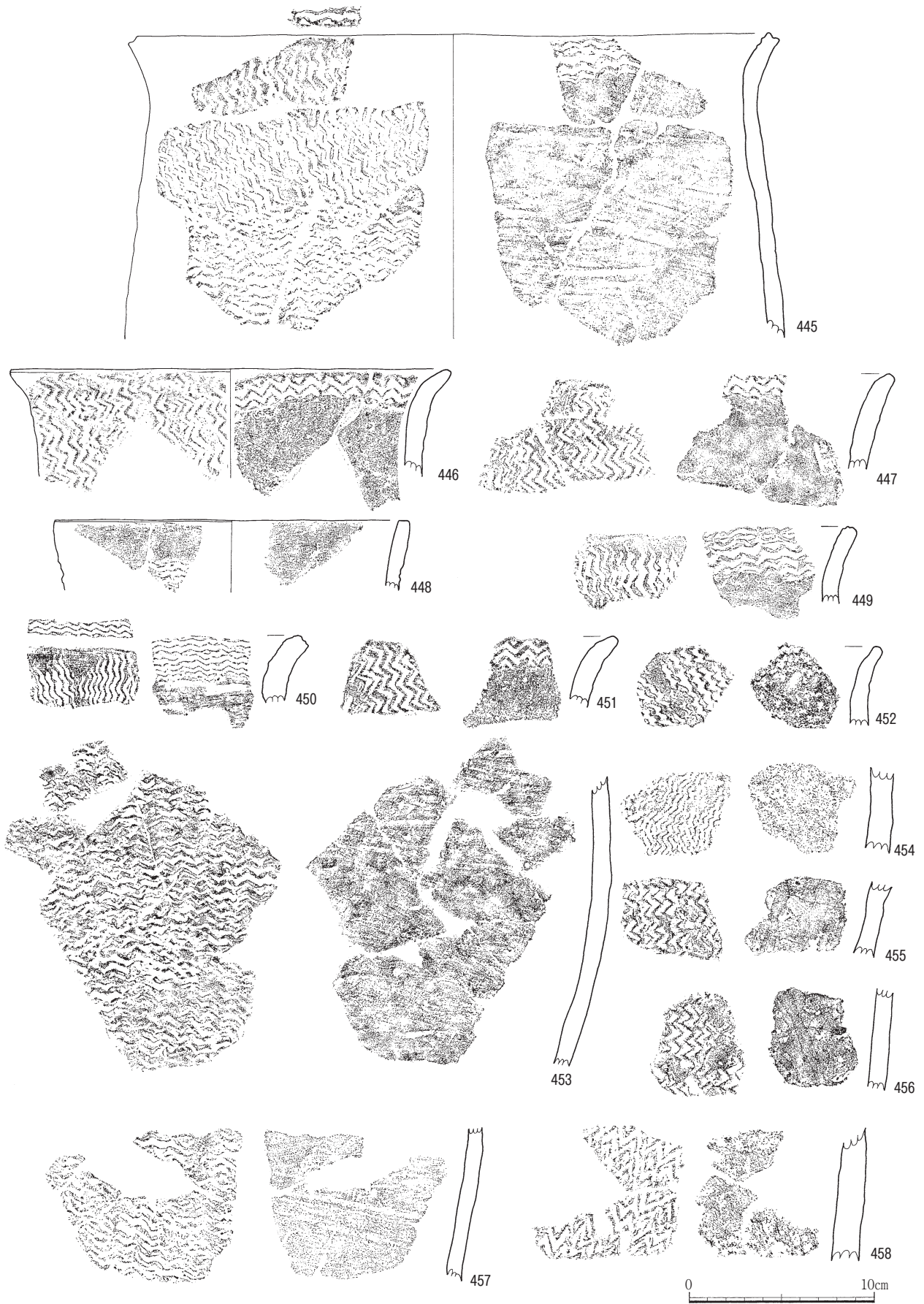
部上端に貝殻刺突が施されている。その結果、刺突文以外の部分に粘土の隆起が見られる。

XVII類土器 (第74図 572・573)

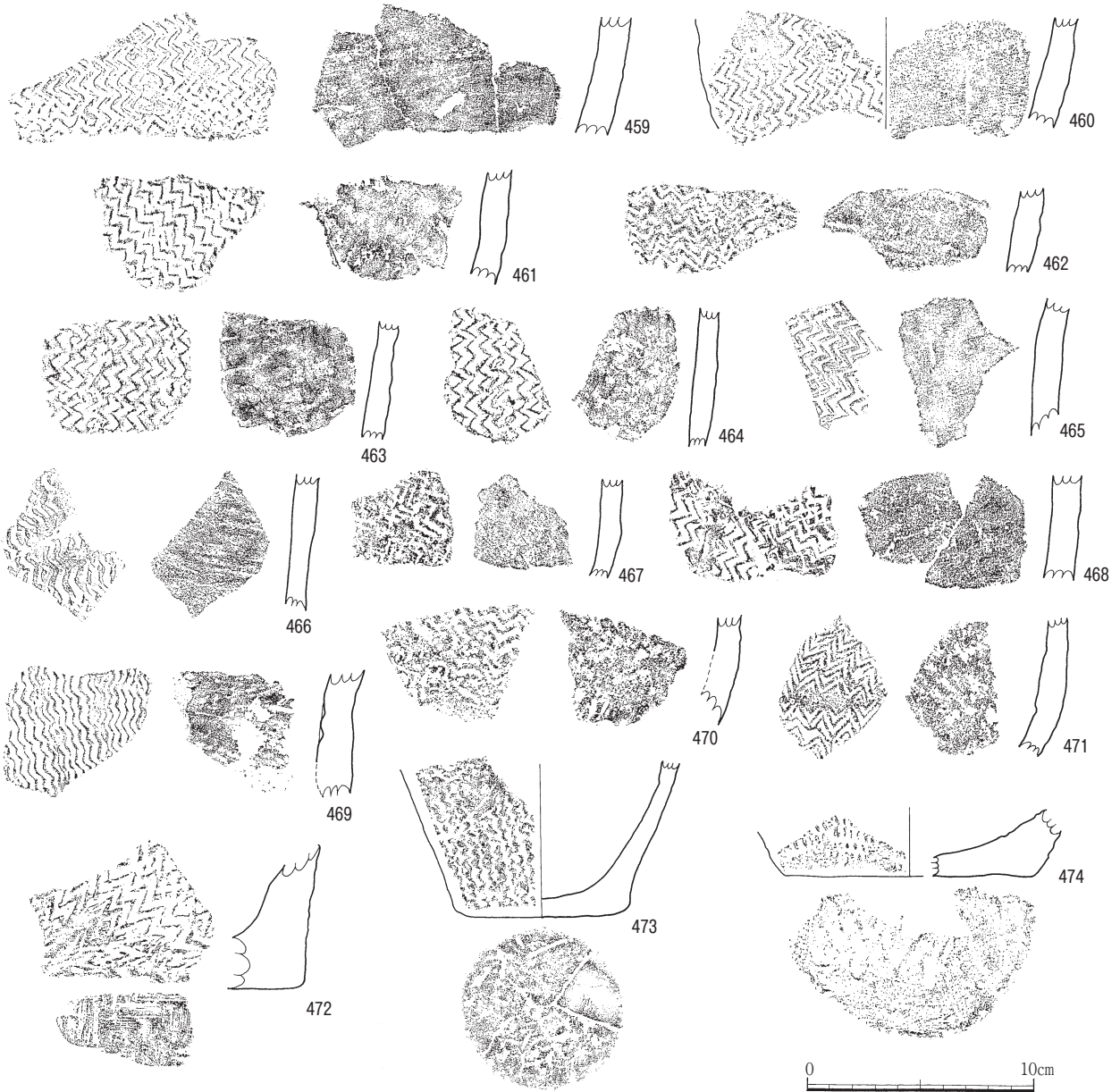
無文の土器をXVII類とした。572・573の2点である。円筒形で口縁部がやや開いている。

縄文時代早期土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第32図	44	M-14	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	45	M-14	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	46	M-13	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	47	R-21	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	48	N-14	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	49	M-14	Ⅳ	口縁部	黒褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	50	M-13・14	Ⅳ	完形	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	I	
	51	L-14・15	Ⅳ	口縁部	赤褐	橙	○	○	○	微量	良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文・ヘラケズリ	I	
	52	N-15	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	53	N-14	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	54	N-15	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	55	M-14	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	56	N-15	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	I	
第33図	57	M-14	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	I	補修孔
	58	M-15	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	貝殻条痕文・ナデ	I	
	59	N-14	Ⅳ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	I	
	60	N-14	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	I	
	61	K-13	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	62	K-13	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	63	M-15	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	朱塗り
	64	R-21	Ⅳ	口縁部	暗赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	65	M-14	Ⅳ	胴部	暗赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	I	
	66	N-14	Ⅳ	胴部	黒褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	貝殻条痕文・ナデ	I	
	67	M-15	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
	68	M-14	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	貝殻条痕文	I	内面スス付着
	69	M-15	Ⅳ	底部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I	
70	N-15	Ⅳ	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	I		
71	L-14	Ⅳ	底部	浅黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ヘラケズリ	I		
72	M-14	Ⅳ	底部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	I		
第34図	73	M-13	Ⅳ	口縁部	明赤褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II	
	74	M-14	Ⅳ	口縁部	赤褐	にぶい黄橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文・ナデ	II	
	75	M-14	Ⅳ	口縁部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	II	補修孔



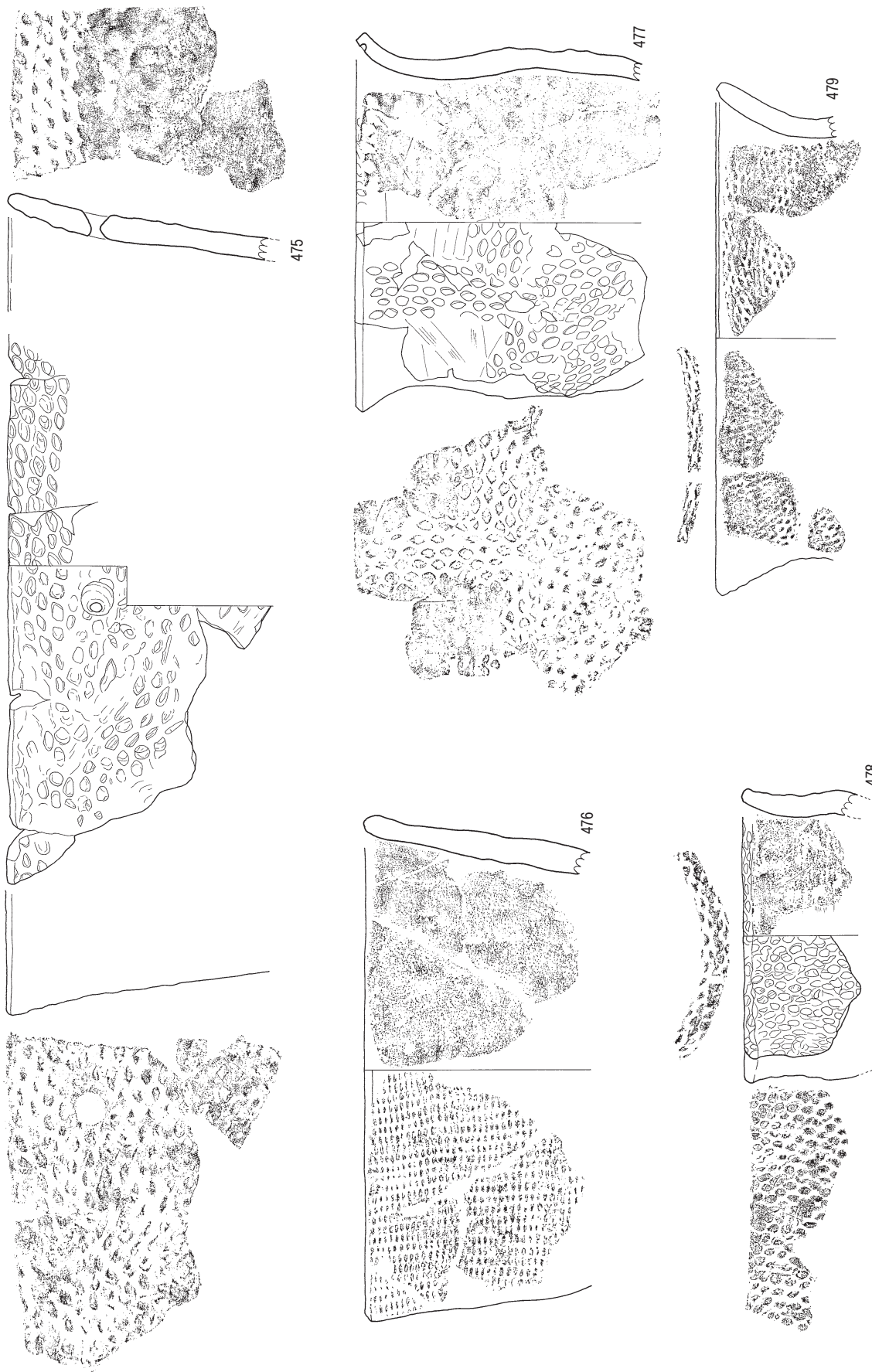
第64図 縄文時代早期 土器33 (X類)



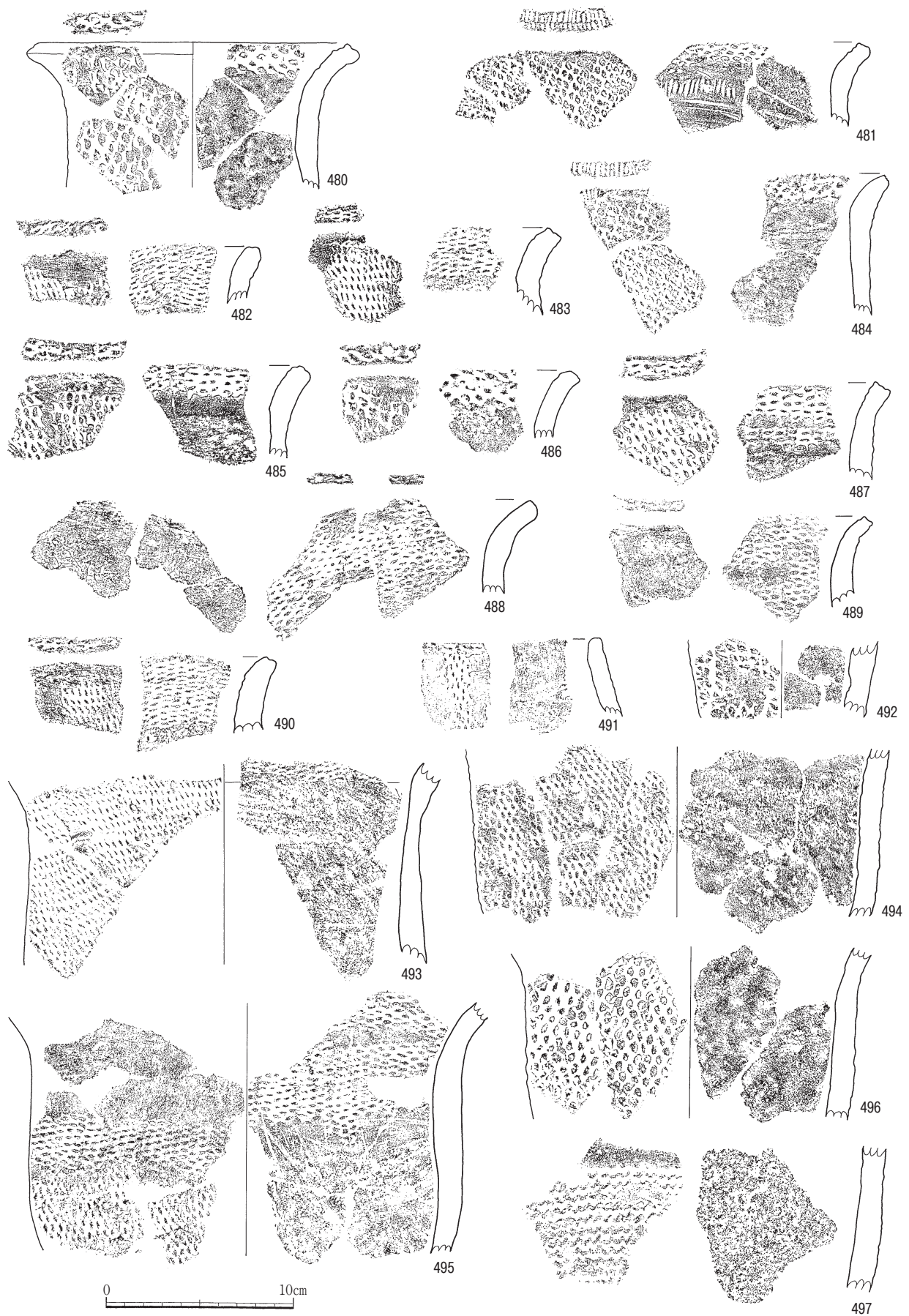
第65図 縄文時代早期 土器34 (X類)

縄文時代早期土器観察表

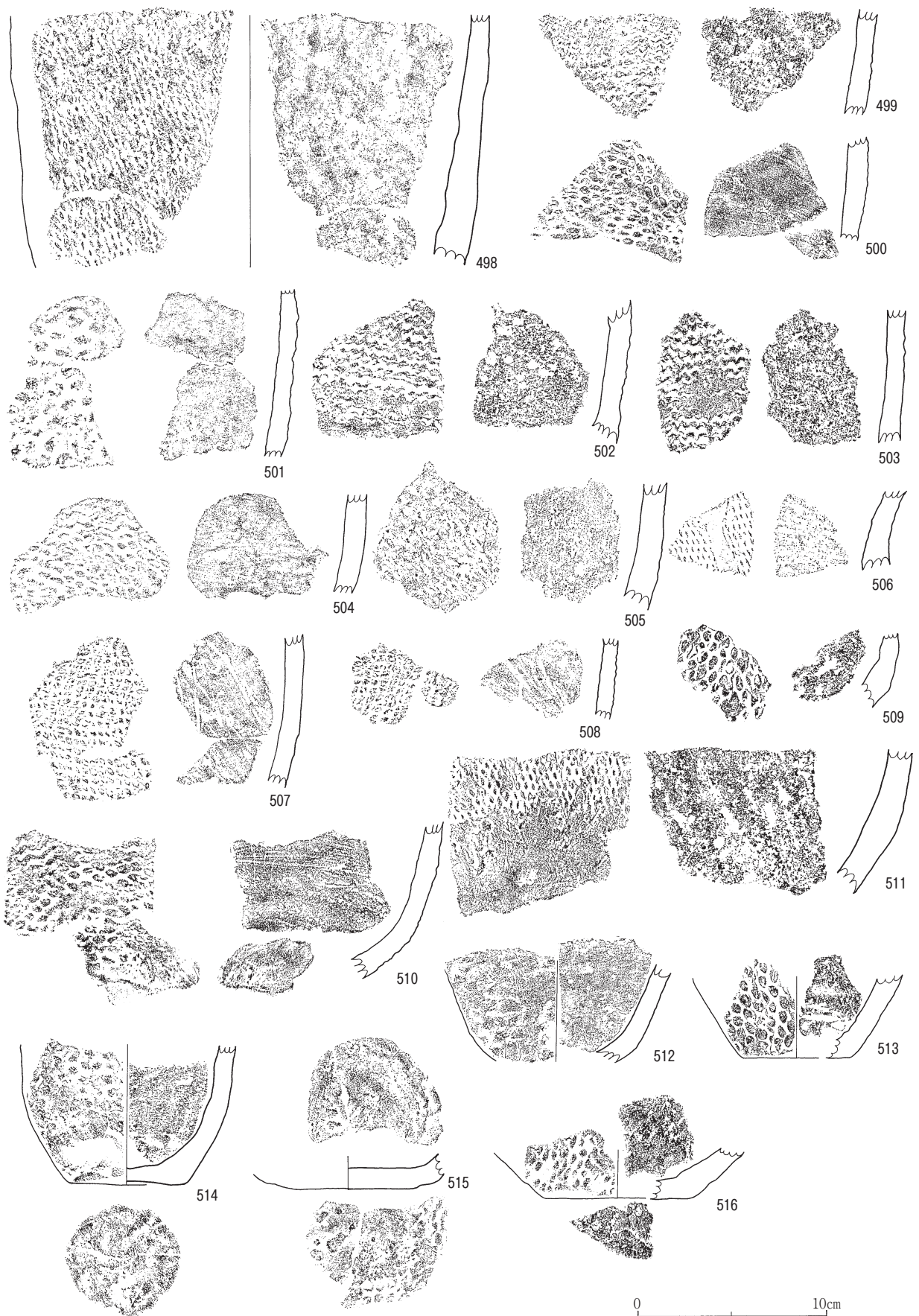
挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考	
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面			
第 34 図	76	M-14	IV	口縁部	褐灰	にぶい橙		○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	II		
	77	M-14	IV	口縁部	明褐灰	橙	○	○	○		良	ヘラによる刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	78	M-14	IV	口縁部	明赤褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	79	M-14	IV	口縁部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	II		
	80	N-14	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	81	L-14	IV	口縁部	褐灰	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	82	M-15	IV	口縁部	浅黄橙	赤	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	83	Q-20	IV	口縁部	黒褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	84	Q-21	IV	口縁部	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	II		
	85	T-22	IV	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	棒状刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	II		
	86	M-13	IV	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	貝殻条痕文	II		
	87	M-14	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	II		
	第 35 図	88	N・O-15	IV	口縁部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	III	
		89	R-21	IV	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	III	
90		N-15	IV	口縁部	浅黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	III		
91		S-20	IV	口縁部	にぶい橙	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	III		
92		N-15	IV	口縁部	橙	明褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	III		



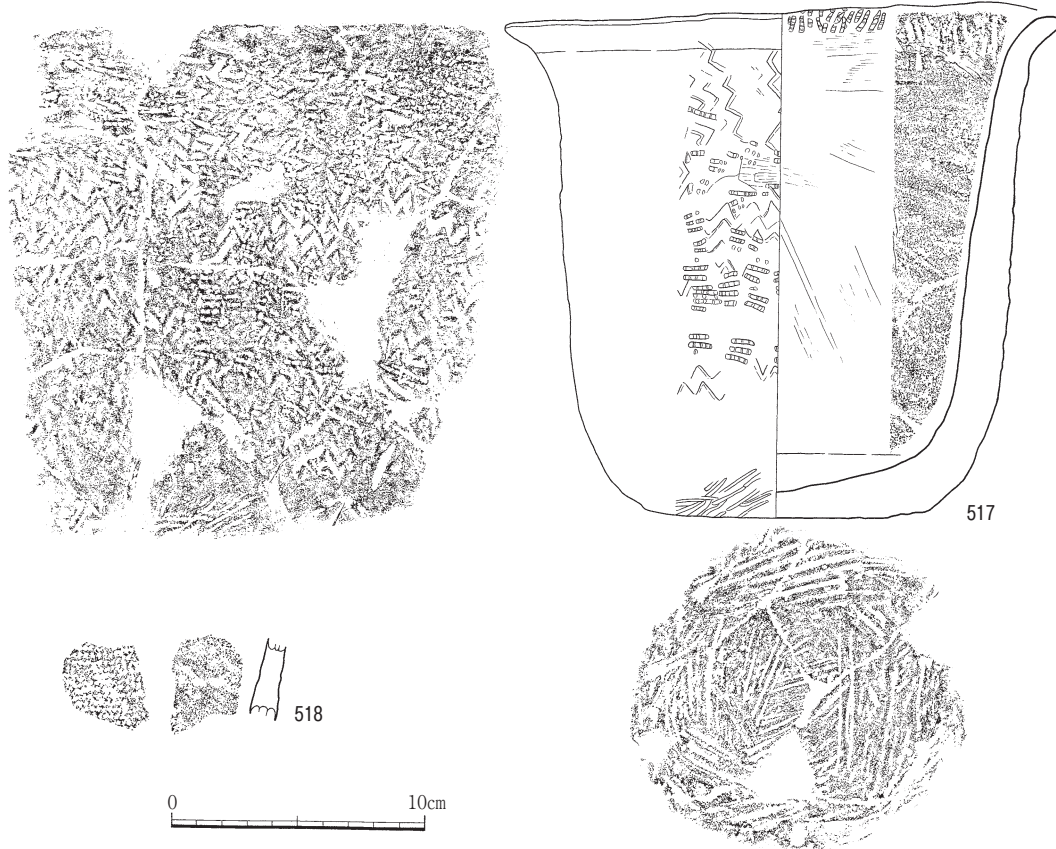
第66図 縄文時代早期 土器35 (X類)



第67図 縄文時代早期 土器36 (X類)



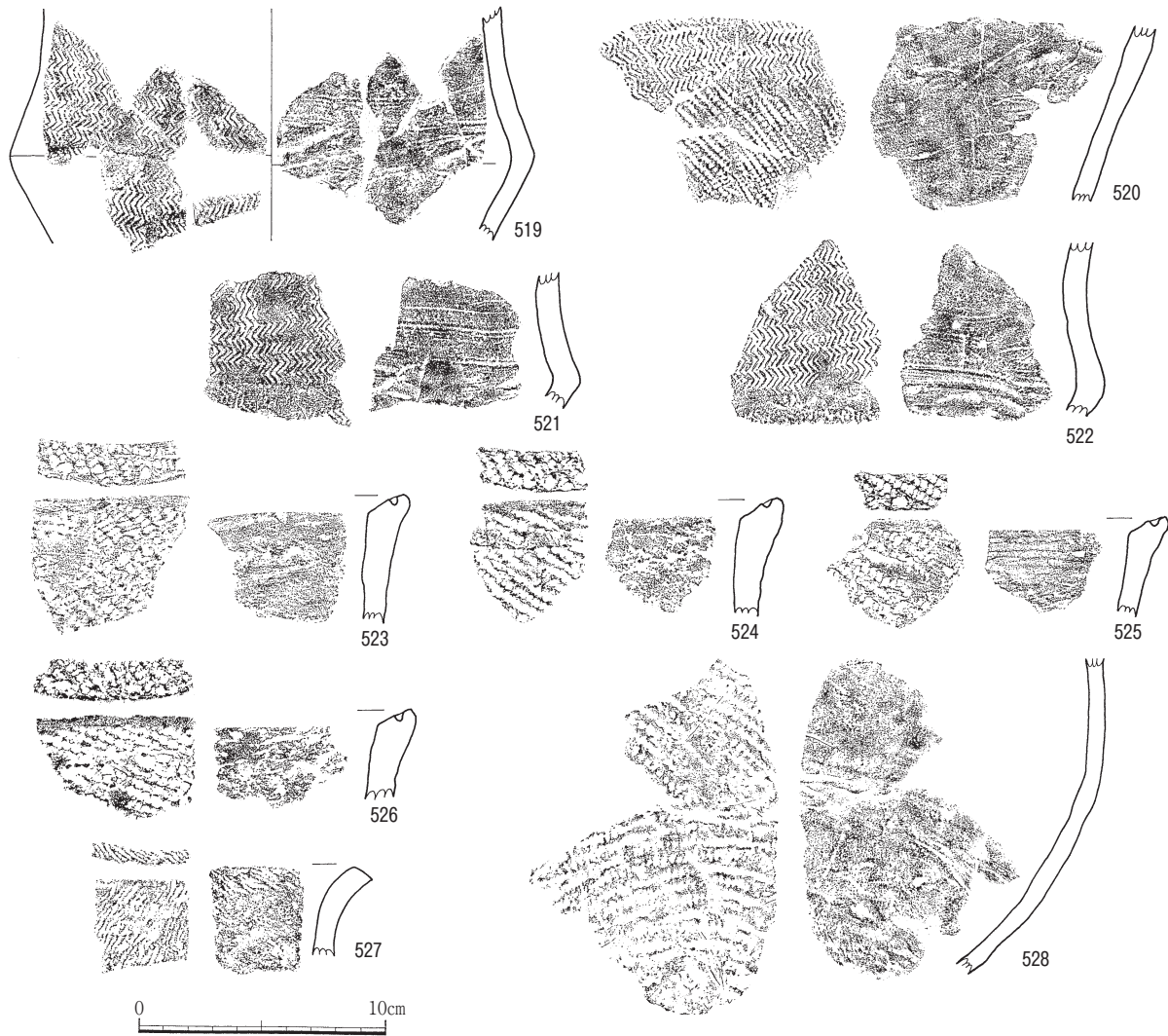
第68図 縄文時代早期 土器37 (X類)



第69図 縄文時代早期 土器38 (X類)

縄文時代早期土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第 35 図	93	R-21	IV	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	94	N-15	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	95	M-15	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	96	O-16	IV	口縁部	橙	橙			○		良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ	
	97	P-21	IV	口縁部	赤褐	灰褐	○	○			良	貝殻刺突文	ナデ	Ⅲ	
	98	O-16	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	Ⅲ	
	99	N-15	IV	胴部	にぶい赤褐	暗赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	補修孔
	100	O-16	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	101	N-15	IV	胴部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	Ⅲ	
	102	O-16	IV	胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
第 36 図	103	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	Ⅲ	
	104	Q-21	IV	口縁部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	105	N-15	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ	
	106	S-20	IV	胴部	赤褐	褐灰	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	107	N-15・O-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	108	N-14	IV	胴部	暗灰黄	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	109	R-20	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ	
	110	M-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	111	O-15・16	IV	胴部	赤褐	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	112	R-21	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	113	Q-20	IV	胴部	浅黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	114	S-20	IV	胴部	灰褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	115	N-14・15	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	小礫	良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	116	R-20	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	117	R-19	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
118	N・O-16	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
119	N-15	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
120	P-21	IV	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
121	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ		
122	S-21	IV	胴部	赤褐	灰褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
123	M-15	IV	胴部	浅黄橙	褐灰	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
124	S-20	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ		
125	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		



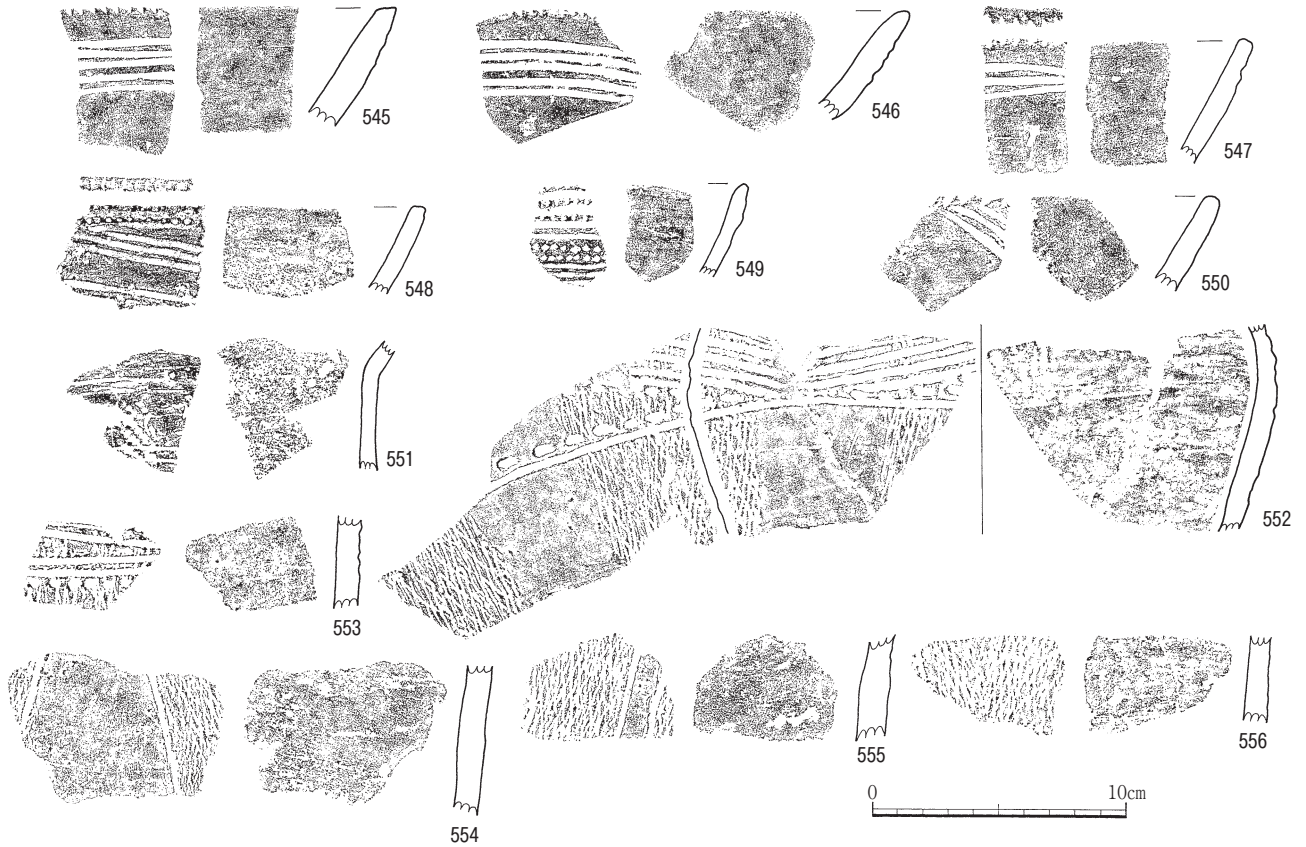
第70図 縄文時代早期 土器39 (XI・XII類)

縄文時代早期土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第37図	126	P-21	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	補修孔
	127	N-15	IV	口縁部	褐灰	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	128	Q-20	IV	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	129	J-14	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	130	J-14	IV	胴部	橙	灰褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	131	J-14	IV	胴部	橙	にぶい橙	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	132	J-14	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	133	J-14	IV	胴部	暗褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	134	J-14	IV	胴部	褐灰	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	135	P-20	IV	胴部	黒褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	136	N-15	IV	胴部	橙	にぶい橙		○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	137	J-14	IV	胴部	黒褐	橙		○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	138	N-15	IV	胴部	橙	橙	○		○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ	
	139	N-15	IV	胴部	褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ	
	140	S-21	IV	底部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
	141	Q-20	IV	底部	明赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ	
	142	M-15	IV	底部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ	
143	O-15	IV	底部	橙	橙	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	Ⅲ		
144	Q-20	IV	底部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	Ⅲ		
145	O-15	IV	底部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	Ⅲ		
146	O-16	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良		ナデ	Ⅲ		
第38図	147	N-15	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	148	N-15	IV	口縁部	明赤褐	にぶい橙			○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	149	Q-20	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	押引文	ハラケズリ後ナデ	IV	



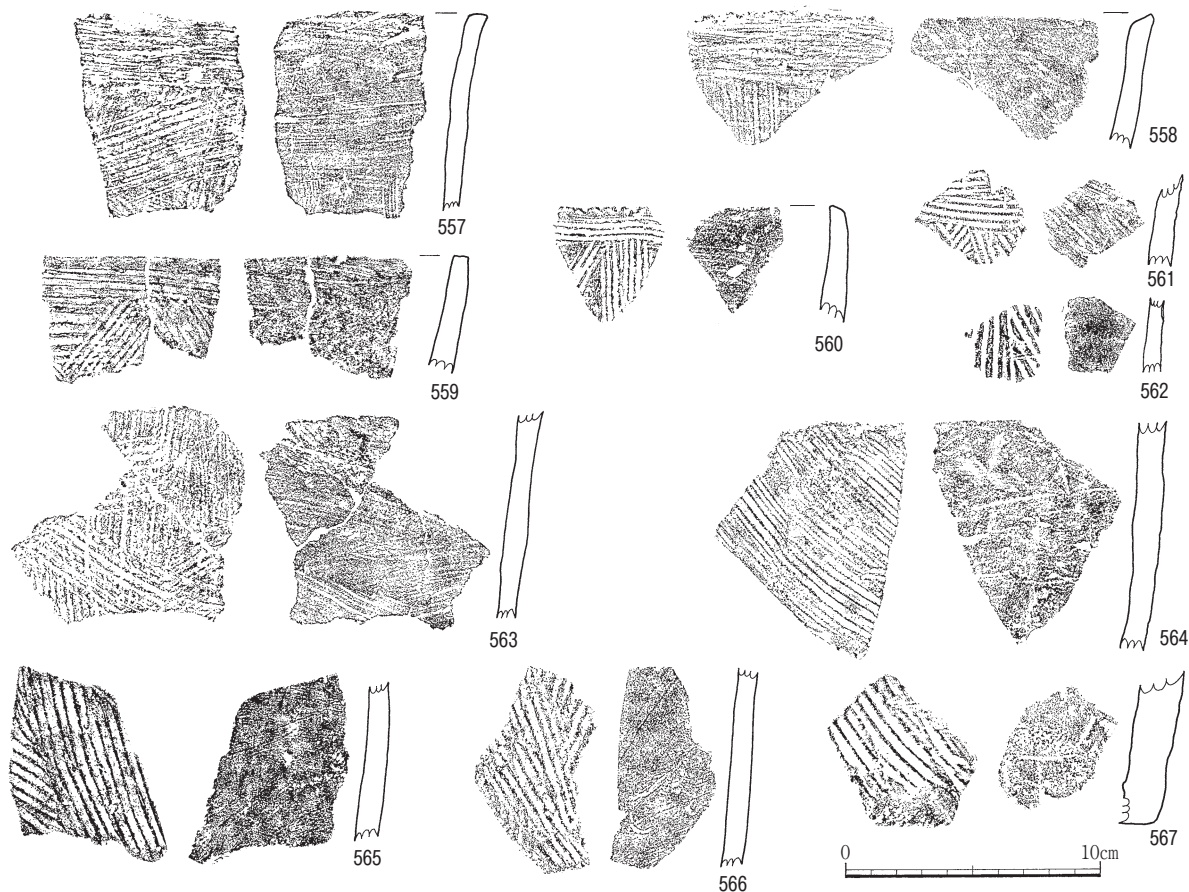
第71図 縄文時代早期 土器40 (XIII類)



第72図 縄文時代早期 土器41 (XIII類)

縄文時代早期土器観察表

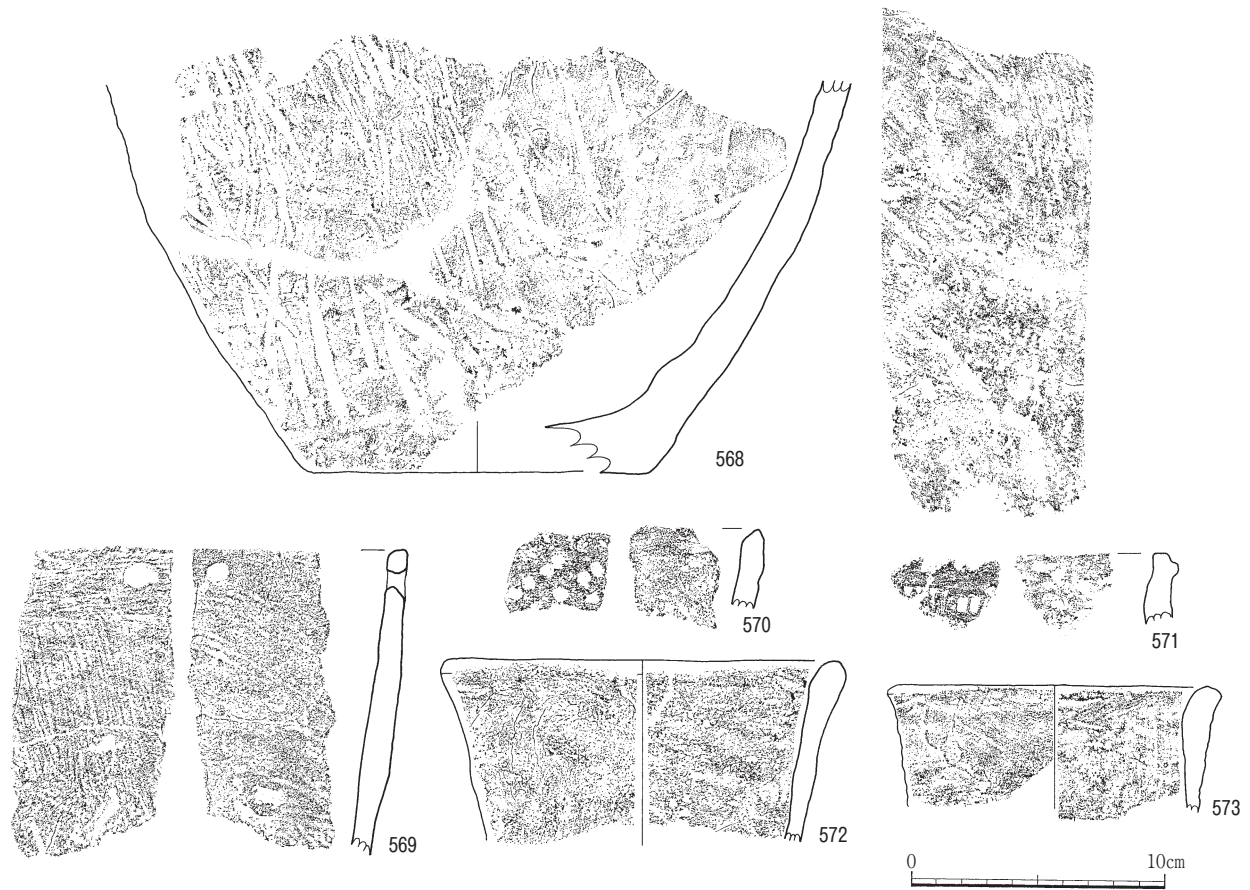
挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第38図	150	N-15	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○		○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	151	O-16	IV	口縁部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	152	R・S-20	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	153	R-18	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	154	P-21	IV	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	155	N-15	IV	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		良	押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	156	N-15	IV	胴部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○			良	押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
第39図	157	O-16	IV	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	158	N-15	IV	口縁部	にぶい橙	明赤褐	○	○	○		良	押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	159	N-15	IV	口縁部	橙	明褐	○	○	○		良	押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	160	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	161	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	162	N-15	IV	胴部	橙	橙	○		○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	163	R-19	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	164	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	165	N-15	IV	胴部	橙	橙	○		○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	166	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	167	N-15	IV	胴部	橙	橙	○		○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	168	N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	169	N-15	IV	胴部	橙	橙	○		○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
第40図	170	N-15	IV	底部	浅黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	171	N-15	IV	底部	橙	橙	○	○			良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	172	R-17	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	173	N-15	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻押し文	ハラケズリ後ナデ	IV	
	174	Q-20	IV	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	175	O-21	IV	口縁部	赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	176	R-20	IV	口縁部	明褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	177	S-21	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	178	P-19	IV	口縁部	橙	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	179	P-21・Q-20	IV	口縁部	赤褐	暗褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
180	Q-19	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		
181	R-19	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		



第73図 縄文時代早期 土器42 (XIV類)

縄文時代早期土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土					焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他	外面		内面			
第 40 図	182	S-18	IV	口縁部	暗赤褐	暗赤褐	○	○				良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	183	R-20・S-21	IV	口縁部	暗赤褐	にぶい赤褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	184	Q-19	IV	口縁部	赤褐	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	185	R-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	186	Q-17・18	IV	口縁部	灰黄褐	○	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	187	Q-19	IV	口縁部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	188	S-20	IV	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	189	Q-19	IV	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・竹管文	ハラケズリ後ナダ	V	
第 41 図	190	P-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	191	Q-19・20	IV	口縁部	浅黄橙	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	192	Q-20	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○			良	貝殻条痕文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	193	P・Q-20	IV	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	194	P-21	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	補修孔
	195	M-14	IV	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ナダ	V	
第 42 図	196	Q-20	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	197	Q-19	IV	口縁部	暗褐	にぶい褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	198	Q-19・20	IV	口縁部	赤褐	赤褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	199	R-21	IV	口縁部	黄褐	灰褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	200	S-20	IV	口縁部	橙	灰褐	○	○				良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	201	P-21	IV	口縁部	橙	橙	○		○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	202	P-19	IV	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	203	Q-19・P-21	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	204	R-21	IV	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	205	Q-20	IV	口縁部	橙	褐	○	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
第 43 図	206	R-21	IV	口縁部	灰褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文	ナダ	V	
	207	Q-20	IV	口縁部	赤褐	褐	○	○				良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	208	R-21	IV	口縁部	明黄褐	黒褐	○	○				良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナダ	V	
	209	Q-21	IV	完形	にぶい橙	橙	○	○	○			良	貝殻条痕文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	210	P-16	IV	口縁部	橙	橙	○	○				良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ	V	補修孔
	211	Q-20	IV	口縁部	明赤褐	赤褐	○	○				良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	
	212	-	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナダ	V	



第74図 縄文時代早期 土器43 (XV・XVI類)

縄文時代早期土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第43図	213	R-21	IV	口縁部	黒褐	赤褐	○	○		小礫	良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	214	Q-19	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	215	Q-19	IV	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	216	O-15	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	217	Q-19	IV	口縁部	赤褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	218	Q-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・沈線文	ハラケズリ後ナデ	V	
第44図	219	Q・R-21	IV	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	補修孔
	220	P-21・Q-19	IV	口縁部	橙	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	221	P-20・Q-19	IV	口縁部	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
第45図	222	Q-19	IV	完形	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	223	Q-19	IV	口縁部	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	224	Q-20	IV	口縁部	灰黄褐	灰	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	225	Q-19	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	226	Q-21	IV	完形	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	227	Q-20	IV	口縁部	暗灰黄	暗灰黄	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	228	Q-19	IV	口縁部	にぶい橙	浅黄橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
229	Q-19	IV	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ナデ	V		
第46図	230	Q-19	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	231	R-21	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	補修孔
	232	P-21	IV	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	233	Q-21	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	234	Q-19	IV	口縁部	赤褐	暗赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	235	P・Q-19	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	236	Q-19	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	237	P-21	IV	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	238	O-21	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	239	Q-19	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
第47図	240	P-21	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・綾杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	241	R-21	IV	口縁部	褐	灰褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	242	-	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	

縄文時代早期土器観察表

挿入番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第47区	243	Q-20	IV	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	244	Q-20	IV	口縁部	橙	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	V	
	245	Q-20	IV	口縁部	褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	246	R-19	IV	口縁部	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	247	R-18	IV	口縁部	黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	248	P-19・Q-20	IV	口縁部	橙	○	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	249	Q-20	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	250	R-21	IV	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	251	S-20	IV	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	V	
252	R-19	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		
第48区	253	Q-20	IV	口縁部	暗赤褐	赤褐	○	○			良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ナデ	V	
	254	Q-20	IV	口縁部	褐灰	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	255	Q-19	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	256	R-21	IV	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	257	Q-19	IV	口縁部	浅黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	258	P-20	IV	口縁部	暗赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	259	Q-21	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	260	E-10	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	261	Q-19	IV	口縁部	橙	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
262	R-20	IV	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		
263	Q-21	IV	口縁部	灰褐	暗赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V		
第49区	264	S-20	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ナデ	V	
	265	S-21	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	266	S-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	267	R-21	IV	口縁部	褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	268	R-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	269	S-20	IV	口縁部	橙	にぶい黄	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	270	S-20	IV	口縁部	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	271	Q-19	IV	口縁部	浅黄橙	橙	○				良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	272	S-21	IV	口縁部	橙	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
273	Q・S-19	IV	口縁部	暗赤褐	暗赤	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		
第50区	274	S-21	IV	口縁部	灰褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	補修孔
	275	R-20・21	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	276	N-15	IV	口縁部	暗褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	277	S-20	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	278	S-21・T-20	IV	口縁部	黒褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	279	S-20	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	280	S-20	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	281	S-21	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	282	S-21	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	283	Q-19	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	284	Q-19	IV	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	285	R-20	IV	口縁部	褐灰	褐灰	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
第51区	286	Q-19	IV	口縁部	赤	赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	287	Q-19	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○		○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	288	Q-20	IV	口縁部	橙	○	○	○			良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	289	Q-19	IV	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
第52区	290	Q-19・R-18・21	IV	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	291	S-20	IV	口縁部	赤	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	292	S-20	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	293	S-20	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄	○	○			良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	294	S-21	IV	口縁部	赤褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	295	Q-21	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	296	S-20	IV	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	297	S-21	IV	口縁部	褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ハラケズリ	V	
第53区	298	R-18	IV	口縁部	橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ハラケズリ後ナデ	V	
	299	R-21	IV	口縁部	にぶい黄褐	褐灰	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	300	R-21	IV	口縁部	暗灰黄	暗灰黄	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	301	T-22	IV	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	302	R-19	IV	胴部	暗赤褐	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	303	S-20	IV	胴部	褐	褐	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	304	M-15	IV	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ	V	
	305	Q-19	IV	胴部	赤褐	褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	306	Q-19	IV	胴部	暗灰黄	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・縹杉状貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
307	R・S-21	IV	胴部	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V		
第54区	308	Q-19	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	309	S-21	IV	胴部	褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ハラケズリ後ナデ	V	
	310	Q-19	IV	胴部	赤褐	橙	○				良	貝殻条痕文	ハラケズリ	V	

縄文時代早期土器観察表

挿入 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第 54 区	311	R-20	IV	胴部	赤褐	橙		○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	312	R-19	IV	胴部	赤	赤褐	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	313	P-21	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	集石24から出土
	314	Q-20	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	315	Q-19	IV	胴部	橙	橙	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	316	P-21	IV	胴部	黒褐	にぶい橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	317	-	-	-	胴部	赤	赤	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	318	-	-	-	胴部	黒褐	黄褐	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ ナデ	V	
	319	Q-20	IV	胴部	橙	橙			○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	320	Q-19	IV	胴部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
第 55 区	321	Q-19	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	322	R-19	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	323	R-19	IV	胴部	橙	橙			○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	324	Q・R-19・R-20	IV	胴部	褐	橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	325	N-14	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	326	S-20	IV	胴部	赤褐	赤	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	327	M-14	IV	胴部	褐	橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	328	R-18	IV	胴部	にぶい黄	灰黄	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	329	Q-19	IV	胴部	にぶい黄橙	黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	330	P-20	IV	胴部	暗褐	橙	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文・貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	331	Q-19	IV	胴部	暗灰黄	黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	V	
	332	S-20・P-19	IV	胴部	灰	黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	333	Q-20	IV	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ナデ	V	
	334	P-21	IV	胴部	にぶい黄褐	黄灰	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	335	P-20	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	336	S-21	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	337	Q-20	IV	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	338	N-15・P-21	IV	胴部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
第 56 区	339	P-21	IV	底部	橙	橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	340	Q-19	IV	底部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	341	R-19	IV	底部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	342	S-20	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	343	R-20	IV	底部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	344	Q-20	IV	底部	橙	橙		○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	345	Q・R-19	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	346	Q-19	IV	底部	黒褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	集石20より出土
	347	Q-19	IV	底部	赤褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文・刻目	ナデ	V	
	348	Q-19	IV	底部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕文・刻目	ナデ	V	
	349	P-19	IV	底部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文・刻目	ナデ	V	
	350	R-20	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	351	Q-20	IV	底部	橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	352	S-21	IV	底部	赤褐	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	353	Q-19	IV	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	V	
	354	R-21	IV	底部	黄灰	黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文・刻目	ヘラケズリ・ナデ	V	
	355	Q-20	IV	底部	橙	明赤褐	○		○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	356	R-20	IV	底部	黒褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	357	R-19	IV	底部	黒褐	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	358	R-18	IV	底部	橙	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
359	R-19	IV	底部	黒褐	黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V		
360	S-21	IV	底部	黒褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V		
361	S-21	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	貝殻条痕文	V		
362	S-20	IV	底部	黒褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V		
363	Q-21	IV	底部	黒褐	橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V		
第 57 区	364	Q-19	IV	底部	黒褐	橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	365	Q-20	IV	底部	明黄褐	橙		○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	366	R-19	IV	底部	にぶい褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	367	R-21	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	368	P-20	IV	底部	明赤褐	橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	369	N-14	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	370	R-20	IV	底部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○		良	綾杉状貝殻条痕文	ヘラケズリ・ナデ	V	
	371	Q-19	IV	底部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	V	
	372	S-20	IV	底部	黒褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	373	R-18	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	374	Q-20	IV	底部	明褐	橙	○				良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	375	Q-19	IV	底部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	V	
	376	Q-21	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V	
	377	K-13	IV	底部	明黄褐	明黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文・ナデ	ヘラケズリ	V	
	378	R-19	IV	底部	灰褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	V	

縄文時代早期土器観察表

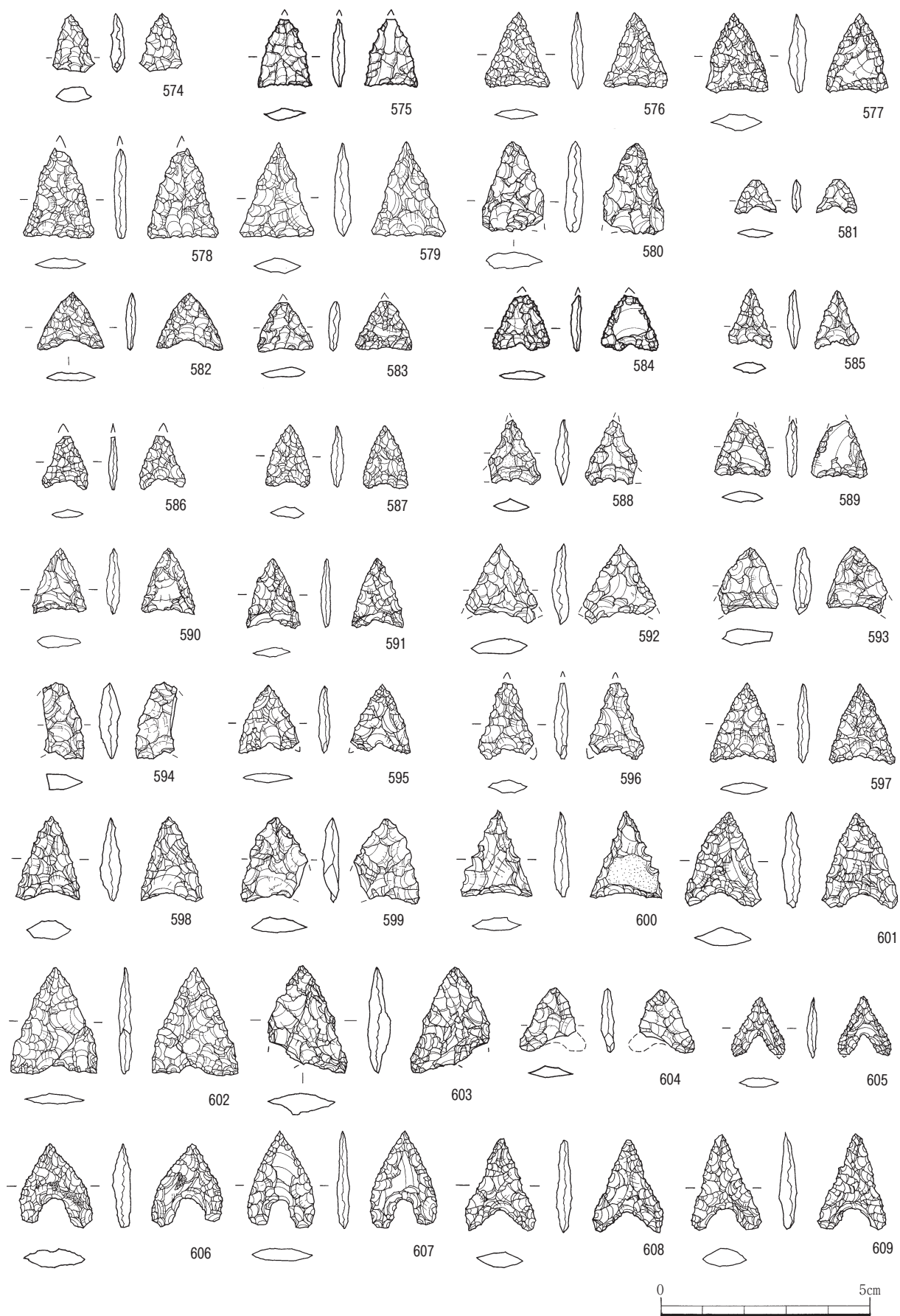
挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考	
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		調整				
												外面	内面			
第57 図	379	M-14	IV	底部	橙	にぶい橙		○	○		良	貝殻条痕文・ナデ	ヘラケズリ・ナデ	V		
	380	N-15	IV	底部	浅黄	浅黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	V		
	381	R-20	IV	底部	黒褐	浅黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	V		
	382	Q-17	IV	底部	にぶい橙	黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ・ナデ	V		
第58 図	383	R-19・Q-19	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	貝殻押引文	ヘラケズリ	VI		
	384	T-21	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻押引文	ヘラケズリ	VI		
	385	R-21	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	386	E-9	IV	口縁部	浅黄	明黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	387	S-20	IV	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	388	E-9	IV	口縁部	褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	389	S-21	IV	口縁部	灰褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	390	E-9	IV	口縁部	褐	にぶい赤褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	391	-	-	-	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI	
	392	N-14	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	393	R-21	IV	口縁部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	394	Q-19	IV	口縁部	明黄褐	灰黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	395	R-19	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	396	E-9	IV	胴部	浅黄	明黄褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	397	I-11	IV	胴部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	398	E-9	IV	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
399	R-19	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI			
400	Q-19	IV	胴部	灰	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI			
401	Q-19・20	IV	胴部	黄褐	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI			
第59 図	402	R-21	IV	胴部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	403	P-21	IV	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	404	J-13	IV	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	405	E-9	IV	胴部	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○	疎少量	良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	406	-	IV	胴部	黒褐	橙	○				良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	407	M-13	IV	胴部	黒褐	橙	○	○			良	貝殻刺突文	ヘラケズリ	VI		
	408	J-13	IV	口縁部	明褐	にぶい黄橙	○	○	○	疎少量	良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	409	E-8・9	IV	口縁部	にぶい黄橙	灰白	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VI		
	410	E-9	IV	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		良	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ヘラケズリ	VI		
	第60 図	411	L-13	IV	口縁部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	小疎	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VII	
412		Q-17	IV	口縁部	赤褐	にぶい橙	○	○	○	小疎	良	沈線	ミガキ	VII	補修孔	
413		S-21	IV	口縁部	黒褐	橙	○	○	○		良	沈線	ヘラケズリ後ナデ	VII		
414		Q-17	IV	口縁部	黄橙	赤褐	○	○	○	小疎	良	沈線	ミガキ	VII		
415		Q-17	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	沈線	ヘラケズリ後ナデ	VII		
416		M-13・J-14	IV	口縁部	赤褐	赤褐	○	○	○	小疎	良	沈線	ミガキ	VII		
417		R-18	IV	口縁部	暗赤	赤褐	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VII		
418		Q-17	IV	口縁部	灰黄褐	明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ミガキ	VII		
419		O-14	IV	口縁部	にぶい橙	灰黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ミガキ	VII	補修孔	
第61 図	420	Q-17	IV	口縁部	明赤褐	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文・沈線	ヘラケズリ後ナデ	VII		
	421	E-9	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	VII		
	422	L-14	IV	口縁部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	小疎	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VII		
	423	G-12	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	沈線・流水文	ヘラケズリ	VII		
	424	G-12	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	沈線・流水文	ヘラケズリ	VII		
	425	G-12	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	沈線・流水文	ヘラケズリ	VII		
	426	-	-	-	胴部	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○		良	沈線	ヘラケズリ	VII	
	427	J-13・I-14	IV	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	貝殻刺突文・沈線	ナデ	VII		
	428	P-16	IV	胴部	赤褐	にぶい橙	○	○	○		良	沈線	ナデ	VII		
	429	P-16	IV	胴部	明赤褐	にぶい橙	○	○		小疎	良	ヘラケズリ	ヘラケズリ	VII		
第62 図	430	O-16	IV	底部	赤褐	にぶい橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	VII		
	431	N-15	IV	完形	浅黄	浅黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	432	T-22	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	433	S-21	IV	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	434	R-21	IV	口縁部	褐灰	黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	435	L-14	IV	口縁部	にぶい橙	黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX	補修孔	
	436	S-21	IV	口縁部	褐灰	黒褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	437	R-21	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	438	R-21	IV	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	小疎	良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	439	R-19	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	IX		
	440	S-21	IV	口縁部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
第63 図	441	R-21	IV	口縁部	褐灰	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	442	Q-20	IV	胴部	褐灰	橙	○	○	○	小疎	良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	IX		
	443	Q-21	IV	胴部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	IX		
	444	S-20	IV	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	IX		
第64 図	445	P-16・Q-19	IV	口縁部	褐灰	淡黄	○	○	○		良	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ	X		
	446	P-16	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ	X		

縄文時代早期土器観察表

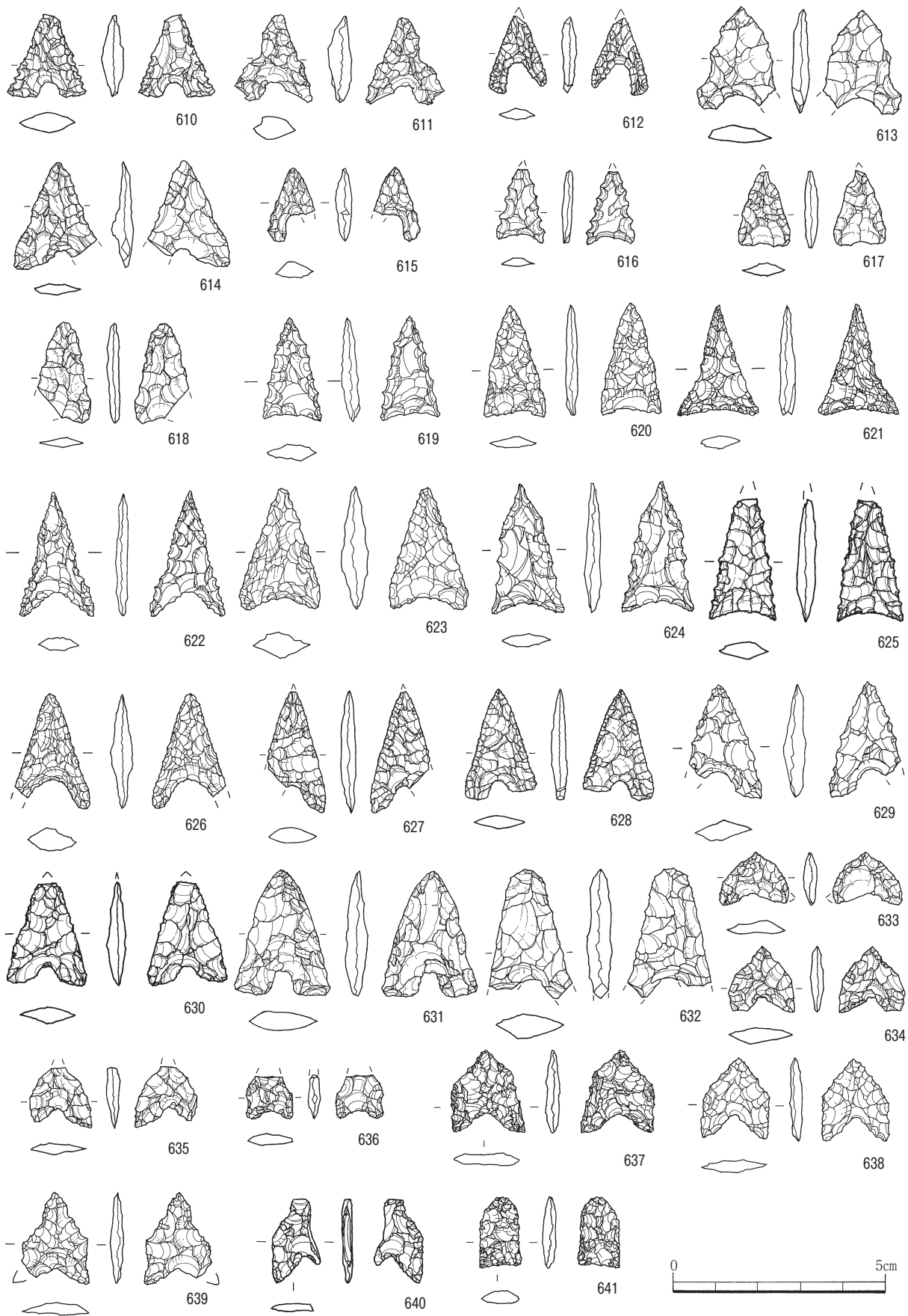
挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考	
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面			
第 64 区	447	P-16	IV	口縁部	にぶい橙	橙		○	○		良	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ	X		
	448	E-10	IV	口縁部	灰黄	橙	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	X		
	449	P-16	IV	口縁部	灰白	浅黄橙		○	○		良	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ	X		
	450	P-16	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ	X		
	451	P-16	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	山形押型文	山形押型文・ナデ	X		
	452	P-15	IV	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○				疎少量	良	山形押型文	ヘラケズリ	X	
	453	P-16	IV	胴部	にぶい黄橙	黄橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	454	N-14	IV	胴部	灰黄褐	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	455	P-15	IV	胴部	褐灰	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	456	P-15	IV	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
457	P-16・Q-19	IV	胴部	褐灰	橙			○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X			
458	I・J-13	IV	胴部	褐灰	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X			
第 65 区	459	P-16	IV	胴部	灰黄褐	明黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	460	O-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	461	P-16	IV	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	462	P-16	IV	胴部	灰黄	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	463	P-15	IV	胴部	黒褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	464	P-16	IV	胴部	にぶい赤褐	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	465	P-16	IV	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	山形押型文	ナデ	X		
	466	P-16	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	467	P-16	IV	胴部	褐灰	赤褐	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	468	O・P-16	IV	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
第 66 区	469	P-16	IV	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	470	-	-	胴部	にぶい橙	橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	471	P-16	IV	胴部	黒褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	472	J-13	IV	底部	灰黄褐	橙	○				良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	473	N-14	IV	底部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	474	P-16	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	475	P-15	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ後ナデ	X	補修孔	
	476	E-9	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○				疎	良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ後ナデ	X	
	477	P-15	IV	口縁部	にぶい橙	橙		○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X		
	478	P-16	IV	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X		
第 67 区	479	P-16	IV	口縁部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ	X		
	480	P-16	IV	口縁部	灰褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ後ナデ	X		
	481	P-16	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	482	P-16	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文・ナデ	楕円押型文	X		
	483	P-16	IV	口縁部	橙	灰黄褐	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文	X		
	484	P-16・R-18	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ	X		
	485	P-15	IV	口縁部	橙	橙	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文・ナデ・ヘラケズリ	X		
	486	O-16	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	487	P-15	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ	X		
	488	P-16	IV	口縁部	橙	浅黄橙	○	○	○	小疎	良	ナデ	楕円押型文・ヘラケズリ後ナデ	X		
第 68 区	489	P-16	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	ナデ	楕円押型文	X		
	490	P-16	IV	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ	X		
	491	O-21	IV	口縁部	にぶい橙	浅黄橙	○	○			良	楕円押型文・ナデ	ヘラケズリ	X	集石22から出土	
	492	P-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ナデ	X		
	493	P-16	IV	胴部	赤	にぶい黄橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X		
	494	P-16	IV	胴部	暗赤褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	495	P-16・N-15	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	496	-	-	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文・ヘラケズリ	X		
	497	P-15	IV	胴部	暗灰黄	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	498	P-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
第 69 区	499	P-15	IV	胴部	黒褐	橙	○	○		疎少量	良	山形押型文	ヘラケズリ	X		
	500	P-15	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○				良	楕円押型文	ナデ	X		
	501	P-15	IV	胴部	褐灰	橙	○		○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	502	P-15	IV	胴部	灰黄褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	503	P-15	IV	胴部	褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	504	P-16	IV	胴部	褐灰	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X		
	505	P-15	IV	胴部	灰黄褐	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	506	P-16	IV	胴部	橙	暗赤褐	○	○	○		良	楕円押型文・ナデ	ヘラケズリ	X		
	507	P-16	IV	胴部	灰白	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	508	P-16	IV	胴部	灰	明黄褐	○				良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
第 70 区	509	P-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	510	P-16	IV	胴部	浅黄	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	511	P-16	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文・ナデ	ヘラケズリ後ナデ	X		
	512	P-15	IV	胴部	橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ヘラケズリ	ナデ	X		
	513	P-16	IV	底部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X		
	514	T-20	IV	底部	褐灰	にぶい橙	○		○		良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X		

縄文時代早期土器観察表

挿図 番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面		
第68 図	515	P-15	IV	底部	灰黄褐	橙	○				良	楕円押型文	ヘラケズリ後ナデ	X	
	516	P-15	IV	底部	灰白	浅黄橙		○	○		良	楕円押型文	ヘラケズリ	X	
第69 図	517	P-16	IV	完形	橙	橙	○	○	○		良	山形押型文・貝殻刺突文	ナデ・貝殻刺突文	X	
	518	P-17	IV	胴部	橙	橙	○	○	○		良	楕円押型文	ナデ	X	イチゴ
第70 図	519	L-13	IV	胴部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ	XI	
	520	L-13	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	XI	
	521	L-13	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	XI	
	522	L-13	IV	胴部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	山形押型文	ヘラケズリ	XI	
	523	P-16	IV	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○		良	撚糸文	ヘラケズリ	XII	
	524	P-16	IV	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐		○	○	小礫	良	撚糸文	ヘラケズリ	XII	集石18から出土
	525	P-16	IV	口縁部	暗赤褐	明黄褐		○	○		良	撚糸文	ナデ	XII	
	526	P-16	IV	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐		○	○	小礫	良	撚糸文	ヘラケズリ	XII	
	527	P-16	IV	口縁部	橙	橙	○	○	○		良	撚糸文	ヘラケズリ	XII	
528	Q-20・R-19	IV	胴部	褐灰	浅黄橙		○	○		良	撚糸文	ヘラケズリ	XII		
第71 図	529	O-15	IV	完形	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○		良	刺突文・沈線文	ヘラケズリ	XIII	
	530	O-16	IV	口縁部	赤褐	橙	○				良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	531	O-15	IV	口縁部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	532	O-14	IV	胴部	明褐	黒褐	○	○	○		良	沈線	ヘラケズリ後ナデ	XIII	
	533	J-13	IV	胴部	黒褐	橙	○	○	○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	内面ス付着
	534	R-19	IV	胴部	暗赤褐	橙	○	○	○		良	刺突文	ナデ	XIII	
	535	O-16	IV	胴部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	536	O-14	IV	胴部	明赤褐	明赤褐	○		○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	537	O-16	IV	胴部	黒褐	赤褐	○	○	○		良	沈線・刺突文	ヘラミガキ	XIII	
	538	O-16	IV	胴部	明赤褐	にぶい黄褐		○			良	沈線・撚糸文・ナデ	ヘラケズリ後ナデ	XIII	
	539	O-16	IV	胴部	赤褐	赤褐	○	○	○		良	沈線	ナデ	XIII	
	540	N-16	IV	胴部	暗赤褐	赤褐	○	○	○	小礫	良	沈線	ヘラミガキ	XIII	
	541	N-14	IV	胴部	にぶい褐	橙	○	○	○		良	沈線	ナデ	XIII	
	542	J-12	IV	胴部	黒褐	橙	○	○	○		良	沈線	ナデ	XIII	
543	O-16	IV	胴部	暗褐	暗褐	○	○	○		良	沈線	ヘラナデ	XIII		
544	O-16	IV	胴部	赤褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	沈線	ヘラナデ	XIII		
第72 図	545	K-13	IV	口縁部	浅黄橙	浅黄橙	○		○		良	沈線	ナデ	XIII	
	546	M-14	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	沈線	ナデ	XIII	
	547	I-11	IV	口縁部	明褐灰	灰白	○		○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	548	P-17	IV	口縁部	橙	黄橙	○	○	○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	549	R-18	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○		○		良	沈線・刺突文	ナデ	XIII	
	550	I-11	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○		小礫	良	沈線	ナデ	XIII	
	551	-	-	胴部	黒褐	灰褐	○	○	○		良	沈線・撚糸文	ナデ	XIII	
	552	O-16	IV	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○		良	沈線・撚糸文・ナデ	ナデ	XIII	
	553	I-11	IV	胴部	黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	沈線・撚糸文・刺突文	ナデ	XIII	
	554	I-11	IV	胴部	褐灰	橙	○	○		小礫	良	沈線・撚糸文・ナデ	ナデ	XIII	
555	I-11	IV	胴部	褐灰	橙	○	○		小礫	良	沈線・撚糸文・ナデ	ナデ	XIII		
556	R-19	IV	胴部	灰黄褐	褐	○	○	○		良	撚糸文	ナデ	XIII		
第73 図	557	H-12	IV	口縁部	灰黄褐	浅黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XIV	
	558	H-12	IV	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○				良	条痕文	ナデ	XIV	
	559	I-12	IV	口縁部	にぶい橙	明赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XIV	
	560	O-16	IV	口縁部	灰黄	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XIV	
	561	Q-20	IV	胴部	灰黄褐	浅黄	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XIV	
	562	M-13	IV	胴部	にぶい褐	暗褐		○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XIV	
	563	H-12	IV	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ナデ	XIV	
	564	R-21	IV	胴部	にぶい橙	灰黄橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	XIV	
	565	S-21	IV	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	XIV	
566	R-20	IV	胴部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ	XIV		
567	P-20	IV	底部	灰褐	橙	○	○			良	貝殻条痕文	ヘラケズ	XIV		
第74 図	568	P-16	IV	底部	赤褐	明赤褐	○	○	○	小礫	良	沈線	ヘラケズリ	XV	
	569	L-12	IV	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	貝殻条痕文	ヘラケズリ後ナデ	XV	補修孔
	570	O-15	IV	口縁部	黄橙	浅黄橙	○		○	小礫	良	竹管刺突文	ナデ	XV	
	571	N-15	IV	口縁部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	貝殻刺突文	ヘラケズリ後ナデ	XV	
	572	S-21	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	XVI	
	573	S-21	IV	口縁部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	XVI	



第75図 縄文時代早期 石器 1



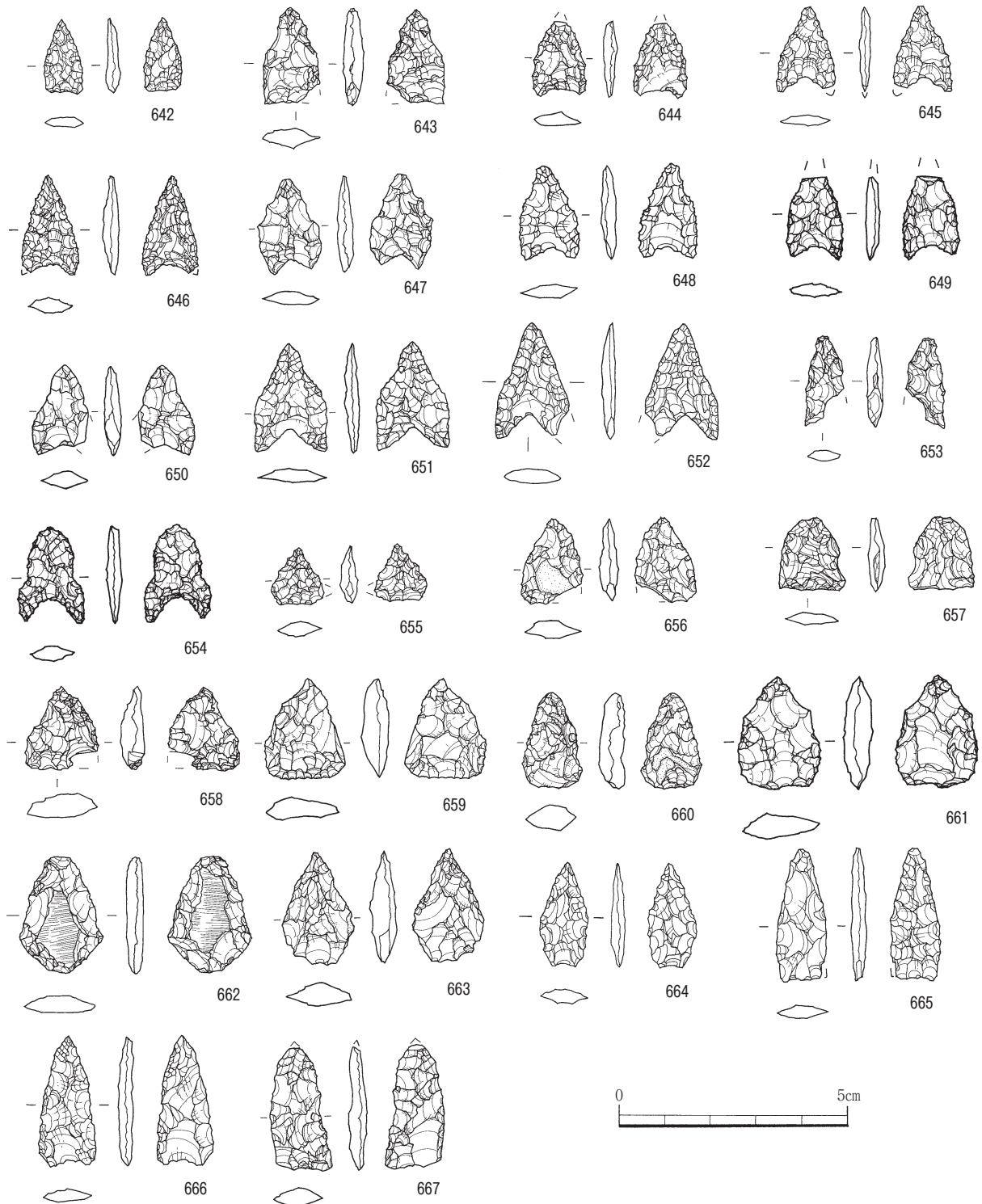
第76図 縄文時代早期 石器2

②石器 (第75図～第94図)

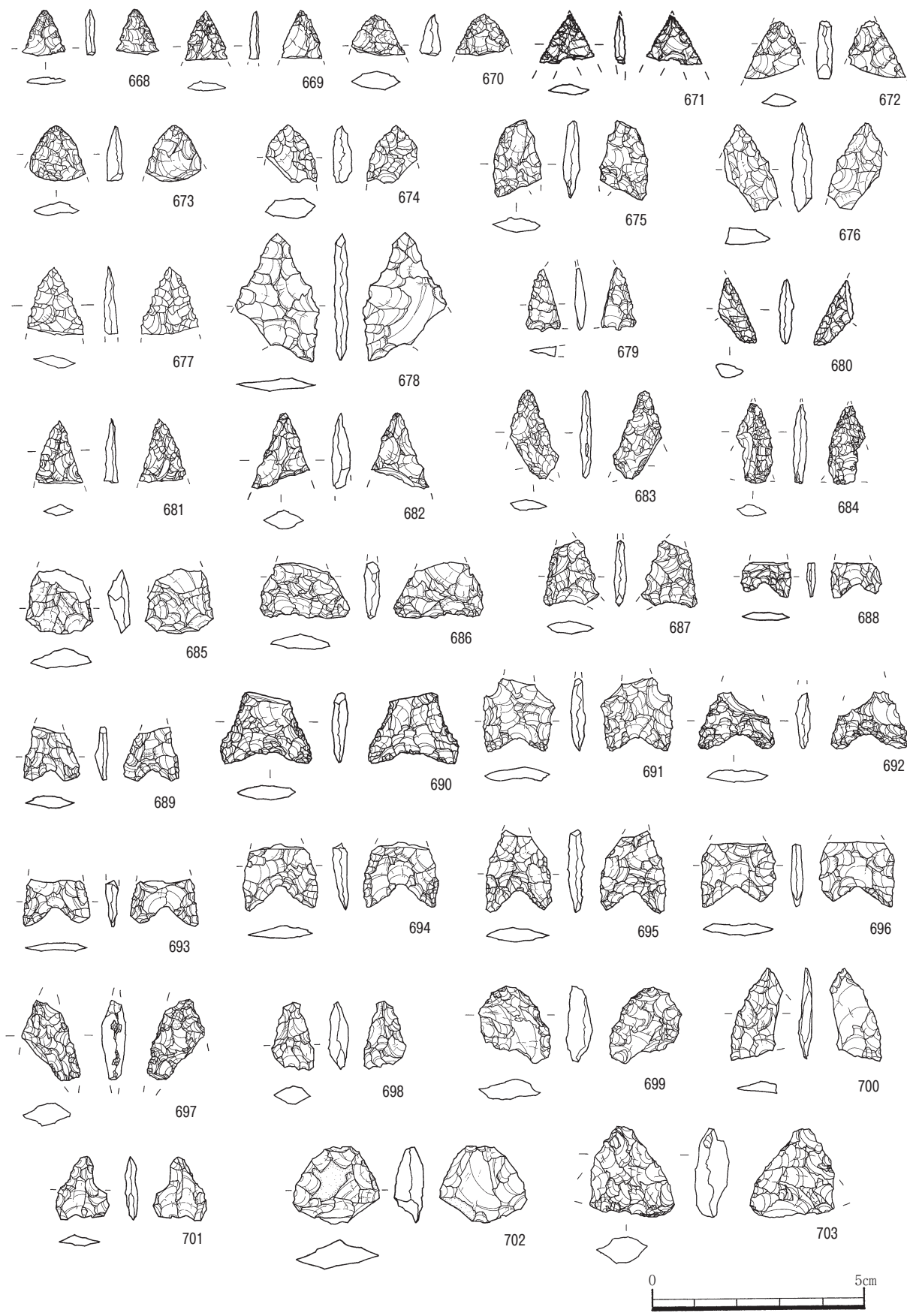
石器はIV層から総数418点出土した。石鏃を中心とした石器製作跡と思われる場所からは、それに関連する石核、剥片、碎片、石鏃未製品、石鏃等が出土している。また、石斧未製品、石斧等も見られる。その他に石槍、石匙、スクレイパー、礫器、石斧、

環状石斧、磨石、敲石、凹石、石皿等が出土している。

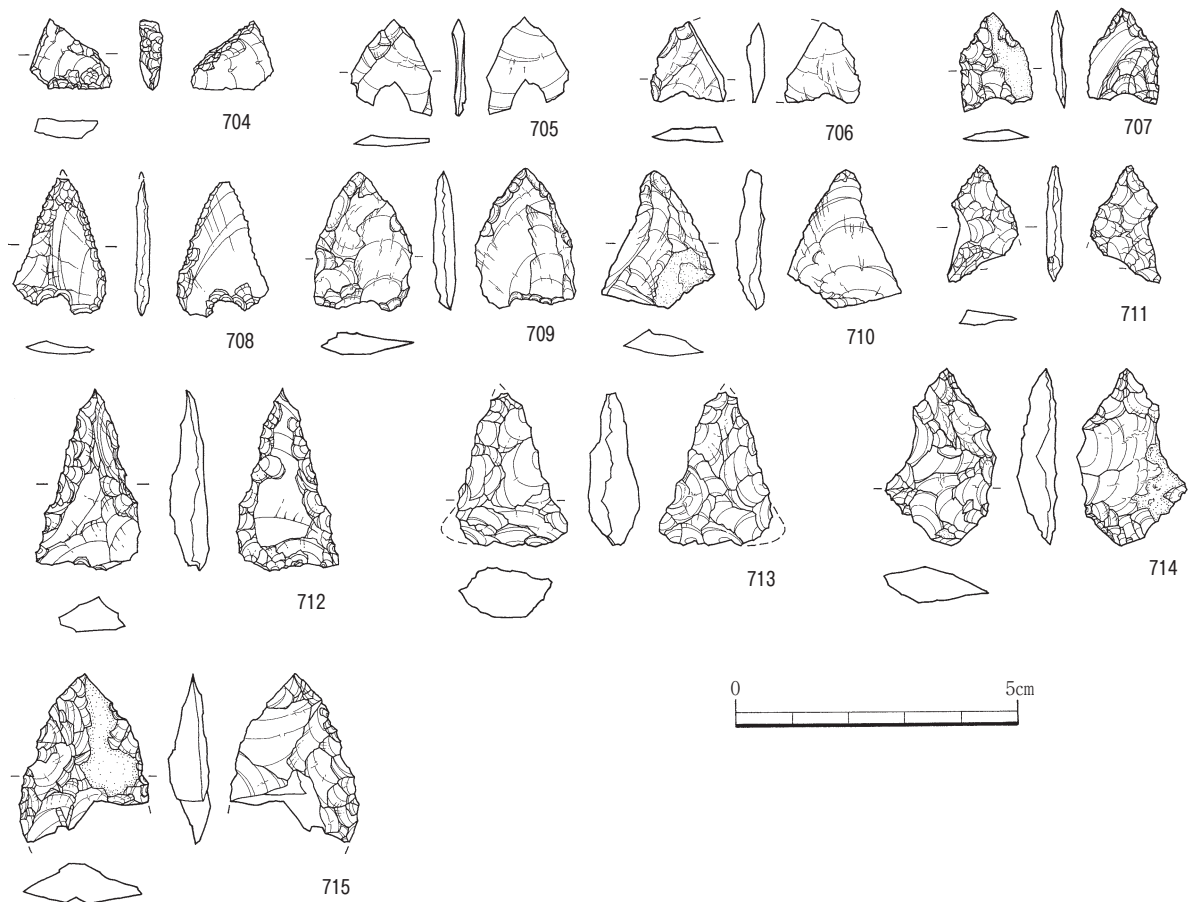
石材は黒曜石、頁岩、玉随、チャート、安山岩、砂岩等が使用されている。黒曜石については、さらに次のA～Dの4つに細分化し、明確でないものについては黒曜石とした。また、チャートについては、



第77図 縄文時代早期 石器3



第78図 縄文時代早期 石器4



第79図 縄文時代早期 石器5

乳白色，青灰色，灰褐色でやや光沢のあるものをチャートとして分類したが，本遺跡の近隣で算出する瑪瑙玉随にも類似しており，その可能性も否定できない。

黒曜石A 黒色・ガラス質で，小粒の不純物が多く含まれる。大口市日東産に類似する。

黒曜石B 青灰色。不純物の少ない良質の黒曜石。針尾，淀姫産等西九州系に類似する。

黒曜石C 黒色で炭状。光を通さず，不純物が少ない。薩摩川内市樋脇町上牛鼻，いちき串木野市平木場産に類似する。

黒曜石D 灰色もしくはアメ色で半透明のガラス質。不純物は少なく，黒色の紐状の縞が入る。宮崎県えびの市桑ノ木津留産に類似する。

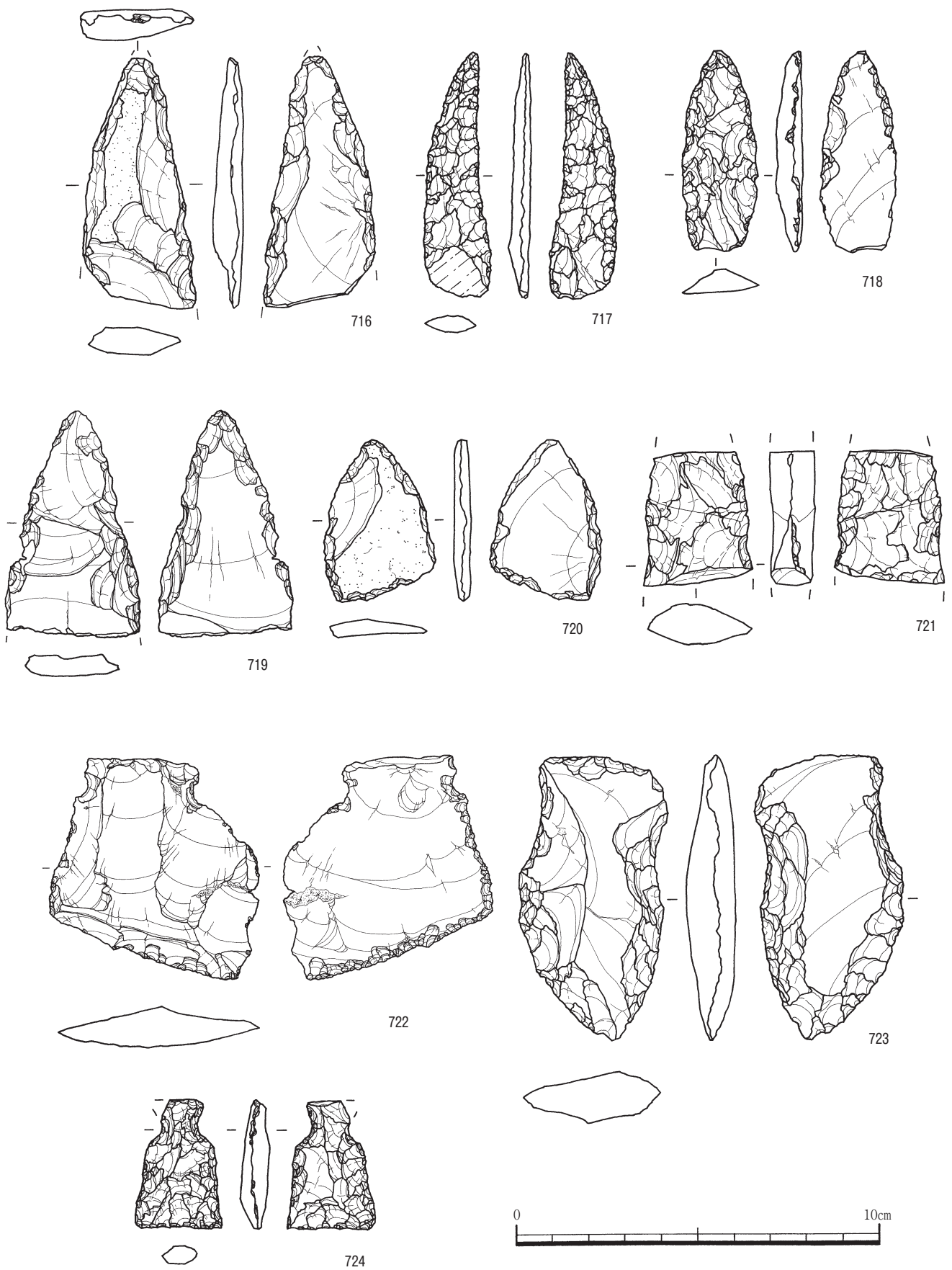
石鏃（第75図～第79図 574～715）

石鏃は，未製品を含め打製のものが158点出土し，

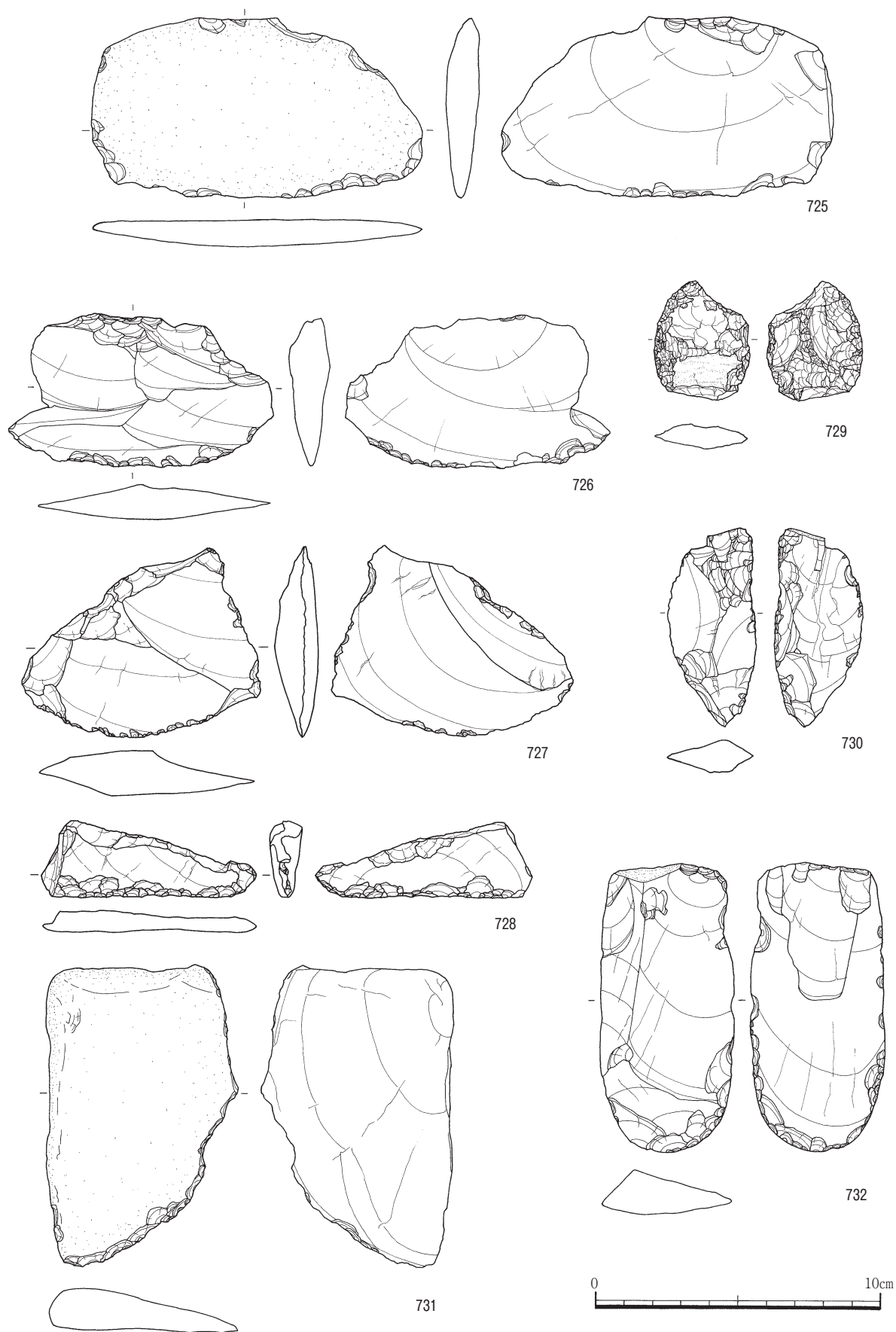
そのうち142点を掲載した。574～697の124点が製品で，18点が未製品である。石材は，黒曜石・チャート・頁岩・玉随等で，掲載できなかったものも含めた石材別出土数は，黒曜石Aが1点，黒曜石Bが9点，黒曜石Cが10点，黒曜石Dが11点，黒曜石が8点，チャートが55点，頁岩が38点，玉随が30点である。形態は，本報告書P39の石鏃分類図により分類した。形態が分類できる資料は，図化した124点中94点で，その中でA a bに分類されるものが23点と一番多かった。

575は集石21号内から出土したものである。

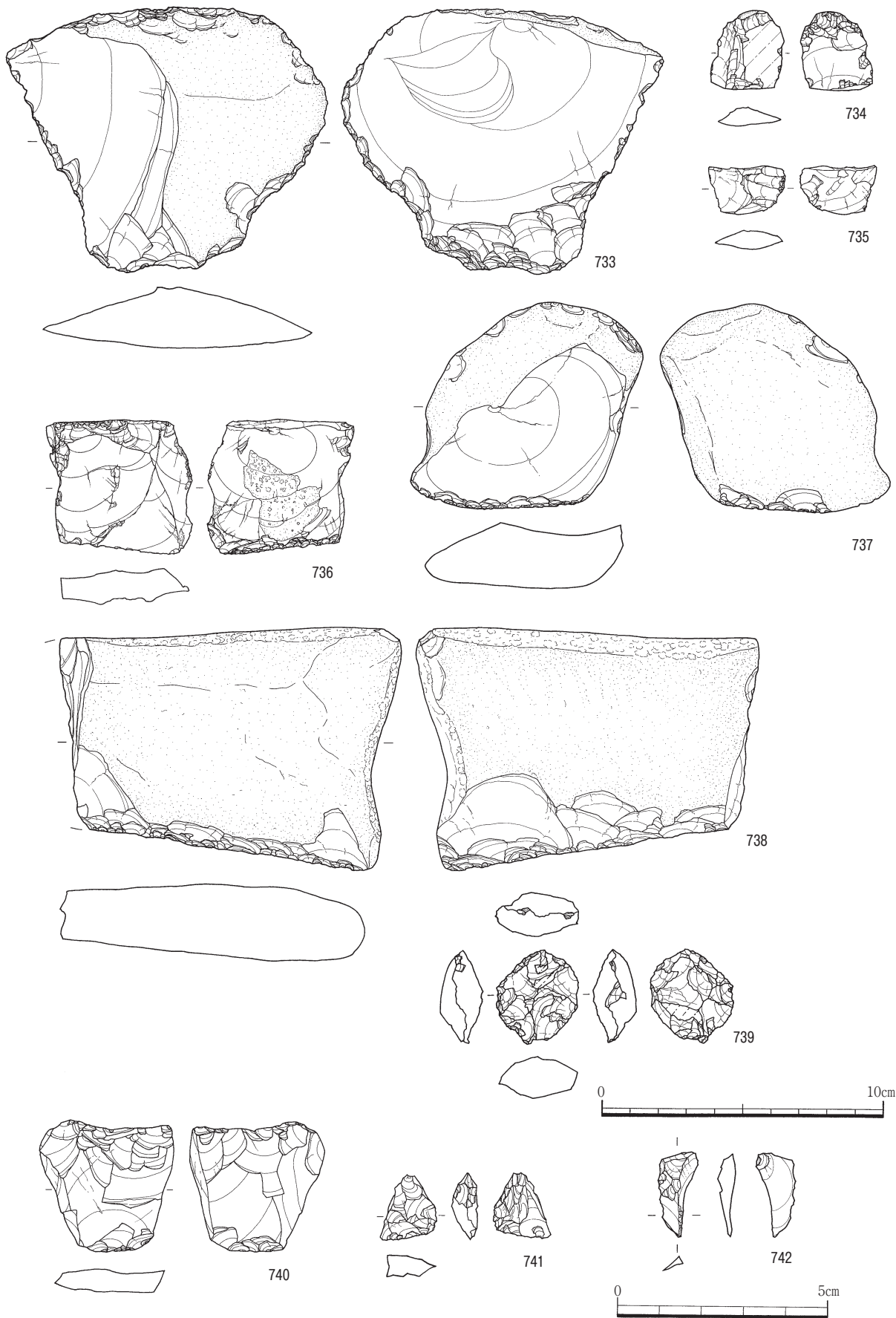
石鏃未製品は23点のうち18を掲載した。そのうち698～703・711・713・714は，両面に押圧剥離を施すが，挟りが確認できず成形途中と思われるものである。704～710・712・715は，一部に押圧剥離を施すものの，未加工部分も見られるものである。挟りは，確認できるものとできないものがある。



第80図 縄文時代早期 石器6



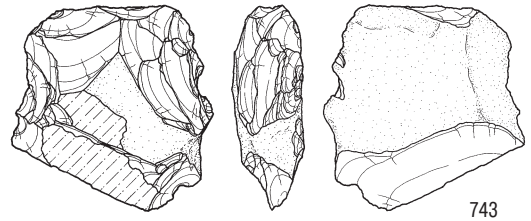
第81図 縄文時代早期 石器7



第82図 縄文時代早期 石器8

石槍 (第80図 716~721)

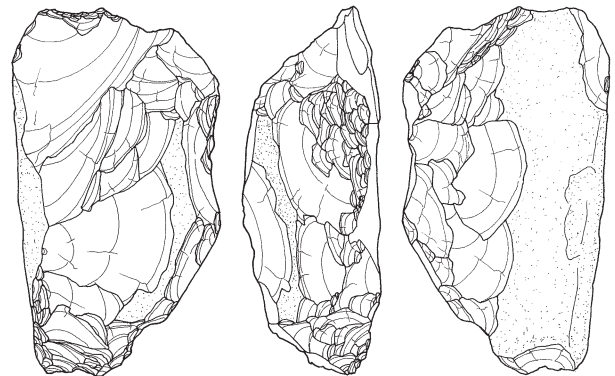
716~721の6点が出土した。717を除き、ほぼ左右対象の形態である。6点とも刃部調整は、平坦剥離が施される。718は未製品の可能性も考えられる。721は尖頭部と基部が欠損している。



743

石匙 (第80図 722~724)

3点出土した。722は玉随製である。刃部は両面調整で、裏面の底辺と右側縁辺に丁寧な調整を施す。723・724は安山岩である。723は縦長型で、石鋸の可能性も考えられるが、刃部が左右対称でないことから石匙とした。724は縦長の台形型で、刃部は両面調整で、縁辺に施す。

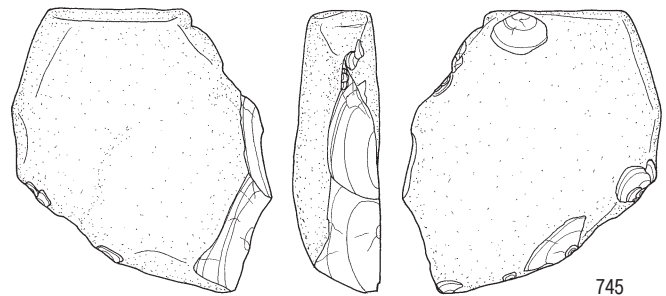


744

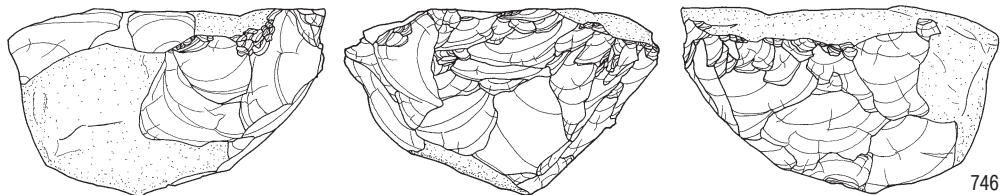
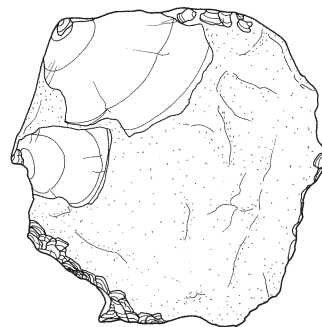
スクレイパー (第81図・第82図

725~738)

スクレイパーは全部で17点出土した。その中から、横長型のもの4点(725~728)と縦長型のもの4点(729~732)、角型のもの6点(733~738)の14点を掲載した。725~728は頁岩製で、剥片を横位に利用したものである。725は、上縁部の一部と下縁部の両面に刃部をつくり、上面に自然面を残す。726は下縁部の両面に刃部調整が見られる。727は刃部を上縁部と下縁部に作る。728は刃部以外が欠損している。729~732は、剥片を縦長に利用したものである。



745



746



第83図 縄文時代早期 石器9



第84図 縄文時代早期 石器10

729・730はチャート製である。729の刃部は、両面への押圧剥離により作られる。上端は欠損しているものと思われる。730は左縁部に刃部がつくられる。731・732は頁岩製である。731の上面は自然面である。733～738は角形のものである。733は玉随製で、下縁部に刃部がつくられる。734・735は小形のもので、頁岩製である。どちらも一部欠損している。736・737は大形のもので、どちらも頁岩製のものである。738はスクレイパーとしたが、他の石器の可能性も考えられる。下辺に刃部が作られている。

楔形石器・二次加工剥片 (第82図 740～742)

楔形石器は2点出土した。740はチャート製のもので、左側は欠損しているものと思われる。741は頁岩製のもので、上下二辺に打ち欠いた痕跡が見られる。右側は欠損している。

二次加工のある剥片は742の1点のみである。

チャート製である。逆三角形の形状をした縦長剥片で、上面の左辺上部に加工痕が見られる。

石核 (第82図 739・第83図 743～746)

石核は全部で7点出土した。その中で小形のもの1点(739)と大形のもの4点(743～746)を掲載した。739は、「亀の甲型」と呼ばれる円盤状の石核で、小形の剥片をとったものである。黒曜石C製である。743は頁岩製で、周縁を打ち欠いて剥片を取っており、求心状の剥離が観察される。744は頁岩製で、扁平礫の一方から剥片を取っている。745は頁岩製で、自然面を打面にし、大きな剥離を取っている。側面と裏面にも一部自然面が残る。746は手のひら大以上の大きな自然礫を周辺から打ち欠いて剥片を取っている。

磨製石斧 (第84図 747~752)

磨製石斧については頁岩製のものが10点出土した。その中から6点を掲載した。747・748は両面及び側面を丁寧に磨いたものである。749は細長い自然礫を利用し、両面全体を磨いているが側面は自然面である。750・751は刃部のみを両面磨いた局部磨製石斧で、750は基部に剥離の痕跡がある。751は側辺を打ち欠いている。752は小形の石斧である。礫の縁辺部を打ち欠いて剥片を取り、その先端部を磨いて刃部をつくる。上面は自然面で、下面の縁辺部は打ち欠いている。

打製石斧 (第85図 753~757)

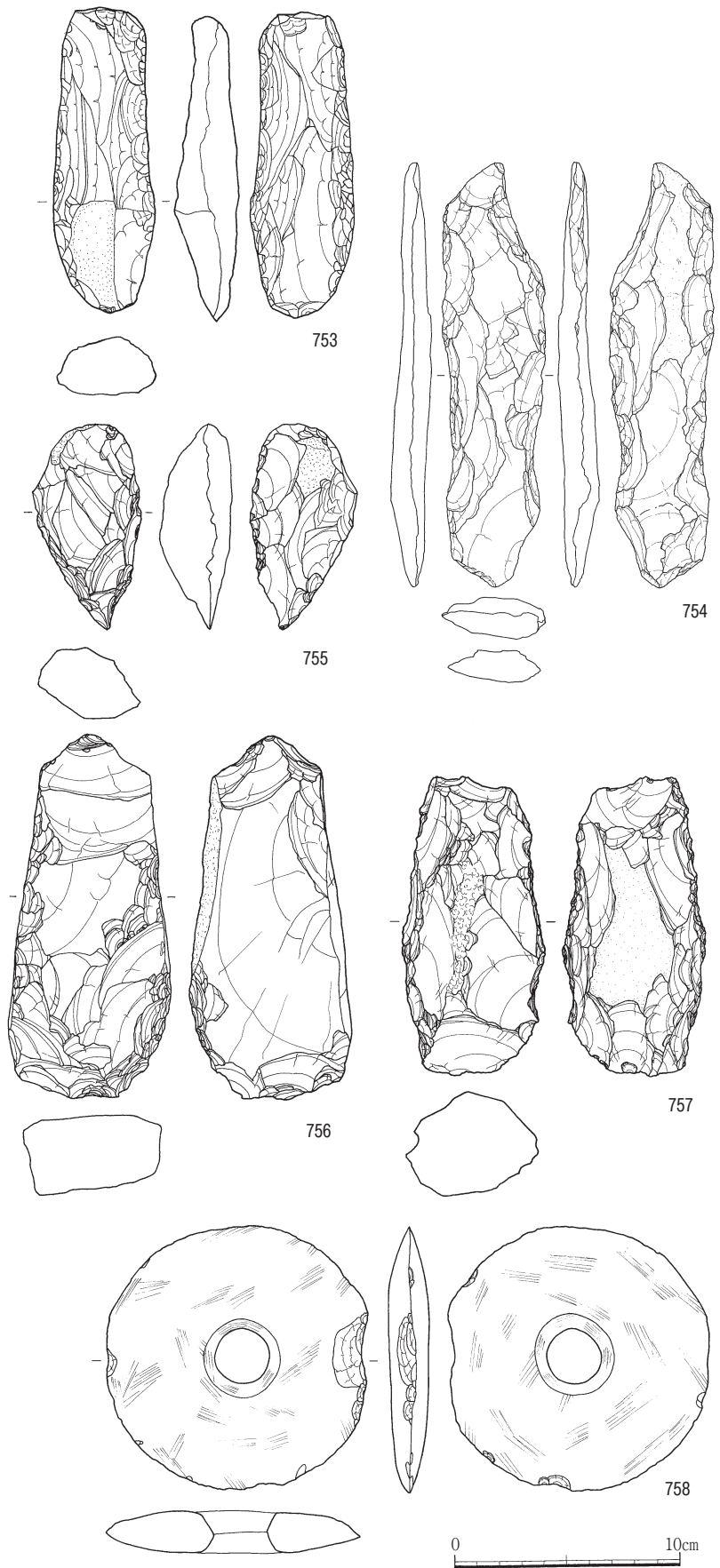
打製石斧については未製品も含め、頁岩製のものが19点出土した。その中から5点を掲載した。753は小形の石斧で浅い抉りを有する。754は打製のものであるが、石斧ではない可能性が考えられる資料である。755は小形石斧の未製品である。756・757は大形石斧の未製品である。

環状石斧 (第85図 758)

頁岩製である。扁平な円形状を呈し、周縁は刃状に狭まる。中央には棒を差し込むための孔がけられる。中央孔内も含め、全面丁寧に研磨されている。

礫器 (第86図 759~762・第87図 763~768)

礫器は全部で26点出土した。その中から10点を掲載した。石材はすべて頁岩を素材としている。759~762・764・765は、両面から剥離を加え刃部を形成するものである。763・766~768は扁平な礫



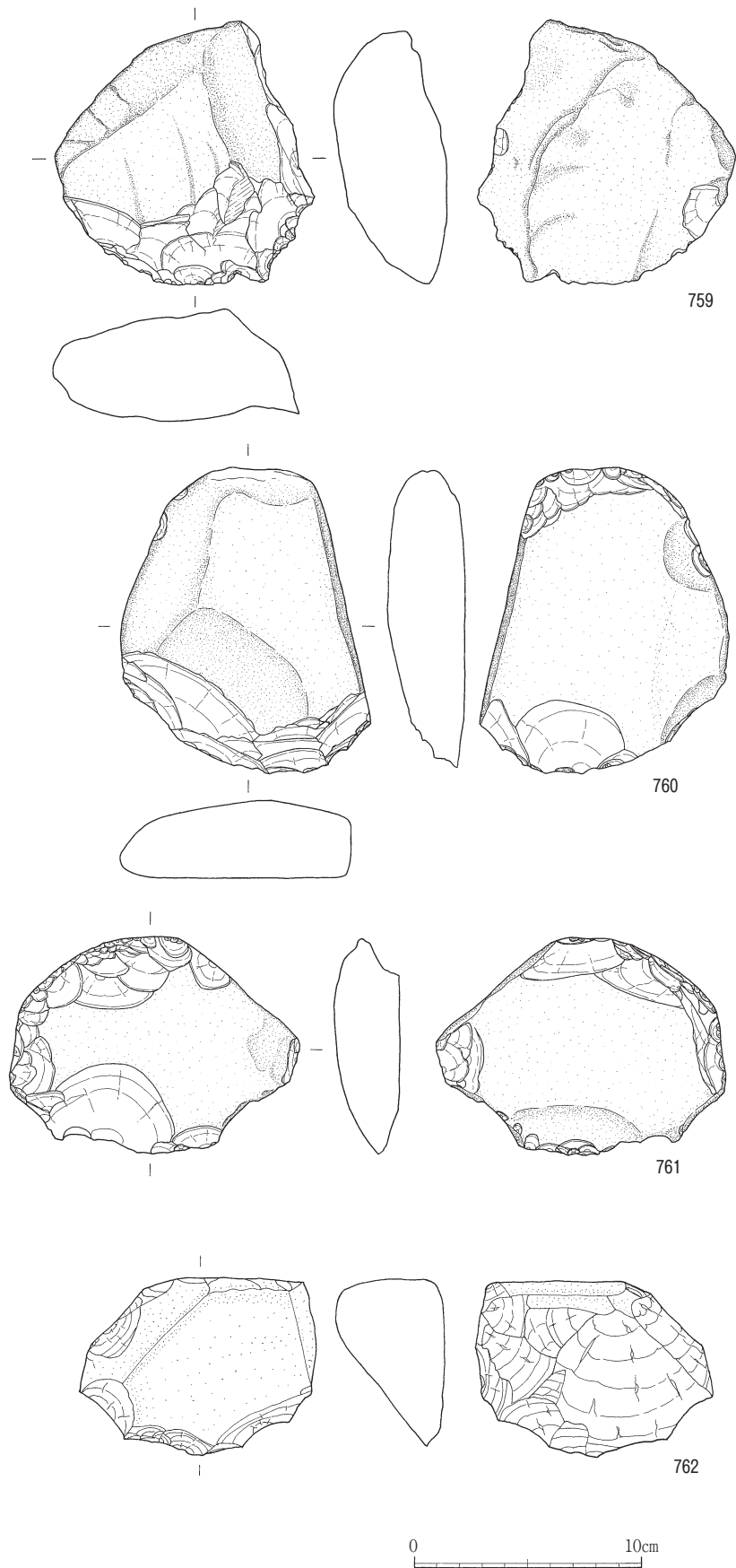
第85図 縄文時代早期 石器11

の一部に片面から剥離を加え刃部をつくるものである。

磨石・敲石・凹石（第88図～第90図 769～786）

遺跡全体で磨石・敲石類の石器は全部で約169点出土した。また、遺構としては取り扱わなかったが、磨石等を集めた集積がN-15区とS-20区から検出され、それぞれ4個と3個の磨石・敲石が集められた状態で出土している。これら7点を含め、18点を掲載した。

769～776は、敲打痕が見られず磨り面だけ観察できるものである。771は凝灰岩製で他は安山岩製である。772・774・775はN-15区の集積内から出土したもので、774は上部の3つの石を取り除いた後、その下部から検出されたものである。773はS-20区の集積内から出土したものである。777～780は、敲打痕・磨り面の両方が観察できるものである。777は砂岩製で他は安山岩製である。778はN-15区の集積内から出土したものである。779・780はS-20区の集積内から出土したものである。781～786は凹み部分が顕著な凹石で、両面に凹み部分が観察できる。全て砂岩製である。785は凹みがつながり帯状をなす。786は、砂岩製の短い棒状の敲石である。両端に敲打痕が見られる。



第86図 縄文時代早期 石器12

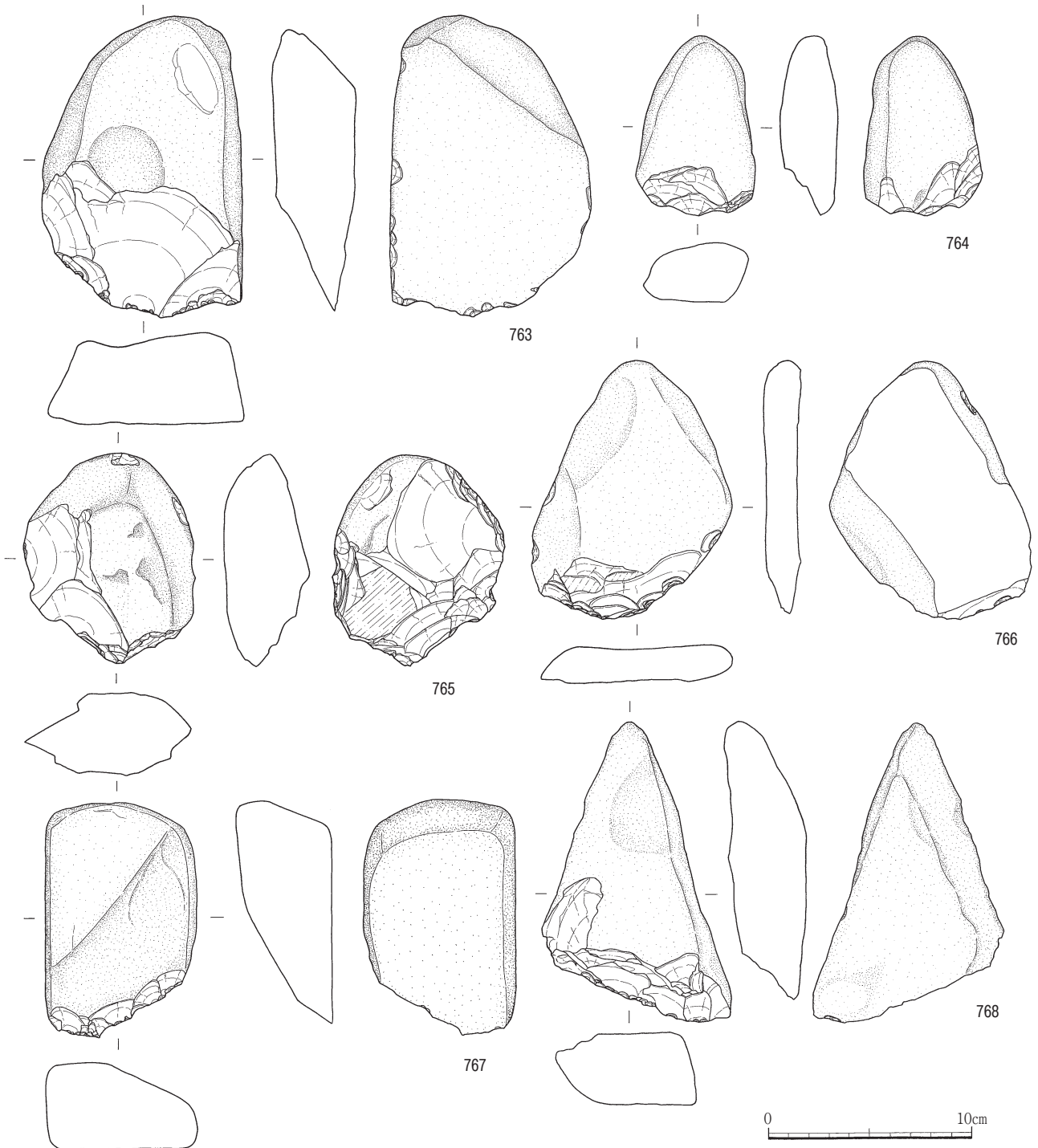
石皿 (第91図～第93図 787～790)

小片も含め20点出土した。そのうち5点を掲載した。5点とも大形のものである。787・788は片面が作業面で、周縁部は調整が施される。789～791は両面が作業面となるものである。789は花崗岩製のもので、片面の中央部は凹んでいる。

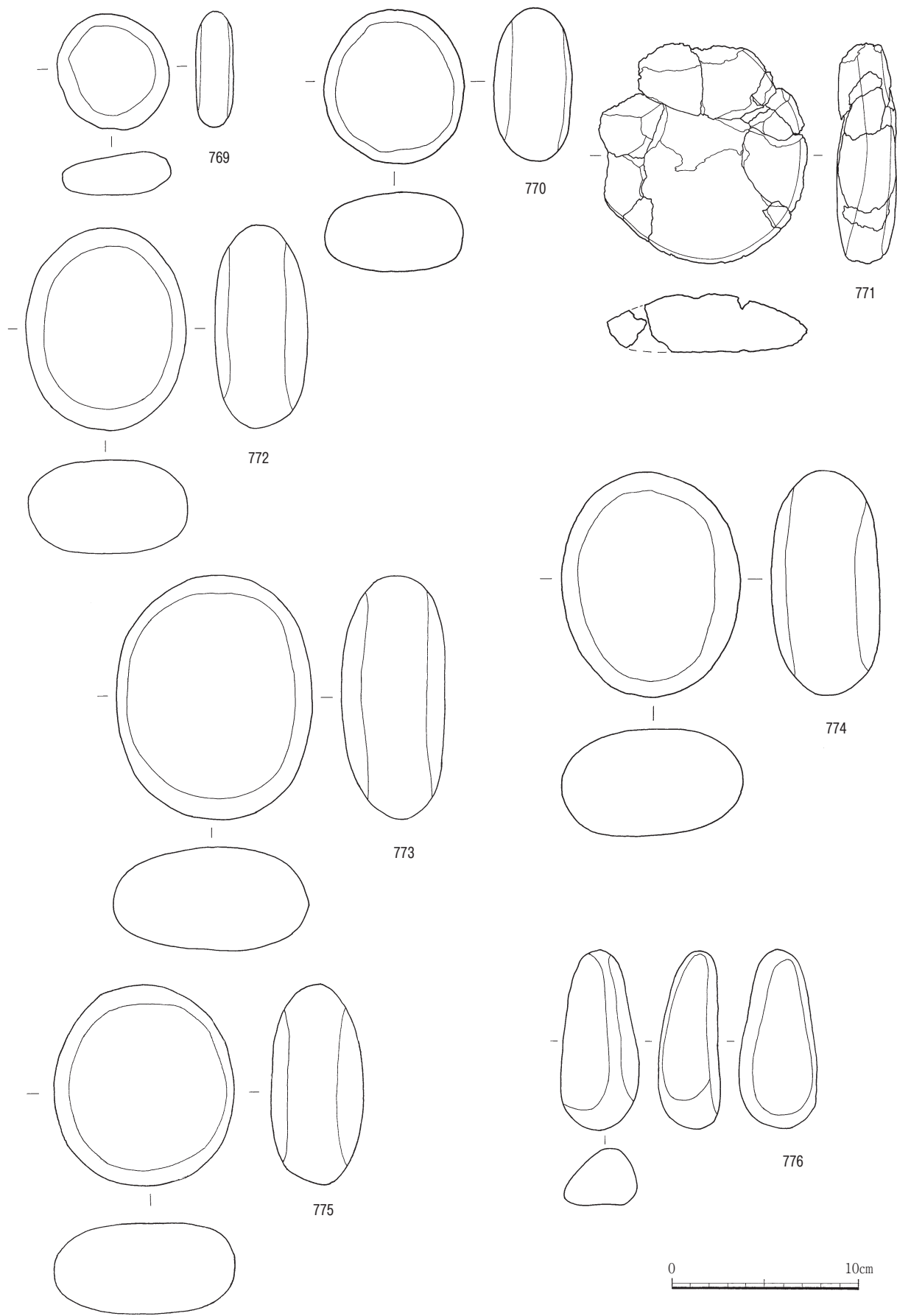
790は周縁部が加工されず、自然礫のままのものである。

その他の石器 (第94図 792・793)

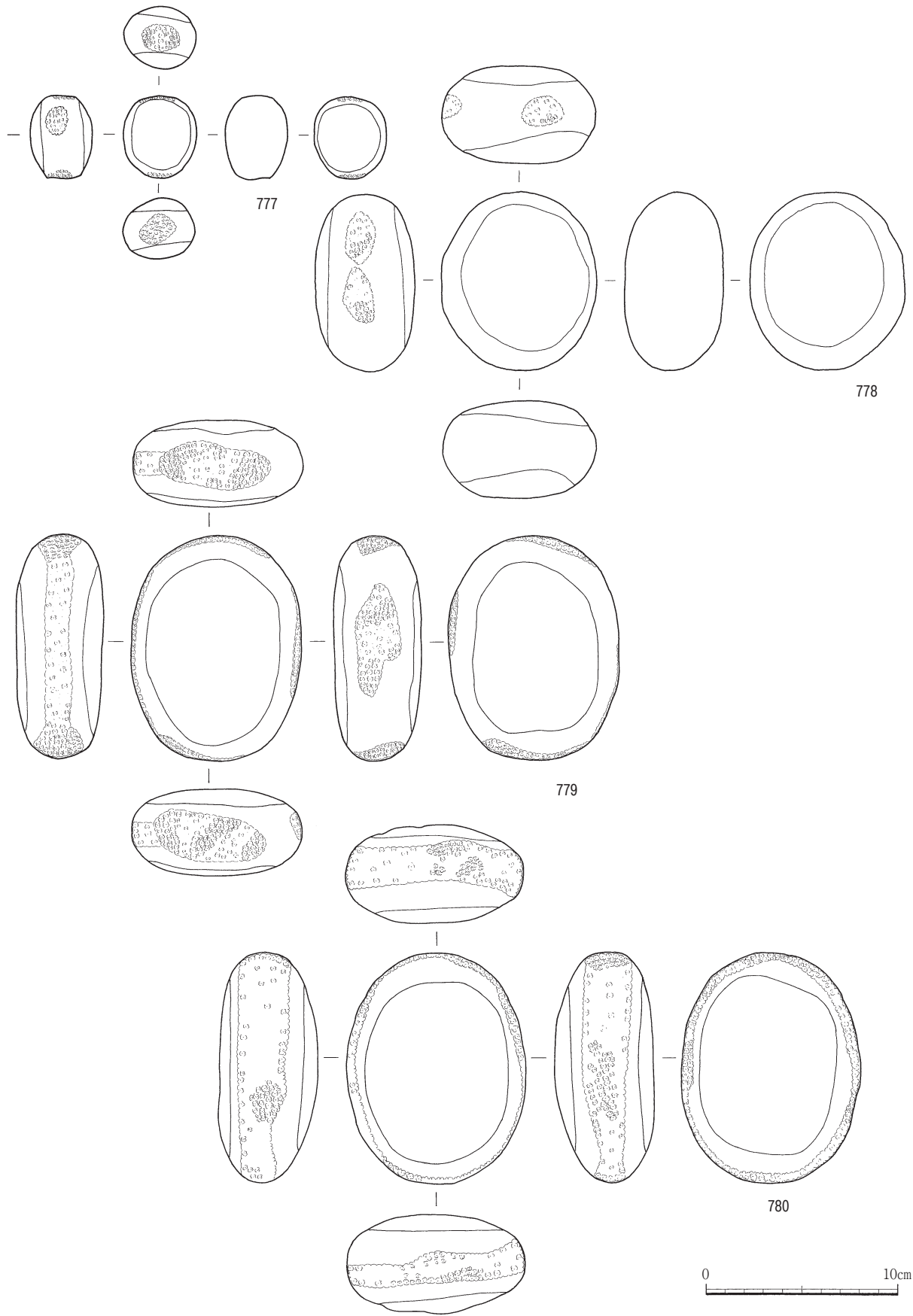
792・793は有溝砥石である。792は安山岩を、793は凝灰岩を素材としたものである。矢柄研磨器ではないかと思われるが、詳細な用途は不明である。



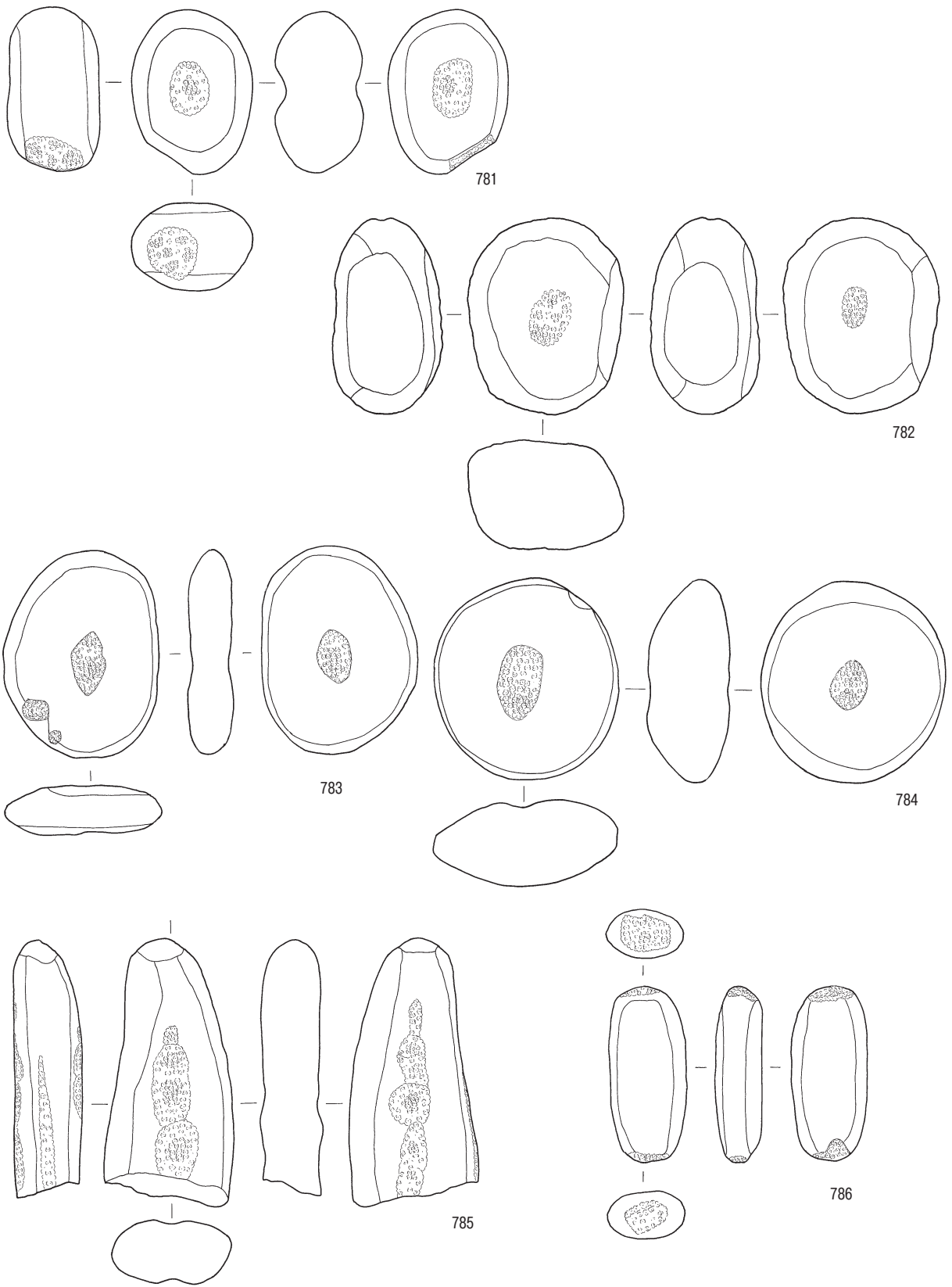
第87図 縄文時代早期 石器13



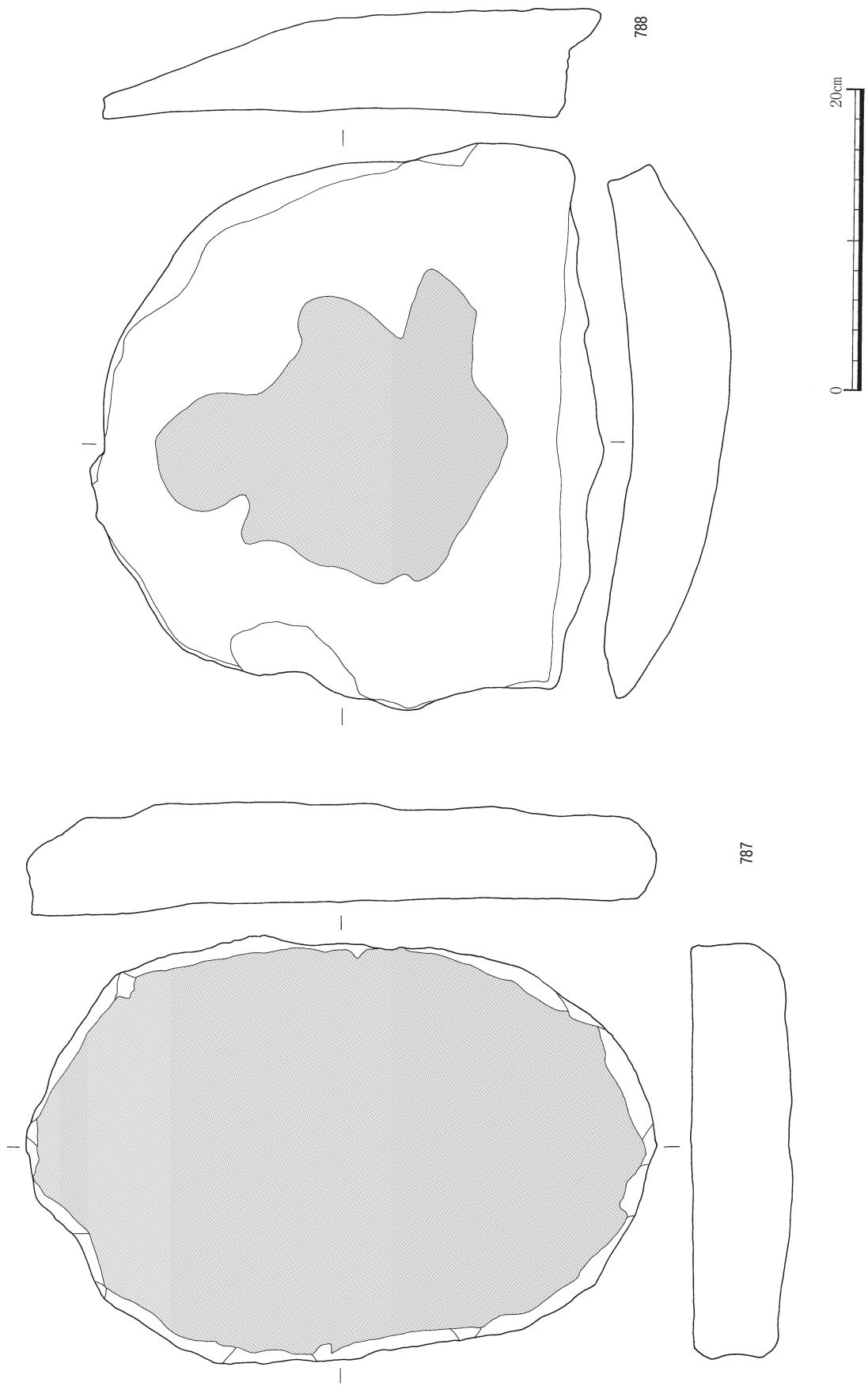
第88図 縄文時代早期 石器14



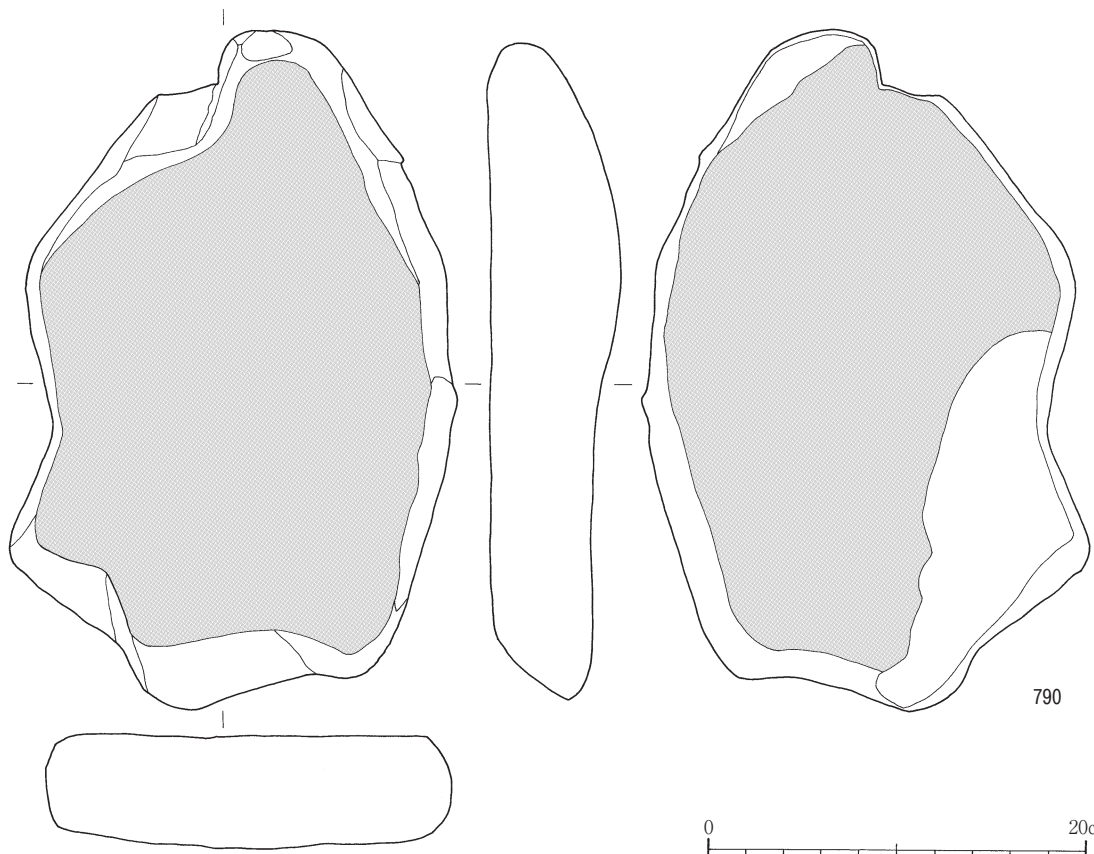
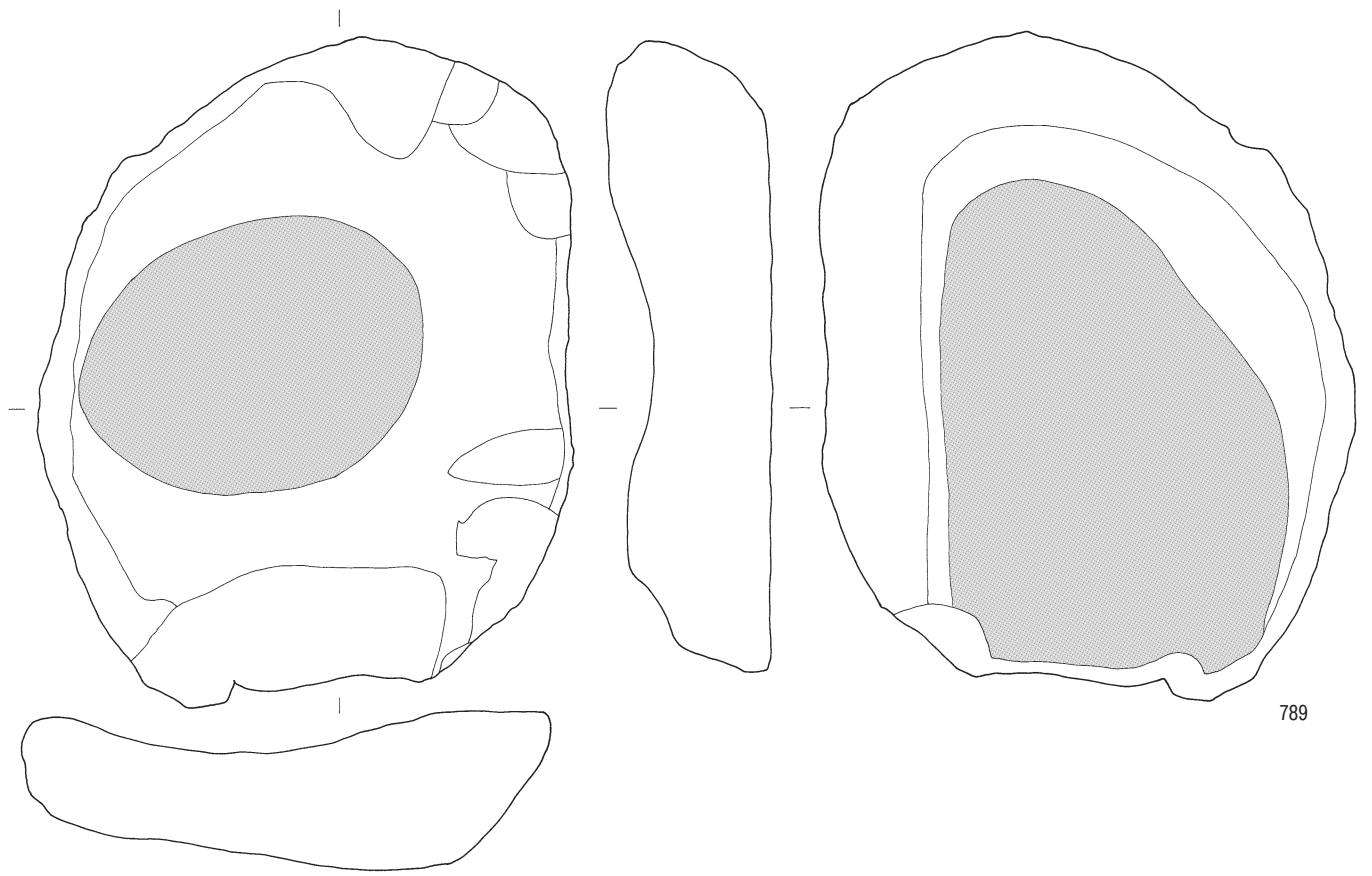
第89図 縄文時代早期 石器15



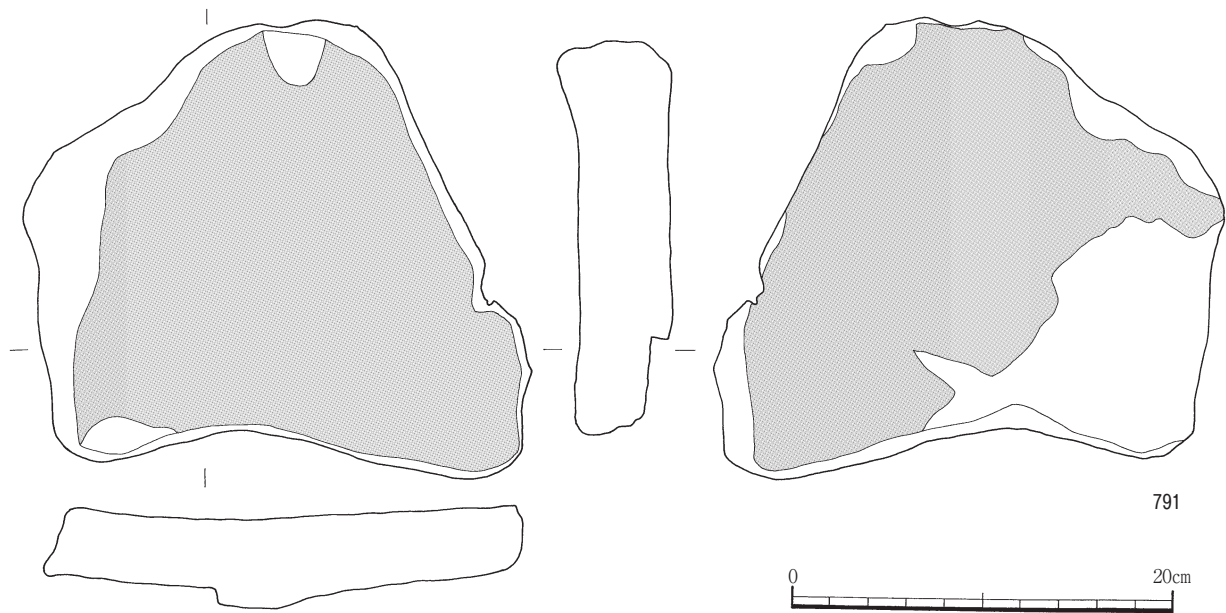
第90図 縄文時代早期 石器16



第91図 縄文時代早期 石器17



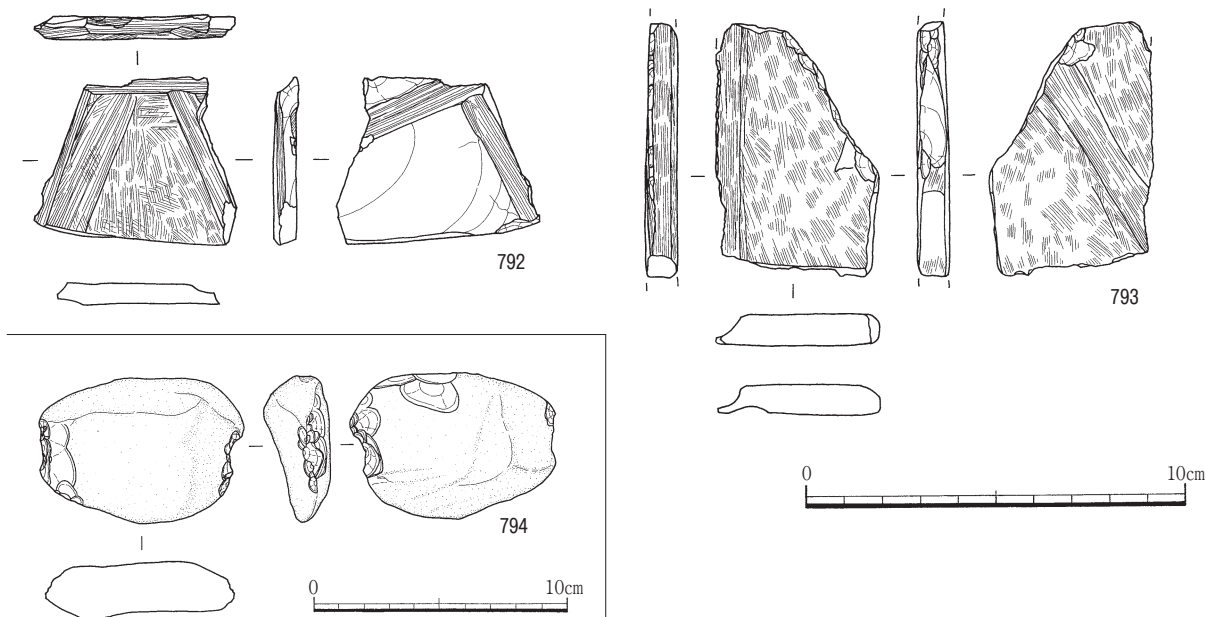
第92図 縄文時代早期 石器18



第93図 縄文時代早期 石器19

縄文時代早期石器観察表

挿図 番号	掲載 番号	注記 番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第 75 図	574	7890	IV	石鏃	M-14	黒曜石D	1.4	1.0	0.4	0.4	A-a-a
	575	9916	IV	石鏃	O-21集石21号内	頁岩	(1.6)	1.3	0.3	(0.6)	A-a-a
	576	7779	IV	石鏃	M-14	チャート	1.8	1.6	0.3	0.6	A-a-a
	577	2616	IV	石鏃	N-15	黒曜石D	1.9	1.5	0.4	0.8	A-a-a
	578	7819	IV	石鏃	M-14	黒曜石D	(2.1)	1.7	0.3	(0.8)	A-a-a
	579	7605	IV	石鏃	P-15	頁岩	2.3	1.6	0.4	1.0	A-a-a
	580	837	IV	石鏃	N-15	玉髄	2.2	(1.5)	1.4	(1.1)	A-a-a
	581	6513	IV	石鏃	O-15	チャート	0.8	1.0	0.2	0.2	A-a-b
	582	2779	IV	石鏃	N-15	チャート	1.4	1.6	0.2	0.4	A-a-b
	583	2764	IV	石鏃	N-14	黒曜石D	(1.2)	1.4	0.3	(0.4)	A-a-b
	584	11904	IV	石鏃	Q-20	黒曜石C	(1.3)	1.4	0.3	(0.4)	A-a-b
	585	1938	IV	石鏃	N-15	チャート	1.4	1.0	0.3	0.3	A-a-b
	586	496	IV	石鏃	N-14	チャート	(1.3)	1.1	0.2	(0.2)	A-a-b
	587	3074	IV	石鏃	N-15	頁岩	1.5	1.1	0.3	0.3	A-a-b
	588	2148	IV	石鏃	N-15	頁岩	1.6	(1.3)	0.3	(0.5)	A-a-b
	589	1147	IV	石鏃	M-13	玉髄	(1.4)	1.4	0.3	(0.4)	A-a-b
	590	7870	IV	石鏃	M-14	頁岩	0.3	1.3	0.3	0.5	A-a-b
	591	1480	IV	石鏃	M-14	チャート	1.4	1.3	0.2	0.4	A-a-b
	592	392	IV	石鏃	K-14	黒曜石C	(1.9)	(1.8)	0.4	(0.9)	A-a-b
	593	487	IV	石鏃	N-14	チャート	(1.6)	(1.5)	0.5	(0.8)	A-a-b
	594	2868	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.8)	(1.0)	(0.5)	(0.7)	B-a-b
	595	3738	IV	石鏃	Q-17	チャート	1.6	(1.4)	0.2	(0.4)	A-a-b
	596	6645	IV	石鏃	O-15	チャート	(1.8)	(1.3)	0.3	(0.5)	A-a-b
	597	7539	IV	石鏃	O-14	黒曜石D	1.9	1.6	0.3	0.6	A-a-b
	598	4859	IV	石鏃	Q-19	頁岩	2.0	1.5	0.5	0.9	A-a-b
	599	6750	IV	石鏃	O-16	チャート	2.0	1.6	0.4	1.0	A-a-b
	600	7197	IV	石鏃	O-14	頁岩	2.1	0.7	0.3	1.0	A-a-b
	601	6078	IV	石鏃	Q-19	チャート	2.3	1.8	0.5	1.3	A-a-b
	602	9189	IV	石鏃	R-19	黒曜石C	2.6	2.7	0.3	1.2	A-a-b
	603	3282	IV	石鏃	O-16	チャート	2.5	(1.9)	0.5	(1.5)	A-a-b
	604	2851	IV	石鏃	N-15	チャート	1.5	(1.3)	0.3	(0.4)	A-a-c
	605	1068	IV	石鏃	J-14	黒曜石B	1.4	1.3	0.3	2.0	A-a-c
	606	3172	IV	石鏃	E-9	頁岩	2.0	1.7	0.5	0.9	A-a-c
	607	325	IV	石鏃	L-14	黒曜石B	2.3	1.6	0.3	0.7	A-a-c
	608	262	IV	石鏃	L-14	黒曜石B	2.2	1.7	0.4	0.7	A-a-c
609	83	IV	石鏃	J-12	黒曜石B	2.3	1.7	0.4	0.9	A-a-c	
第 76 図	610	4272	IV	石鏃	R-19	黒曜石B	2.0	1.9	0.6	1.1	A-a-c
	611	3341	IV	石鏃	N-15	黒曜石B	2.1	1.9	0.6	1.1	A-a-c
	612	3199	IV	石鏃	I-11	チャート	(1.8)	1.4	0.4	(0.4)	A-a-d
	613	336	IV	石鏃	L-14	玉髄	2.4	1.9	0.4	1.4	A-a-c



第94図 縄文時代早期 石器20

平坦な両面には、研磨により形成されたとと思われる溝状の凹みが見られ、その内面には研磨痕のような筋状の痕跡が残る。794は石錘である。両サイド

に網を取り付けるために抉りがつくられる。頁岩製のものである。

縄文時代早期石器観察表

挿図番号	掲載番号	注記番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第76図	614	2442	IV	石鏃	N-15	チャート	(2.5)	(1.0)	0.5	(1.2)	A-a-c
	615	5858	IV	石鏃	Q-19	頁岩	1.7	(1.1)	0.4	(0.4)	A-a-c
	616	2273	IV	石鏃	N-15	頁岩	(1.7)	1.2	0.3	(0.5)	A-b-b
	617	6652	IV	石鏃	O-15	頁岩	(1.8)	(1.7)	0.3	(0.5)	A-b-b
	618	2003	IV	石鏃	N-15	頁岩	(2.4)	(1.4)	0.3	(0.7)	A-b-b
	619	7055	IV	石鏃	O-15	頁岩	2.5	1.4	0.4	1.1	A-b-b
	620	3234	IV	石鏃	O-16	チャート	2.1	1.4	0.3	0.9	A-b-b
	621	7606	IV	石鏃	P-15	頁岩	2.6	1.9	0.3	1.1	A-b-b
	622	3576	IV	石鏃	P-16	頁岩	2.9	1.8	0.3	1.0	A-b-b
	623	-	IV	石鏃	-	頁岩	2.8	1.9	0.7	2.4	A-b-b
	624	1631	IV	石鏃	M-14	頁岩	3.1	1.7	0.3	1.6	A-b-b
	625	12106	IV	石鏃	S-21	黒曜石C	(2.9)	1.4	0.5	(1.6)	A-b-b
	626	1684	IV	石鏃	M-14	頁岩	2.7	(1.8)	0.5	(1.3)	A-b-c
	627	5068	IV	石鏃	P-19	黒曜石B	(2.9)	(1.4)	0.4	(1.0)	A-b-c
	628	3351	IV	石鏃	P-16	黒曜石B	2.6	1.7	0.4	1.0	A-b-c
	629	3711	IV	石鏃	Q-17	頁岩	2.7	1.7	0.5	1.6	A-b-c
	630	10555	IV	石鏃	R-20	頁岩	(2.5)	1.9	0.5	(1.4)	A-b-c
	631	3559	IV	石鏃	P-16	頁岩	3.0	2.3	0.5	2.3	A-b-c
	632	1129	IV	石鏃	M-13	頁岩	(3.0)	(2.0)	0.6	(2.8)	A-b-c
	633	3295	IV	石鏃	O-16	チャート	(1.3)	(1.7)	0.2	(0.5)	B-a-b
	634	7041	IV	石鏃	P-15	チャート	1.6	1.6	0.3	0.6	B-a-b
	635	2274	IV	石鏃	N-15	頁岩	(1.4)	1.5	0.3	(0.5)	B-a-b
	636	2395	IV	石鏃	N-15	黒曜石D	(1.1)	(1.2)	0.3	(0.3)	B-a-b
	637	3471	IV	石鏃	P-16	チャート	2.0	1.8	0.3	0.8	B-a-b
	638	811	IV	石鏃	N-15	チャート	1.9	1.6	0.3	0.7	B-a-b
	639	2440	IV	石鏃	N-15	玉随	(2.1)	(1.6)	0.3	(0.7)	B-a-b
640	3101	IV	石鏃	M-14	チャート	2.0	1.2	0.2	0.4	B-a-b	
641	2470	IV	石鏃	N-15	安山岩	1.7	1.0	0.3	0.5	B-b-a	
第77図	642	923	IV	石鏃	N-15	玉随	1.6	0.8	0.3	0.4	B-b-a
	643	2870	IV	石鏃	N-15	チャート	2.1	(1.2)	0.5	(1.0)	B-b-a
	644	3285	IV	石鏃	O-16	チャート	(1.7)	1.2	0.3	(0.6)	B-b-b
	645	6755	IV	石鏃	O-16	チャート	(1.9)	(1.3)	0.2	(0.4)	B-b-b

縄文時代早期石器観察表

挿図 番号	掲載 番号	注記 番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第 77 図	646	4727	IV	石鏃	Q-19	黒曜石C	2.2	1.2	0.3	0.7	B-b-b
	647	7459	IV	石鏃	O-14	玉随	2.1	1.4	0.4	0.7	B-b-b
	648	915	IV	石鏃	N-15	玉随	2.1	1.3	0.3	0.8	C-a-a
	649	7306	IV	石鏃	R-19	玉随	(1.8)	1.3	0.4	(0.7)	C-a-a
	650	461	IV	石鏃	N-14	玉随	1.9	1.2	0.4	0.8	C-a-a
	651	2432	IV	石鏃	N-15	玉随	2.4	1.6	0.3	0.8	B-b-c
	652	48T21	IV	石鏃	-	玉随	2.6	1.6	0.3	0.9	B-b-c
	653	825	IV	石鏃	N-15	頁岩	2.0	0.9	0.4	0.5	B-b-c
	654	10095	IV	石鏃	Q-21	黒曜石	2.1	1.4	0.4	0.7	B-b-c
	655	3039	IV	石鏃	N-15	チャート	1.3	(1.2)	0.4	0.4	C-a-a
	656	6734	IV	石鏃	O-16	チャート	(1.8)	(1.3)	0.4	(0.8)	C-a-a
	657	2889	IV	石鏃	N-15	チャート	1.4	1.4	0.3	0.6	C-a-a
	658	7177	IV	石鏃	O-14	チャート	1.8	(1.6)	0.5	(1.2)	A-a-a
	659	6713	IV	石鏃	O-16	チャート	2.2	1.8	0.6	1.7	C-a-a
	660	3709	IV	石鏃	Q-17	黒曜石B	2.1	1.4	0.5	1.4	C-b-a
	661	11908	IV	石鏃	Q-20	玉随	2.5	1.8	0.7	2.7	C-b-a
	662	3291	IV	石鏃	O-16	頁岩	2.5	1.8	0.4	1.7	C-b-a
	663	7968	IV	石鏃	N-14	玉随	2.5	1.6	0.6	0.7	C-b-a
	664	580	IV	石鏃	N-14	頁岩	2.3	1.1	0.4	0.7	C-c-b
	665	8639	IV	石鏃	N-14	頁岩	2.9	1.1	0.3	1.1	C-c-b
666	1830	IV	石鏃	M-15	玉随	2.9	1.2	0.3	1.0	C-c-b	
667	2074	IV	石鏃	N-15	玉随	2.7	1.4	0.4	1.2	C-c-b	
第 78 図	668	6666	IV	石鏃	O-15	玉随	1.1	1.0	0.2	0.2	-
	669	2266	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.2)	(0.9)	(0.5)	(0.4)	-
	670	7179	IV	石鏃	O-14	チャート	(1.0)	(1.2)	(0.2)	(0.2)	-
	671	9875	IV	石鏃	Q-21	チャート	(1.2)	(1.8)	0.2	(0.3)	-
	672	2424	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.4)	(1.4)	0.4	(0.6)	-
	673	834	IV	石鏃	N-15	玉随	1.3	1.3	0.3	0.6	-
	674	3428	IV	石鏃	P-16	黒曜石D	(1.4)	(1.2)	(0.5)	(0.6)	-
	675	3073	IV	石鏃	N-15	頁岩	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.7)	-
	676	2313	IV	石鏃	N-15	チャート	(2.1)	(1.4)	(0.5)	(1.0)	-
	677	2995	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.6)	(1.3)	0.3	(0.6)	-
	678	2938	IV	石鏃	N-15	頁岩	3.0	2.0	0.3	1.4	-
	679	7100	IV	石鏃	O-14	黒曜石C	(1.5)	(0.8)	0.3	(0.2)	-
	680	3159	IV	石鏃	E-9	チャート	(1.5)	(0.9)	(0.3)	(0.3)	-
	681	854	IV	石鏃	N-15	チャート	1.6	1.1	0.3	(0.4)	-
	682	498	IV	石鏃	N-14	頁岩	(1.8)	(1.4)	0.5	(0.5)	-
	683	2381	IV	石鏃	N-15	玉随	(2.1)	(1.1)	0.3	(0.9)	-
	684	1964	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.0)	(0.9)	0.3	(0.4)	-
	685	842	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.5)	1.6	0.5	(1.0)	A-?-a
	686	564	IV	石鏃	N-14	チャート	(1.4)	2.1	0.4	(1.2)	?-?-a
	687	3286	IV	石鏃	O-16	チャート	(1.6)	(1.3)	0.3	(1.5)	A-?-b
	688	890	IV	石鏃	N-15	チャート	(0.8)	1.2	1.2	(0.1)	A-?-b
	689	2073	IV	石鏃	N-15	頁岩	(1.3)	1.8	0.3	(0.4)	A-?-b
	690	4670	IV	石鏃	Q-19	頁岩	(1.6)	2.1	0.3	(0.9)	A-?-b
	691	2407	IV	石鏃	N-15	玉随	(1.7)	1.7	0.4	(0.8)	B-?-b
	692	1952	IV	石鏃	N-15	チャート	(1.3)	(1.8)	0.3	(0.5)	?-?-b
	693	2181	IV	石鏃	N-15	頁岩	(1.1)	(1.6)	0.3	(0.4)	?-?-c
	694	2426	IV	石鏃	N-15	玉随	(1.6)	1.8	0.4	(0.7)	B-?-c
	695	3091	IV	石鏃	N-14	玉随	(2.0)	1.5	0.4	(0.8)	B-?-c
	696	3468	IV	石鏃	P-16	玉随	(1.5)	1.7	0.3	(0.6)	B-?-c
	697	12189	IV	石鏃	T-20	黒曜石	(1.9)	(1.4)	0.5	(1.0)	A-?-c
698	7798	IV	石鏃未製品	M-14	黒曜石	1.6	1.0	0.5	0.6	-	
699	3488	IV	石鏃未製品	P-16	チャート	(1.4)	2.0	0.4	(1.6)	-	
700	2234	IV	石鏃未製品	N-15	頁岩	(1.1)	2.3	0.3	(0.6)	-	
701	2533	IV	石鏃未製品	N-15	チャート	1.5	1.3	0.3	0.4	-	
702	6346	IV	石鏃未製品	P-15	チャート	1.8	2.0	0.7	2.2	-	
703	3332	IV	石鏃未製品	O-15	チャート	2.1	2.0	0.6	(2.6)	-	
第 79 図	704	7898	IV	石鏃未製品	M-14	黒曜石A	1.3	1.4	0.3	0.5	-
	705	6716	IV	石鏃未製品	O-16	チャート	1.7	1.5	0.2	0.3	-
	706	3008	IV	石鏃未製品	N-15	頁岩	(1.4)	(1.3)	0.3	(0.4)	-
	707	7114	IV	石鏃未製品	O-14	黒曜石D	1.7	1.3	0.2	0.3	-
	708	3353	IV	石鏃未製品	P-16	チャート	(2.4)	1.6	0.3	(0.7)	-
	709	7458	IV	石鏃未製品	O-14	頁岩	2.4	1.7	0.4	1.4	-
	710	6314	IV	石鏃未製品	P-15	チャート	2.4	2.0	0.5	1.5	-
	711	2276	IV	石鏃未製品	N-15	玉随	2.0	(1.2)	(0.3)	(0.5)	-
	712	534	IV	石鏃未製品	N-14	黒曜石C	3.2	1.8	0.6	2.9	-
	713	7759	IV	石鏃未製品	M-14	玉随	(2.7)	(2.0)	0.9	(3.6)	-
714	656	IV	石鏃未製品	N-14	玉随	3.1	2.0	0.7	3.0	-	
715	6659	IV	石鏃未製品	O-15	チャート	(3.0)	(2.3)	0.7	(3.0)	-	
第 80 図	716	7488	IV	石槍	O-14	頁岩	(6.9)	3.1	0.8	16.4	-
	717	744	IV	石槍	N-15	頁岩	6.8	1.8	0.6	5.8	-
	718	692	IV	石槍	N-14	安山岩	5.5	2.5	0.7	8.0	-
	719	1075	IV	石槍	J-14	頁岩	(6.3)	3.7	0.6	11.6	-

縄文時代早期石器観察表

挿図 番号	掲載 番号	注記 番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第80図	720	2025	IV	石槍	N-15	頁岩	4.5	3.1	0.5	6.6	-
	721	7730	IV	石槍	M-14	安山岩	(3.7)	2.9	1.2	17.7	-
	722	4029	IV	石匙	Q-18	玉隨	6.1	5.8	1.1	38.0	-
	723	6476	IV	石匙	O-15	安山岩	7.8	3.9	1.4	39.3	-
	724	3935	IV	石匙	R-18	安山岩	3.6	2.4	0.7	5.9	-
第81図	725	3311	IV	スクレイパー	O-15	頁岩	6.3	11.7	1.2	101.2	-
	726	1797	IV	スクレイパー	M-15	頁岩	5.2	9.3	1.4	55.0	-
	727	6517	IV	スクレイパー	O-15	頁岩	6.7	8.4	1.6	66.1	-
	728	686	IV	スクレイパー	N-14	頁岩	2.7	7.6	1.2	17.9	-
	729	-	IV	スクレイパー	-	チャート	4.2	3.3	0.7	13.9	-
	730	7048	IV	スクレイパー	P-15	チャート	7.0	3.0	1.1	20.2	-
	731	569	IV	スクレイパー	N-14	頁岩	10.6	6.6	1.5	122.1	-
	732	413	IV	スクレイパー	J-13	頁岩	10.2	4.7	1.6	82.4	-
第82図	733	3561	IV	スクレイパー	P-16	頁岩	9.4	11.3	2.2	247.6	-
	734	771	IV	スクレイパー	N-15	頁岩	2.8	2.5	0.7	5.6	-
	735	15	IV	スクレイパー	N-14	頁岩	1.7	2.8	0.7	3.6	-
	736	9949	IV	スクレイパー	Q-21	玉隨	4.8	5.2	0.6	37.9	-
	737	777	IV	スクレイパー	N-15	頁岩	7.8	7.0	2.3	151.1	-
	738	371	IV	スクレイパー	K-13	頁岩	8.5	(12.0)	2.6	420.0	-
	739	4238	IV	石核	R-18	黒曜石	3.4	2.9	1.6	12.1	-
	740	7494	IV	楔形石器	O-14	頁岩	3.0	3.2	2.6	7.6	-
第83図	741	1924	IV	楔形石器	N-15	チャート	1.6	1.4	0.6	1.1	-
	742	10874	IV	使用痕剥片	S-21	チャート	2.0	0.9	0.4	0.4	-
	743	7069	IV	石核	O-15	頁岩	8.1	7.7	2.7	190	-
	744	679	IV	石核	N-14	頁岩	14.5	8.1	5.4	790	-
	745	3783	IV	石核	Q-17	頁岩	11.1	9.8	3.5	480	-
第84図	746	11956	IV	石核	T-20	頁岩	12.3	12.5	7.3	1300	-
	747	9687	IV	磨製石斧	P-21	頁岩	12.1	4.9	2.2	195	-
	748	1430	IV	磨製石斧	M-14	頁岩	7.7	3.0	2.8	189	-
	749	7456	IV	磨製石斧	O-14	頁岩	11.2	3.2	2.5	135	-
	750	9459	IV	磨製石斧	Q-19	頁岩	15.7	4.0	2.7	230	-
	751	3186	IV	磨製石斧	E-9	頁岩	16.5	4.0	2.5	215	-
第85図	752	2108	IV	磨製石斧	N-15	頁岩	9.5	3.1	1.4	50	-
	753	3369	IV	打製石斧	P-16	頁岩	13.4	4.5	2.5	160	-
	754	11633	IV	打製石製品	P-21	頁岩	19.0	4.6	1.4	150	-
	755	3955	IV	打製石斧未製品	R-18	頁岩	9.2	4.7	3.2	130	-
	756	1066	IV	打製石斧未製品	J-14	頁岩	16.1	7.0	3.3	515	-
	757	328	IV	打製石斧未製品	L-14	頁岩	13.2	6.3	4.5	465	-
第86図	758	3701	IV	環状石斧	Q-17	頁岩	11.8	11.3	1.9	320	-
	759	241	IV	礫器	L-13	頁岩	11.6	11.0	4.6	735	-
	760	3699	IV	礫器	Q-17	頁岩	13.4	10.4	3.4	685	-
	761	11371	IV	礫器	R-20	頁岩	9.4	12.7	2.9	480	-
第87図	762	9817	IV	礫器	P-21	頁岩	7.6	10.1	4.7	420	-
	763	4953	IV	礫器	Q-19	頁岩	14.7	9.8	4.5	890	-
	764	9699	IV	礫器	P-21	頁岩	8.8	5.8	2.9	185	-
	765	2453	IV	礫器	N-15	頁岩	10.4	8.3	4.1	390	-
	766	1537	IV	礫器	M-14	頁岩	12.6	9.3	1.8	305	-
	767	9134	IV	礫器	R-19	頁岩	11.5	7.4	4.2	600	-
第88図	768	6327	IV	礫器	P-15	頁岩	14.6	9.3	3.7	470	-
	769	3380	IV	磨石	P-16	安山岩	6.1	5.8	2.0	119	-
	770	3810	IV	磨石	R-17	安山岩	8.2	7.4	4.2	365	-
	771	214	IV	磨石	L-13	凝灰岩	(11.8)	(11.0)	3.1	305	-
	772	904	IV	磨石	N-15	安山岩	10.8	8.5	5.0	630	-
	773	10802	IV	磨石	S-20	安山岩	13.0	10.4	5.5	1095	-
	774	3340	IV	磨石	N-15	安山岩	1.9	9.5	5.6	920	-
	775	905	IV	磨石	N-15	安山岩	10.8	9.6	4.9	730	-
第89図	776	8666	IV	磨石	N-15	安山岩	6.5	4.2	3.0	165	-
	777	3930	IV	敲石	R-18	砂岩	4.3	3.8	3.2	79	-
	778	903	IV	敲石	N-15	安山岩	9.5	8.0	5.1	560	-
	779	10801	IV	敲石	S-20	安山岩	11.7	8.8	4.5	740	-
第90図	780	10803	IV	敲石	S-20	安山岩	12.0	9.3	5.1	860	-
	781	-	表採	凹石	-	砂岩	8.3	6.2	4.4	280	-
	782	2015	IV	凹石	N-15	砂岩	9.8	7.6	5.3	620	-
	783	979	IV	凹石	F-11	砂岩	10.3	7.9	2.2	320	-
	784	955	IV	凹石	G-11	砂岩	10.1	4.0	9.3	490	-
	785	1412?	IV	凹石	-	砂岩	13.0	6.5	3.1	370	-
第91図	786	6216	IV	敲石	P-16	砂岩	8.8	3.9	2.3	130	-
	787	1789	IV	石皿	M-15	安山岩	42.0	28.6	6.7	12100	-
第92図	788	9193	IV	石皿	R-19	安山岩	34.3	37.8	7.3	12600	-
	789	3303	IV	石皿	O-15	花崗岩	33.8	28.0	8.5	12500	-
第93図	790	4225	IV	石皿	R-18	安山岩	34.9	22.0	4.9	8100	-
	791	1736	IV	石皿	M-13	安山岩	22.8	25.5	6.0	3900	-
第94図	792	7594	IV	有溝砥石	P-15	安山岩	4.4	5.3	0.6	17.1	-
	793	7640	IV	有溝砥石	Q-16	凝灰岩	6.7	4.3	0.8	35.0	-
	794	3769	IV	石錘	Q-17	頁岩	5.7	8.0	2.0	139.3	-

3 縄文時代前期・後期の調査

縄文時代前期・後期については、遺構は検出されず土器も約30点と非常に少ないことから、まとめて報告しておきたい。土器は同一個体と思われる破片が多く、個体数としては5点であった。

795～797はXVII類に分類したものである。795・796は同一個体で、外面は条痕文の上に刻目を施した微隆起突帯が廻る。内面の器面調整も条痕文である。前期の轟式土器に比定される。

798～801はXVIII類に分類したものである。798・799は同一個体で、798は口縁部である。800・801も同一個体である。4点とも外面には横位の短沈線が施される。前期曾畑式土器に比定される。

802～806はXIX類土器に分類したものである。5点とも同一個体であるが、接合することはできなかった。外面の文様は、沈線と細い棒状工具の先端部による刺突文によって構成されているが、全体の様子はつかめなかった。内面調整は、上部はミガキで、下部は条痕文である。後期に位置づけられるものと思われるが、型式名は不明である。

807はXX類土器に分類したものである。外面は口縁部付近にのみ浅い凹線が施され、以下は無文である。後期の阿高式土器の系統に比定されるものと思われる。

4 縄文時代晩期の調査

縄文時代晩期の調査としては、遺構が土坑4基と柱穴列が検出され、遺物は土器と石器が出土した。

(1) 遺構 (第97図)

1号土坑 (第97図)

O-15区、III層上面で検出された。平面プラン長径約1.6m×短径約1.2mの楕円形である。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (第97図)

Q-17区、III層上面で検出された。平面プランは直径約1.5mのほぼ円形である。土坑内からは縄文時代晩期に相当する土器片12点と石1点、炭化物が出土した。土器片は小片が多く、掲載できるものはなかった。炭化物(炭化材)については樹種同定及び放射性炭素年代測定を行っており、常緑広葉樹の

コナラ属アカカシ亜属で、年代は3140BP(修正年代3000BP)の結果を得ている。808は浅鉢形土器の底部である。ミガキ調整が施される。

3号土坑 (第97図)

O-21区、III層上面で検出された。平面プランは歪な楕円形で、長径約2.3m×短径約1.7mを測る。土坑内からは土器片14点と剥片3点が出土したが、掲載に耐えうる資料は1点だけであった。

柱穴列 (第97図)

R-20・21区、IV層上面で検出された。柱穴の平面の形状はほぼ円形であるが、深さが両端のものだけやや浅い。また、右端の柱穴の軸はやや南西にずれる。

(2) 遺物 (第98図 809～820・第99図 821～832)

①土器 (第98図 809～820・第99図 821～826)

土器については、深鉢形土器と浅鉢形土器に大きく二つとその他のものに分類し、深鉢形土器と浅鉢形土器についてはさらにXXI類土器とXXII類土器に分類した。その他の土器はXXIII類とした。出土量はそれほど多くない。

深鉢形土器 (第98図・第99図 809～821)

XXI類土器に分類したものは809の1点であった。809は口縁部で、外面に4条の沈線が廻るものである。先端部は欠損している。

XXII類土器に分類したものは、810～821である。810～818は口縁部である。810～814は、文様帯に沈線状の条痕文が斜位または横位に施される。815～818も文様帯に条痕文が施されるものと思われるがはっきりしない。819～821は胴部である。器面調整は内外面ともヘラナデであるが、821は部分的に条痕文が観察される。

浅鉢形土器 (第99図 822～824)

822～824はXXII類土器に分類したものである。822は口縁部から胴部で、口縁部は幅広につくられる。内外面はミガキ調整が施される。823・824は頸部から口縁部までが非常に短いものである。内外面はミガキ調整が施される。823は頸部と肩部が「く」の字状に屈曲する。

その他 (第99図 825・826)

825・826はXXIII類土器に分類したものである。縄

文時代晩期に相当するものと思われるが、深鉢形または浅鉢形とは異なる形状のものである。

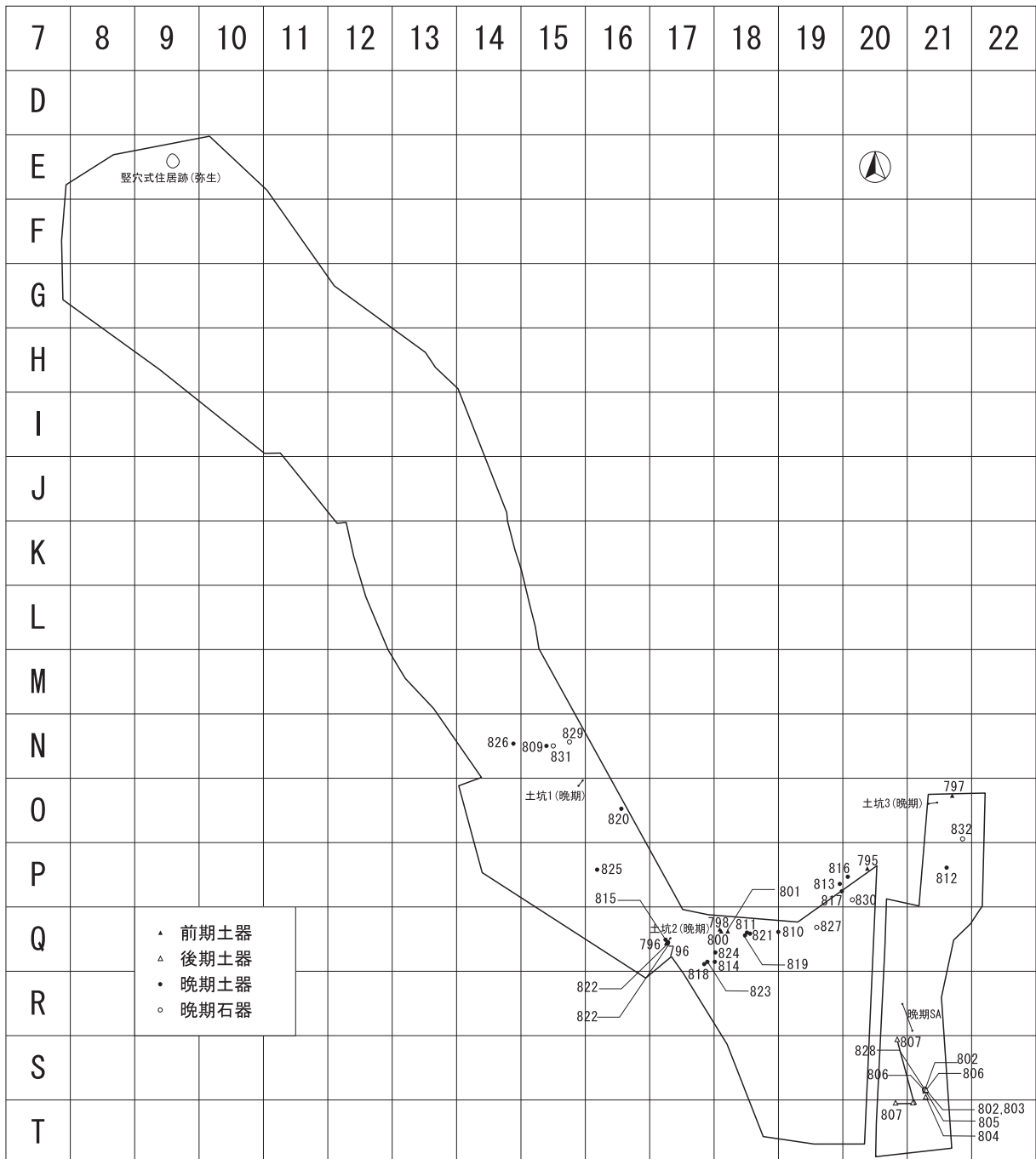
粗製のもので、器壁が厚い。

②石器 (第99図 827~832)

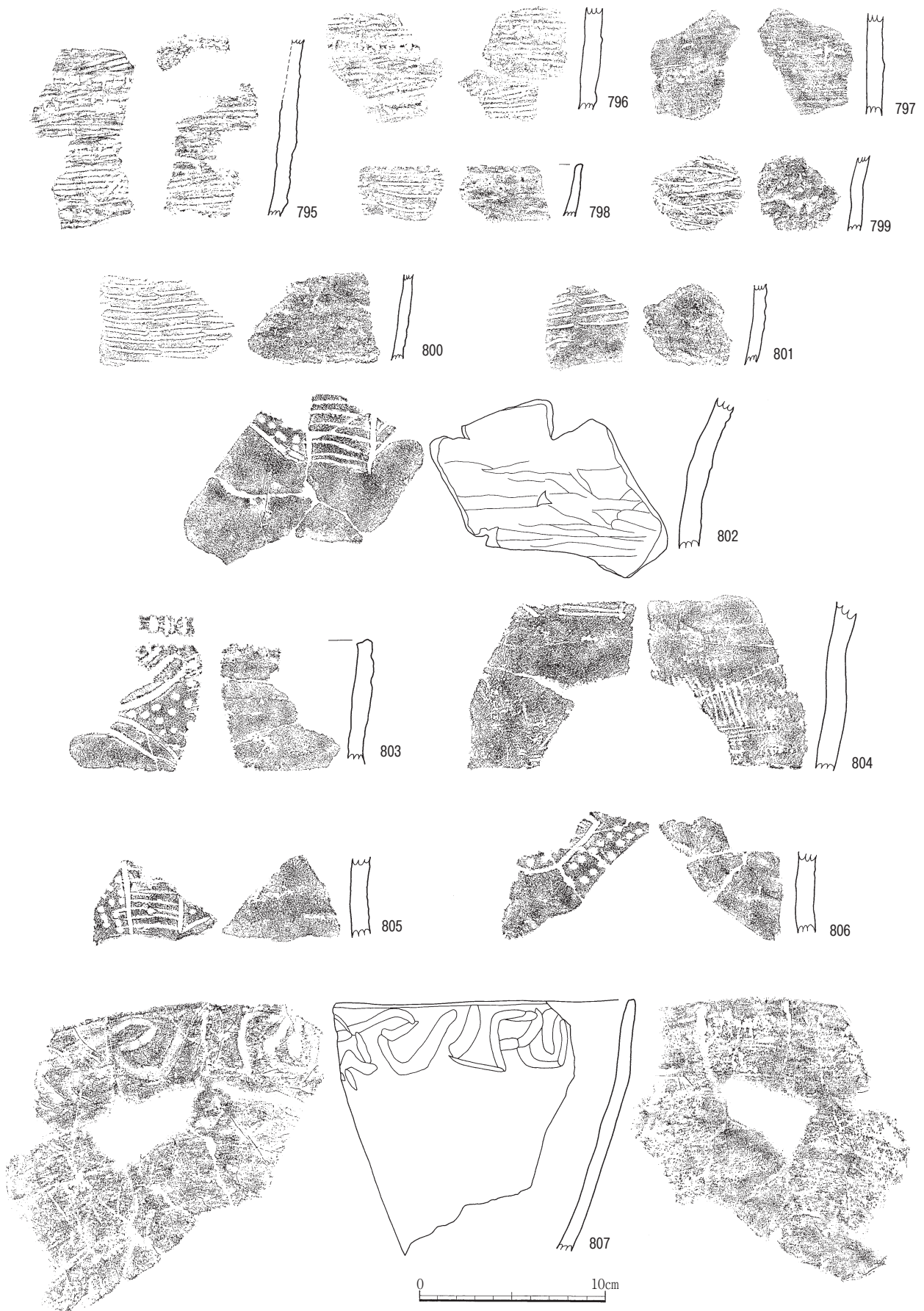
石器は打製石鏃2点、磨製石鏃3点、打製石斧1点が出土している。

827・828は打製石鏃である。827は基部が欠損しており先端部だけが残る。刃部は細かく丁寧な押圧剥離により鋸歯状をなす。上牛鼻産の黒曜石と思わ

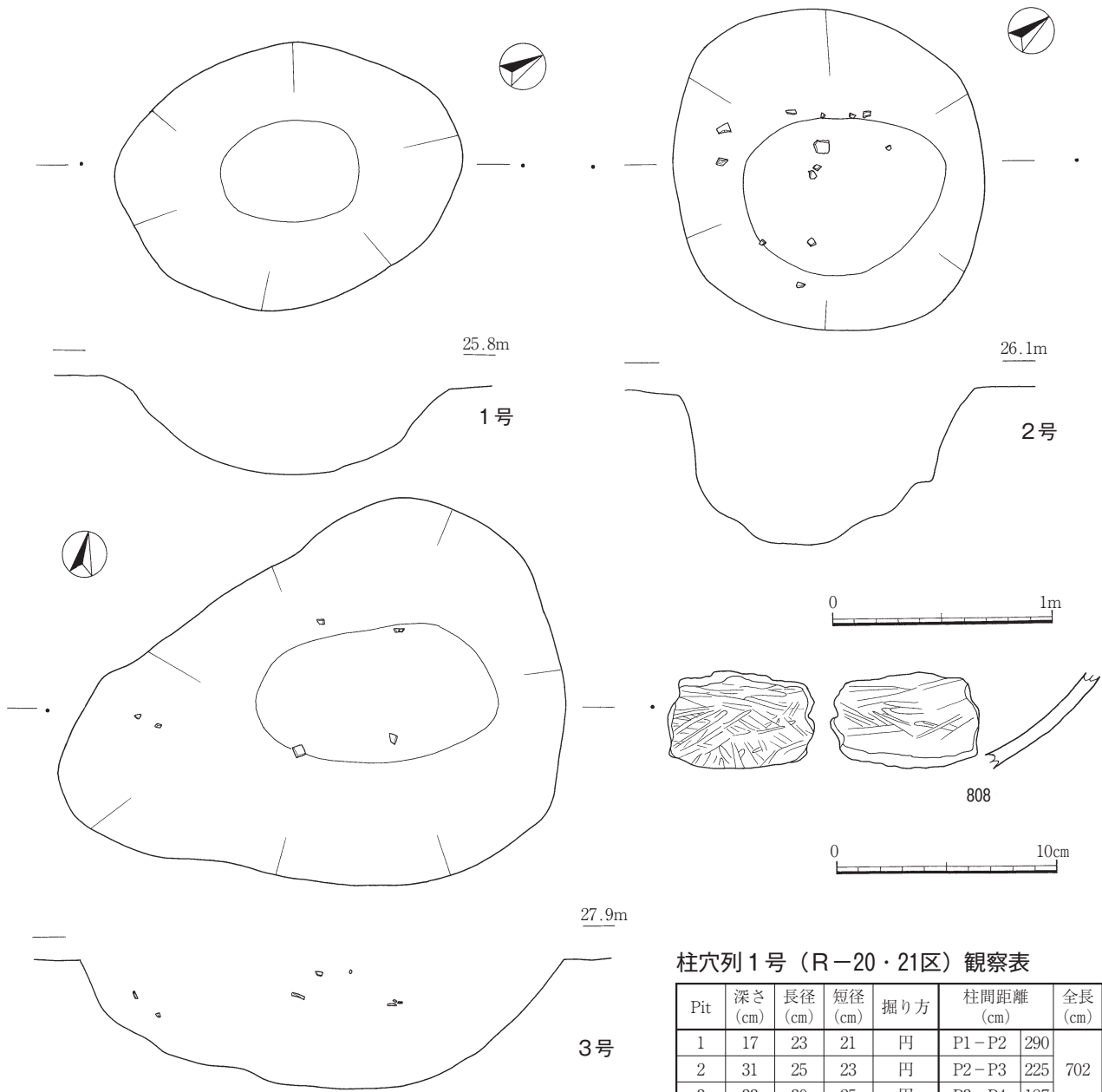
れる。828は、挟りの深いタイプのものと思われる。鉄石英製である。829~831は磨製石鏃である。全て頁岩製である。ほぼ正三角形の形状を呈し、両面とも丁寧に磨かれている。829は先端部のみである。832は打製石斧である。形状は幅広く扁平で非常に薄い。刃部は使用痕も残り、摩耗が激しい。土掘り具と思われる。頁岩製である。



第95図 縄文時代前期~弥生時代遺構配置図及び遺物出土状況

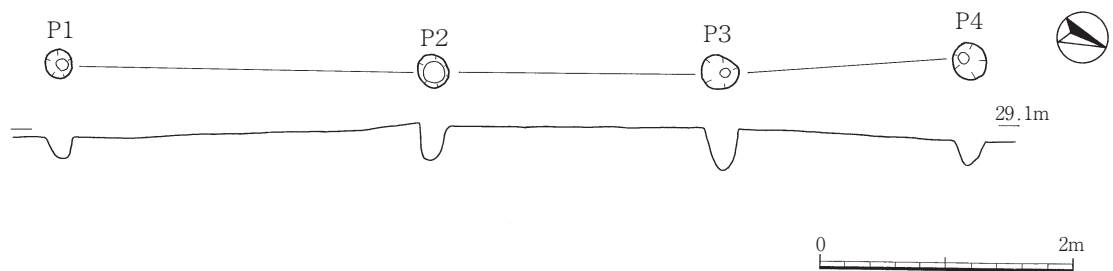


第96図 縄文時代前期・後期 土器 (第XII類~第XX類)

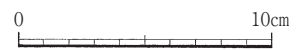
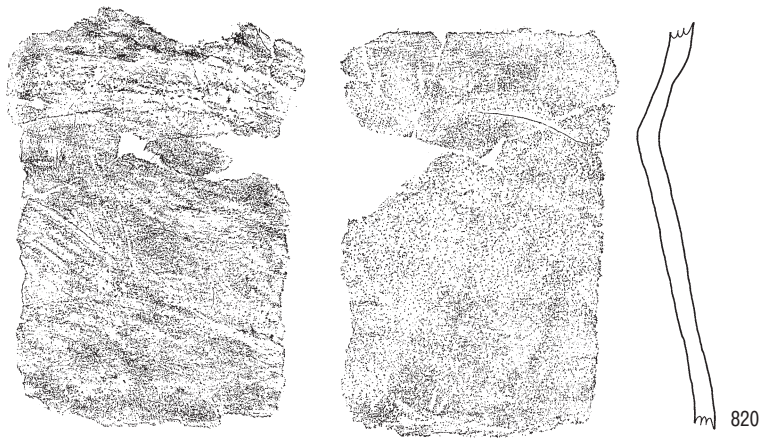
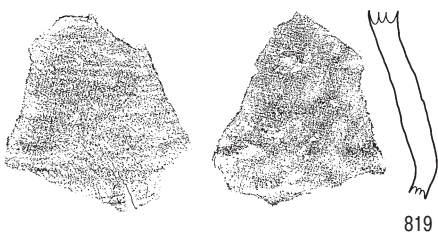
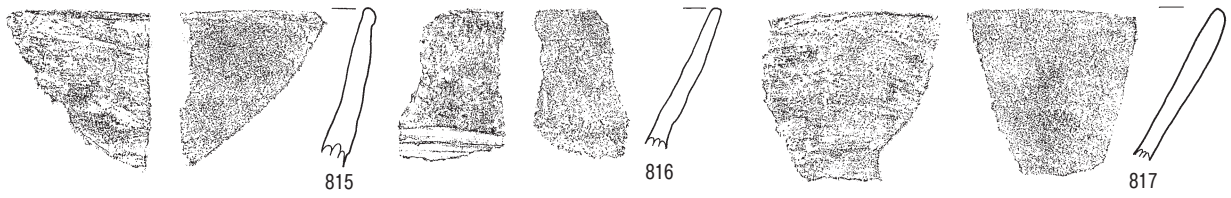
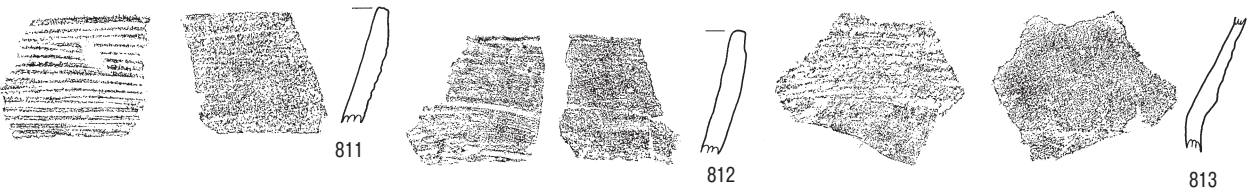
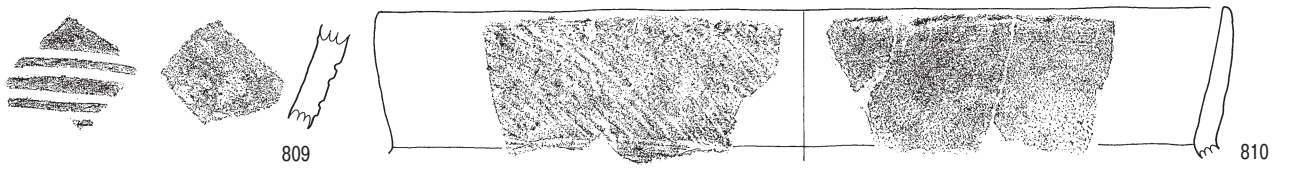


柱穴列 1号 (R-20・21区) 観察表

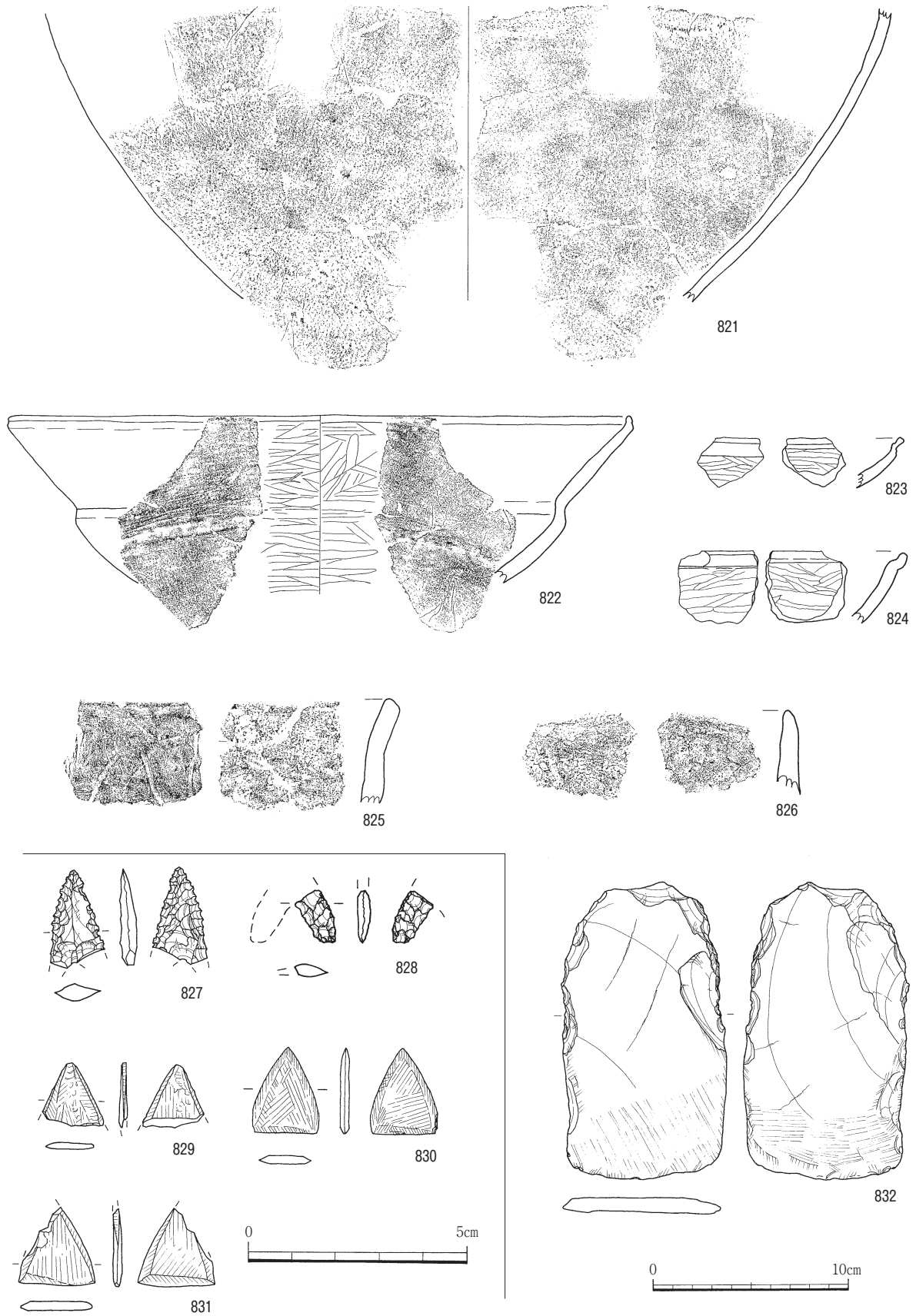
Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	柱間距離 (cm)	全長 (cm)
1	17	23	21	円	P1-P2	290
2	31	25	23	円	P2-P3	225
3	33	30	25	円	P3-P4	187
4	20	32	25	円		



第97図 土坑1～3・土坑3内出土遺物及び柱穴列



第98図 縄文時代晩期出土遺物 1



第99図 縄文時代晩期出土遺物2

第6節 弥生時代の調査

弥生時代の包含層はⅡ層であるが、本遺跡ではほとんどの場所で削平を受けている。遺跡の北側E-9区で竪穴式住居跡が1軒検出されたが、遺構の部分だけの検出で、遺物包含層は削平されている。

竪穴式住居跡（第100図）

弥生時代の竪穴式住居跡はE-9区で1軒が検出された。

長軸はほぼ東西方向で4.20m、短軸は3mの長方形プランで深さは50~60cmである。柱穴は東壁の南北隅に2個並び西側壁は2段になり、上部は不整形である。遺物は北壁よりの床面に直上に集中して見られるが個体数は多くはない。中央付近に炭化物の集中した黒色土が認められる。

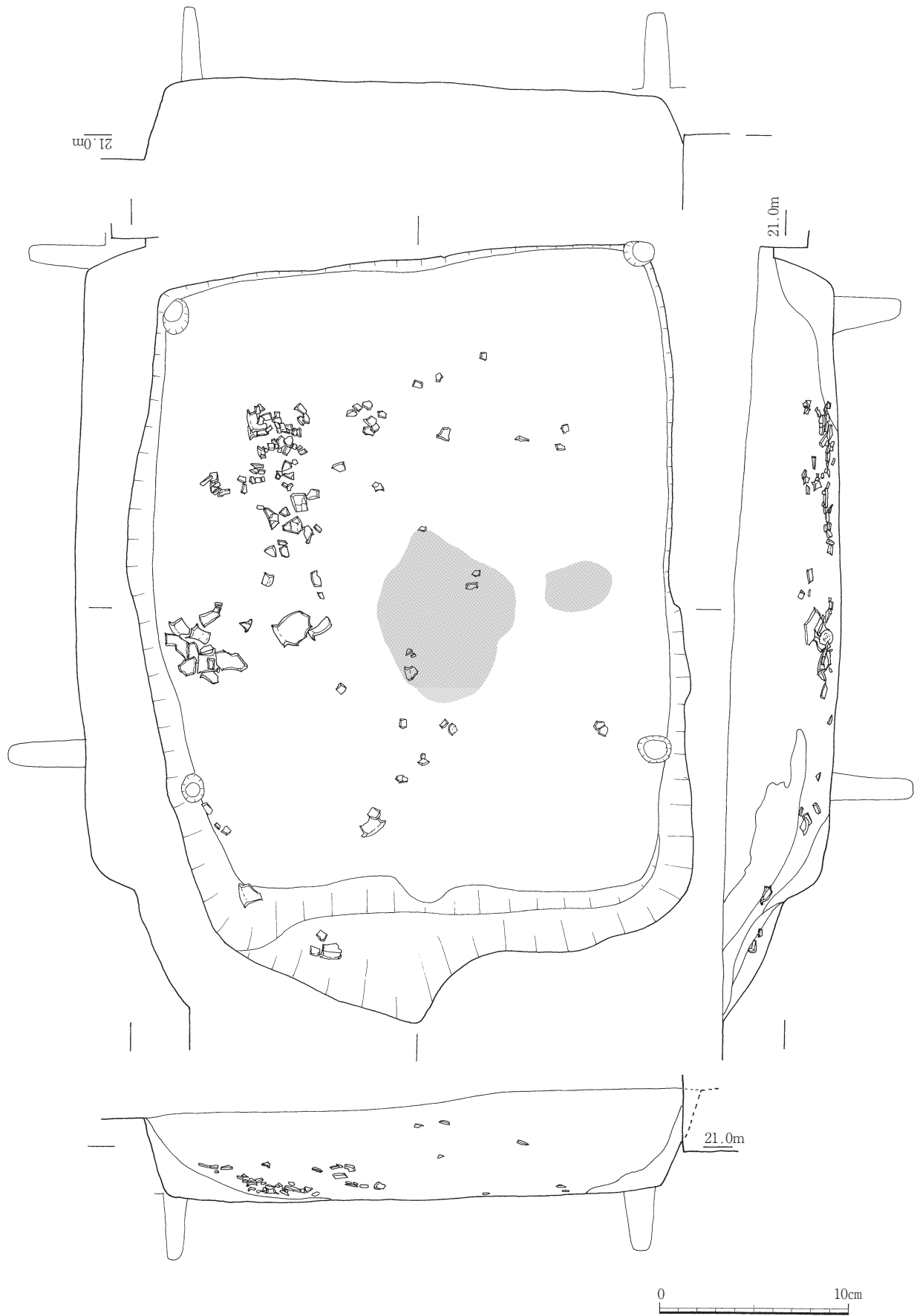
833~839は甕形土器である。833は口縁部径22cm、器高22cmを測る。底部は充実した脚台であるが、中央部がわずかに凹む。口縁部下部には1条の三角形貼付突帯を廻らす。器面調整は丁寧なハケ目調整であるが一部ヘラ磨きも見られる。834は口縁部径21.8cm、器高26cmを測る。底部は充実した脚台でわずかに凹む。胴部はやや膨らみ口縁部近くで内湾する。口縁部は逆L字条に外反する。外部はハケ目調整後ヘラ磨きが施され、内面はヘラ磨きである。835は口縁部径14cmを測る。胴部は膨らまず、口縁部はやや垂れ下がり気味に外反する。口縁部下位に1条の沈線を廻らす、すれ違うものである。836は口縁部径23cmを測り、口縁部は逆L字条に外反する。837と838は口縁部が垂れ下がり気味に外反する

縄文時代前期・後期・晩期土器観察表

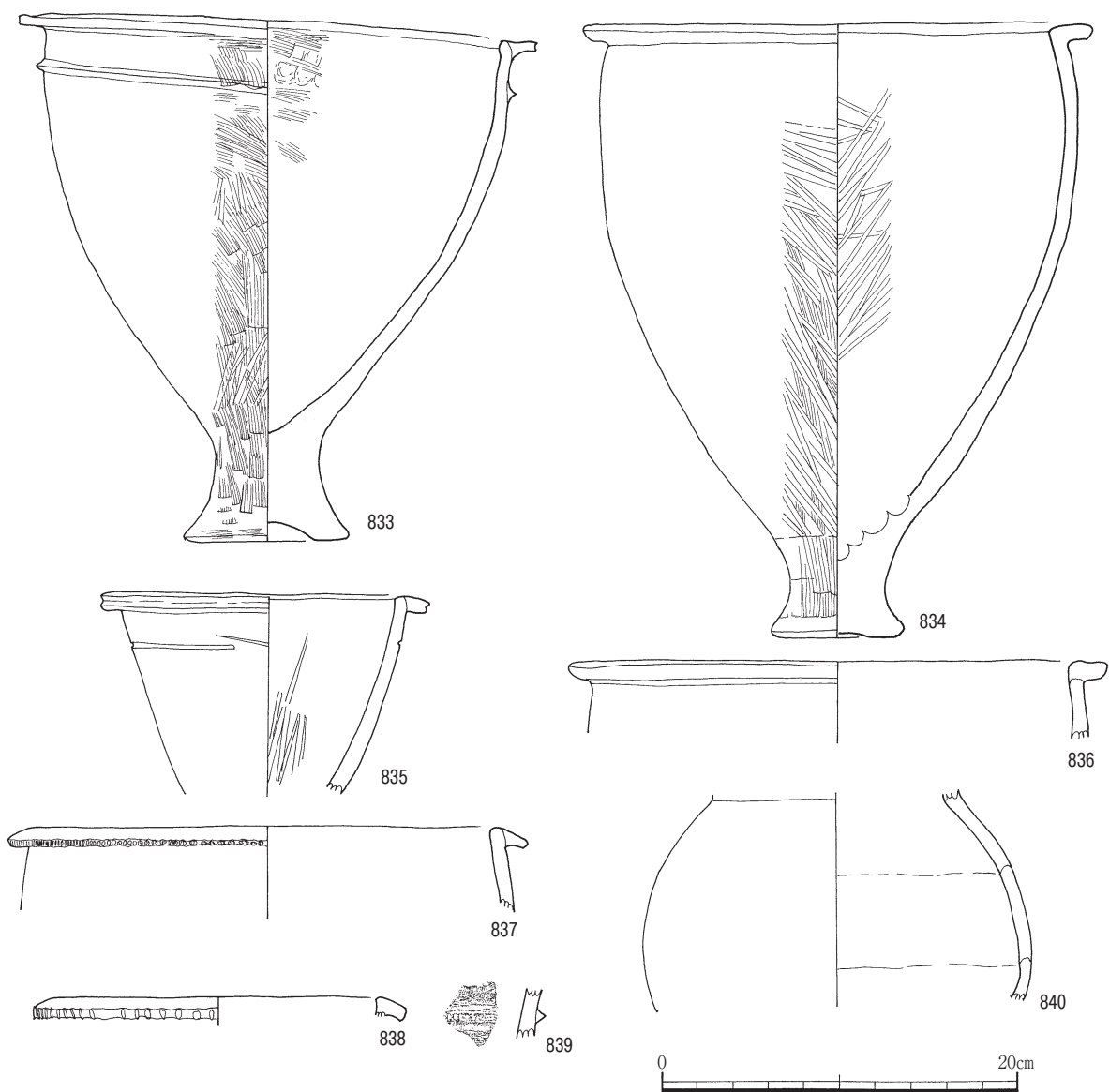
挿図番号	掲載番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第96図	795	5113	-	Ⅲ	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○		良	条痕文・微隆突帯に刻目	条痕文	
	796	3615・3612	Q-17	Ⅲ	胴部	にぶい赤褐	橙	○		○		良	条痕文・微隆突帯に刻目	条痕文	
	797	9911	O-21	Ⅳ	胴部	にぶい褐	にぶい褐			○		良	微隆突帯に刺突文	ナデ	
	798	4031	Q-18	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	短沈線	ナデ	
	799	-	-	Ⅳ	胴部	にぶい橙	にぶい橙			○		良	短沈線	ナデ	
	800	4026	Q-18	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙			○		良	短沈線	ナデ	
	801	4043	Q-18	Ⅳ	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	短沈線	ナデ	
	802	11998・12001	S-21	Ⅲ	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	条痕文・刺突文	ナデ	
	803	12001	S-21	Ⅳ	胴部	にぶい赤褐	黒褐	○	○			良	条痕文・刺突文	ナデ	
	804	11426	S-21	Ⅳ	胴部	にぶい赤褐	橙	○	○			良	条痕文	貝殻条痕後ナデ	
805	12052	S-21	Ⅳ	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○			良	条痕文・刺突文	ナデ		
806	12000・11997	S-21	Ⅲ	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○			良	条痕文・刺突文	ヘラケズリ後ナデ		
807	11976・11977 11078・12045	S-22	Ⅳ	口縁~胴部	にぶい黄褐	明赤褐	○	○			良	口縁部に凹線文	ナデ		
第97図	808	土坑2	Q-17	-	底部	黒	黒					良	ミガキ	ミガキ	
第98図	809	1946	N-15	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	沈線	ナデ	
	810	4423	Q-19	Ⅲ	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	811	4055	Q-18	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○		○		良	条痕文	条痕後ナデ	
	812	9660	P-21	Ⅲ	口縁部	にぶい黄	にぶい黄橙	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	
	813	5028	P-19	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	褐灰			○		良	条痕後ナデ	ナデ	
	814	3862	Q-18	Ⅲ	口縁~胴部	橙	にぶい赤褐	○	○			良	条痕後ナデ	ケズリ後ナデ	
	815	3630	Q-17	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	橙			○		良	ヘラナデ	ナデ	
	816	6153	P-20	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙			○		良	ヘラナデ	ナデ	
	817	5030	P-19	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○				良	ヘラナデ	ナデ	
	818	3780	Q-17	Ⅲ	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐			○		良	ヘラナデ	ナデ	
819	4060	Q-18	Ⅲ	胴部	にぶい橙	にぶい橙			○	○	良	ヘラナデ	指ナデ		
820	3254	O-16	Ⅳ	胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○			良	ヘラナデ	ナデ		
第99図	821	4052	Q-18	Ⅲ	胴部	灰黄褐	褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	822	3618・3619	Q-17	Ⅲ	口縁部	にぶい褐	にぶい褐			○		良	ミガキ	ミガキ	
	823	3771	Q-17	Ⅲ	口縁部	浅黄橙	浅黄橙	○				良	ミガキ	ミガキ	
	824	3863	Q-18	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	
	825	6277	P-16	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	褐			○	○	良	ナデ	ナデ	
	826	568	N-14	Ⅳ	口縁部	暗灰黄	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	

縄文時代晩期石器観察表

挿図番号	番号	注記番号	器種	出土区	層位	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考分類
第99図	827	3876	打製石鏃	Q-19	Ⅲ	黒曜石	2.2	1.3	0.4	0.8	-
	828	11995	打製石鏃	S-21	Ⅲ	鉄石英	1.2	0.9	0.3	0.3	-
	829	2034	磨製石鏃	N-15	Ⅳ	頁岩	1.5	1.4	0.2	0.3	-
	830	5207	磨製石鏃	P-20	Ⅳ	頁岩	2.0	1.5	0.2	0.8	-
	831	1944	磨製石鏃	N-15	Ⅳ	頁岩	1.8	1.8	0.2	0.7	-
	832	9901	打製石斧	O-21	Ⅲ	頁岩	15	8.2	0.8	175	-



第100図 弥生時代中期 竪穴式住居跡



第101図 竪穴式住居内出土遺物

もので、端部に刻目を施すものである。口縁部径は、837は22cm、838は16cmである。837の内面には粘痕が観察される。839は刻目突帯を有する胴部である。

840は壺形土器の胴部である。

土器は弥生時代中期前半の incoming 式土器と思われ、住居跡も同時期と考えられる。

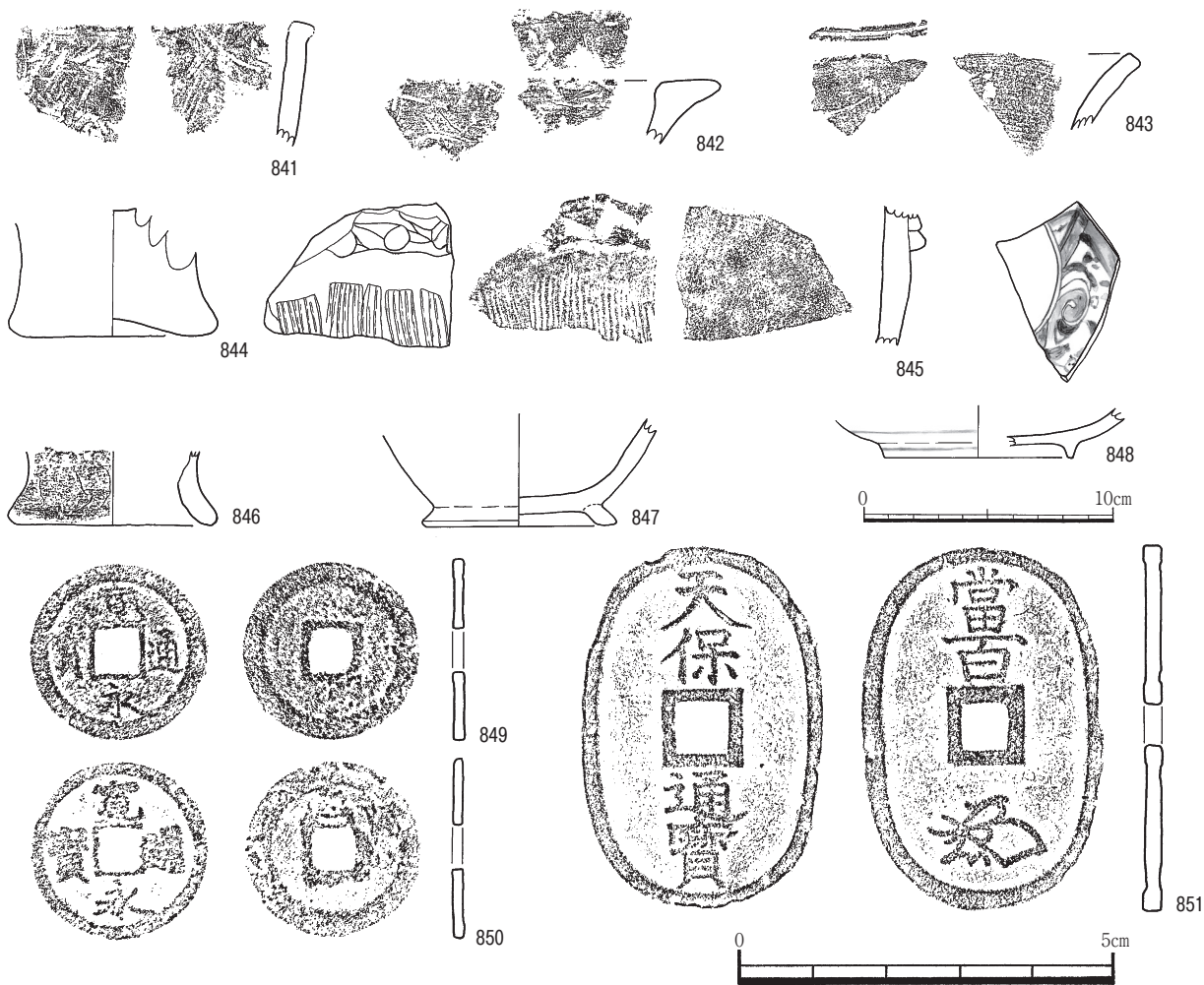
第7節 その他の時代の調査

本遺跡は全体的に、弥生時代以降に相当するⅡ層・Ⅲ層が削平されているが、表層から弥生時代以降の時代の遺物がわずかではあるが出土していることから、これらの出土遺物についても報告しておく

たい。

841～844は弥生時代の土器である。841は甕の口縁部である。前期のものと思われる。842は甕、843は壺の口縁部である。844は充実高台の底部である。842～844は中期に相当するものと思われる。

845・846は古墳時代の成川式土器である。845は甕の胴部である。外面は縄目突帯が貼り付けられハケ目調整が施される。846は底部である。847は土器の碗である。底部はヘラ切りで、高台は貼り付けである。848は景德鎮窯系の青花皿である。849・850は寛永通宝、851は天保通宝である。



第102図 その他の出土遺物

弥生時代土器観察表

挿図 番号	掲載 番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第 101 図	833	-	E-9	住居内	口縁~底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ハケ目・ヘラミガキ	ナデ	
	834	-	E-9	住居内	口縁~底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ハケ目後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	835	-	E-9	住居内	口縁~胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○				良	ナデ	ナデ	
	836	-	E-9	住居内	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	837	-	E-9	住居内	口縁部	橙	橙		○	○		良	ナデ・口縁端部刻目	ヘラミガキ	内面に初痕
	838	-	E-9	住居内	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐		○	○		良	ナデ・口縁端部刻目	ナデ	
	839	-	E-9	住居内	胴部	黒褐	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ・突帯	ナデ	外面煤付着
	840	-	E-9	住居内	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ?	ナデ	

その他の遺物観察表

観察 表	掲載 番号	遺物番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第 102 図	841	351	K-13	IV	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	
	842	-	-	表	口縁部	にぶい橙	にぶい褐		○	○		良	ナデ	ナデ	
	843	432	J-13	IV	口縁部	にぶい褐	灰黄褐		○	○		良	ナデ	ナデ	
	844	-	-	表	底部	にぶい黄橙	にぶい橙		○	○		良	ナデ	ナデ	
	845	-	-	表	胴部	橙	橙	○	○			良	ハケ目	ナデ	
	846	-	-	表	底部	にぶい橙	にぶい橙		○			良	ナデ	ナデ	
	847	-	-	表	胴部~底部	浅黄橙	にぶい黄橙			○		良	ナデ	ナデ	
	848	-	-	表	胴部~底部	-	-					良	-	-	
	849	-	-	表	-	-	-					-	-		
	850	-	-	表	-	-	-					-	-		
	851	-	-	表	-	-	-					-	-		

第8節 小結

桜谷遺跡では旧石器時代、縄文時代草創期・早期・前期・後期・晩期、弥生時代の遺構遺物が検出された。

旧石器時代は、ブロックが2か所検出された。ブロックはナイフ形石器文化期のものと細石器文化期のものではナイフ、台形石器、三稜尖頭器、スクレイパー等が出土した。細石器文化期のブロックからは細石核、細石刃、スクレイパー等が出土した。しかし、本遺跡において、これらの二つの文化期を分層することは困難で、また一部で2時期の遺物が混在して出土している状況も見られたため、純粋なブロックでない可能性も考えられる。

縄文時代早期では、集石が中央部と東側の調査区からやや集中した形で検出された。

土器はⅠ～Ⅶ類土器の16類に分類した。それぞれの比定する土器型式は以下のとおりである。

- Ⅰ類土器 岩本式土器（早期前半）
- Ⅱ類土器 前平式土器（早期前半）
- Ⅲ類土器 加栗山式土器（早期前半）
- Ⅳ類土器 吉田式土器（早期前半）
- Ⅴ類土器 石坂式土器（早期前半）
- Ⅵ類土器 下剥峰式土器（早期前半）
- Ⅶ類土器 辻タイプ（早期前半）
- Ⅷ類土器 桑ノ丸式土器（早期前半）
- Ⅸ類土器 中原式土器（早期前半）
- Ⅹ類土器 押型文土器（早期前半）
- Ⅺ類土器 手向山式土器（早期前半）
- Ⅻ類土器 縄目の文様が施された土器
- Ⅼ類土器 塞ノ神式土器（早期後半）
- Ⅽ類土器 右京西タイプ（早期後半）
- Ⅾ類土器 その他
- ⅰ類土器 無文の土器

最も出土量の多いのはⅤ類石坂式土器である。口縁部が外反するものと直行するものの2タイプがある。桜谷遺跡では外反するタイプが主である。前迫亮一氏の分類における古段階に相当する。

Ⅰ～Ⅲ類土器の補修孔はヘラ状の工具によってあけられた楕円形のものであるが、Ⅵ類土器以降の補修孔はドリル状の工具による円形のものである。Ⅴ類土器の補修孔は楕円形、円形の両方のタイプがある。

岩本式土器、前平式土器、加栗山式土器、吉田式土器（Ⅰ～Ⅳ類土器）また、石坂式土器、下剥峰式土器（Ⅴ、Ⅵ類土器）はそれぞれ集中域が重なる。押型文（Ⅹ類土器）、塞ノ神式土器（Ⅼ類土器）にはそれぞれ出土に集中域が見られる。

石器については、石鏃を中心とした石器製作跡が検出されており、それに関連する石核、剥片、碎片、石鏃未製品、石鏃等が出土している。石材は黒曜石（日東・針尾・上牛鼻・桑ノ木津留産等）、頁岩、チャート、玉隨が中心である。石鏃の形態は、二等辺三角形で抉りを有するものが多い。また、「大久保型」と呼ばれる形態のものも出土していることから、本遺跡の石鏃（石鏃製作跡）は縄文時代早期中葉以降に相当するものと思われる。しかし、石鏃及び剥片の出土状況（第20図）と早期中葉以降の土器の出土状況は一致しない結果となり、その根拠については不明である。

また、石鏃製作跡と同じ集中域に、頁岩の大型剥片の集中域（第19図）も見られ未製品も出土していることから、石斧等も製作していたと考えられる。

その他に特記すべき出土遺物として、環状石斧と有溝砥石が上げられる。環状石斧は、石斧としたが、その詳細な用途は不明である。県内で縄文時代早期の包含層から出土した環状石斧は、上野原遺跡から7点、桐木・耳取遺跡から4点出土している。有溝砥石は2点出土した。用途としては矢柄研磨器と考えられるが詳細は不明である。九州では出土例が少なく、また縄文時代草創期に出土する例が見られるが、本遺跡では早期の包含層内より出土した。

縄文時代前期・後期は、Ⅻ～ⅰ類の土器が出土した。Ⅻ類は前期の曾畑式土器に比定される。Ⅼ類土器は、前期の轟式土器に比定される。ⅰ類土器は明確な型式名は当てられないが、後期の阿高系土器の範疇になるものと思われる。

縄文時代晩期については、土坑3基と柱穴列1基が検出された。数量は多くないが土器や石器も出土しており、ⅰ類土器は上加世田式土器、ⅰ類土器は入佐式土器に比定される。

弥生時代以降については、遺跡の大部分の範囲で削平を受けており、一部残存するのみであったが、弥生時代中期前半の入来式土器に伴う竪穴式住居が1基検出されている。

第Ⅶ章 まとめ

農業開発総合センター遺跡群について

中村耕二

農業開発総合センターは、日置市吹上町と南九州市金峰町にまたがる施設で、その建設に伴う発掘調査は平成8年から平成15年まで費やし、遺跡の数も23遺跡に及ぶ。

調査の結果、旧石器時代から中世・近世までの遺構・遺物が検出され、この地域が古くから生活に適していたことを窺わせるものである。また、それぞれの時代で貴重な資料も発見されている。

旧石器時代は、窪見ノ上遺跡・小中原遺跡・建石ヶ原遺跡・宗円堀遺跡・中尾遺跡・神原遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡で発見されている。神原遺跡では、礫群を伴う細石器文化の時期のブロック5基が確認されている。荒田遺跡も細石器文化の時期を中心に多くの遺物が出土し、ブロック2基も見られる。建石ヶ原遺跡・桜谷遺跡では遺物の量は少ないものの、ナイフ形石器・剥片尖頭器などが出土している。また、小中原遺跡・中尾遺跡では落とし穴も検出される。

縄文時代草創期は、小中原遺跡、諏訪牟田遺跡・宗円堀遺跡・中尾遺跡で発見されている。諏訪牟田遺跡では隆帯文土器に伴って集石遺構も検出されている。中尾遺跡では集石遺構10基、連穴土坑13基が検出されている。

縄文時代早期は、住居跡などは検出されていないが、当時は生活環境が良好だったことを裏付けるように調査を実施したほとんどの遺跡から遺物が出土している。特に早期中葉の石坂式土器は各所から出土し量も多く注目される。窪見ノ上遺跡では前期前葉の岩本式土器がまとまって出土している。諏訪牟田遺跡では前平式土器が多く出土している中でレモン形の土器が見られる。馬廻遺跡は狭小な遺跡であるにもかかわらず、石坂式土器・桑ノ丸式土器の完形土器が出土している。小中原遺跡では、前平式土器の完形土器とその近くに石槍3本が重なり合って出土する集積遺構も検出されている。その他、集石遺構7基が検出された尾ヶ原遺跡、押型文土器が多く出土した桜谷遺跡・荒田遺跡などがある。

縄文時代前期・中期・後期は遺跡の数も少なく、遺物の出土量も少ない。窪見ノ上遺跡で前期の曾畑式土器、中期の春日式土器、尾ヶ原遺跡で前期の曾畑式土器・深浦式土器、中期の春日式土器がわずかながら出土している。後期は小中原遺跡・建石ヶ原遺跡等で数点出土しているのみである。

縄文時代晩期になると早期と同様ほとんどの遺跡で出土し、遺物の量も膨大である。特筆されるのは建石ヶ原遺跡の道跡である。幅2mの浅い窪みで硬化面が確認される。硬化面の上部には開聞岳起源の灰コラ（縄文時代晩期相当の時代）が堆積している。また、埋設土器も諏訪前遺跡・諏訪牟田遺跡・諏訪脇遺跡・尾ヶ原遺跡・南原内堀遺跡で検出されている。晩期の遺跡でよく見られる緑色の石で作られた玉類も諏訪前遺跡・諏訪牟田遺跡・小中原遺跡等で出土し、諏訪前遺跡では攻玉砥石も出土している。住居跡は少なく、諏訪牟田遺跡で径3mの堅穴住居跡が検出されているのみである。ただ、柱穴4個～6個が一行に並んだ柱穴列と呼んだ遺構が数多く検出される。これがなんらかの建物ではないかと考えられるものである。

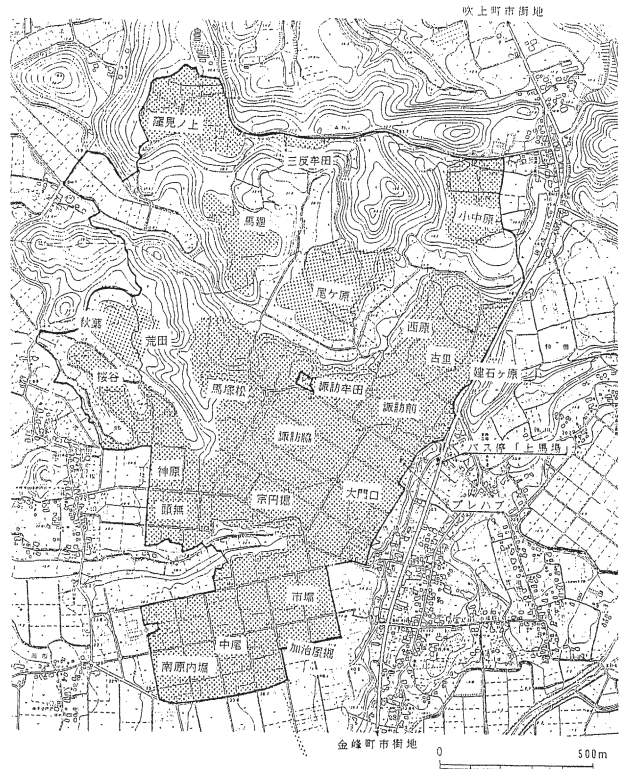
弥生時代の遺跡も少ない。前期・中期・終末の遺跡が確認されている。前期は馬塚松遺跡で高橋式が出土し、2間×2間の高床倉庫と思われる総柱建物が検出される。桜谷遺跡では、中期前半の入来式土器を伴う堅穴住居跡が単基で検出される。諏訪前遺跡・諏訪牟田遺跡では計3軒の堅穴住居跡が検出され、壺形土器に「龍」を描いた線刻土器が出土している。

古墳時代の遺跡も少ないが、小中原遺跡・尾ヶ原遺跡で注目される集落が検出されている。特に須恵器と成川式土器が共伴して出土しており、南九州の古墳時代土器の編年に寄与するものと思われる。

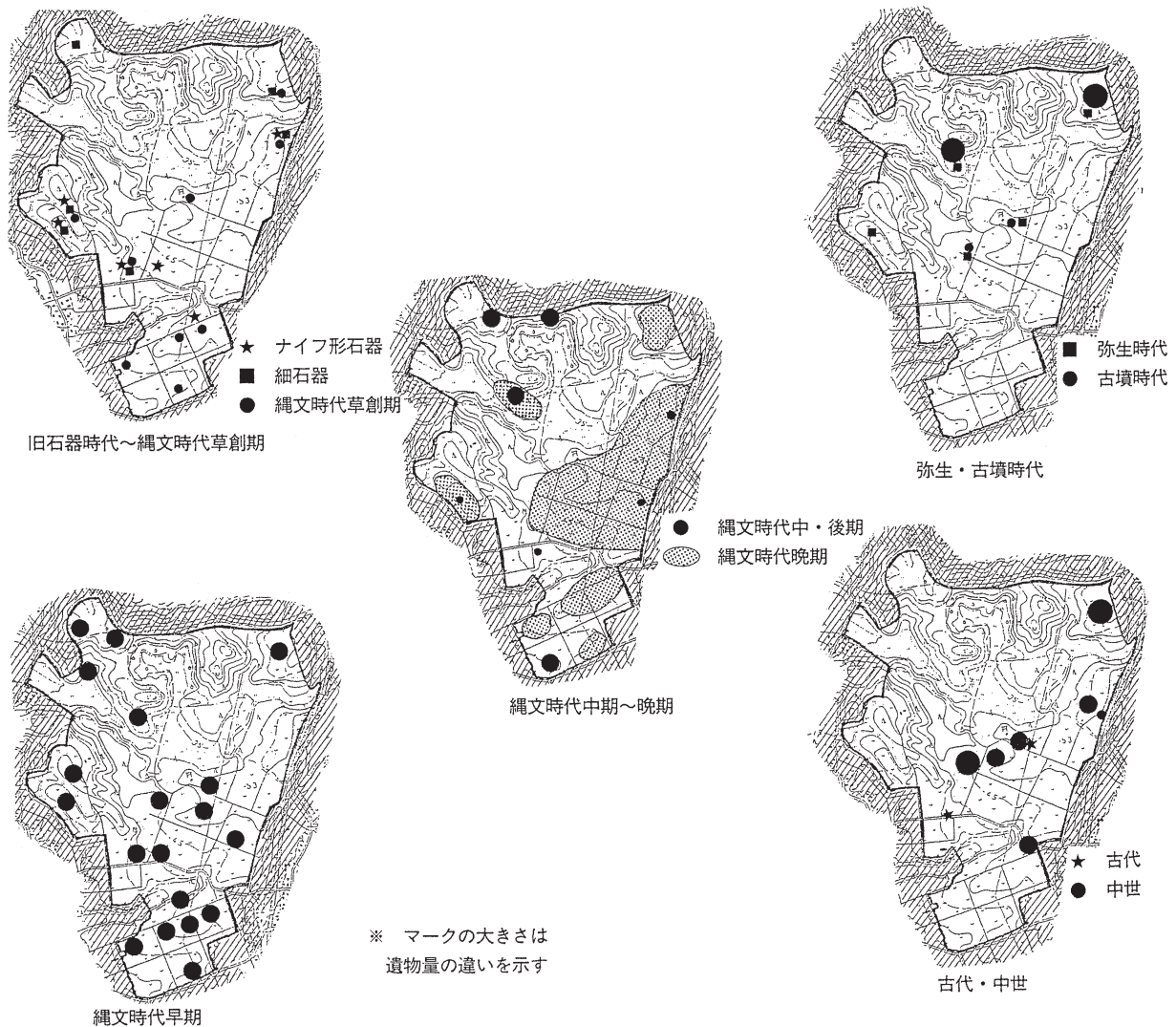
古代の遺跡も少ない。掘立柱建物跡群が検出されている諏訪牟田遺跡とV字状の大溝が検出された神原遺跡・頭無遺跡があげられる。溝からは9～10世紀頃の須恵器の甕や壺、土師器が出土している。

中世は、馬塚松遺跡をはじめ諏訪牟田遺跡・諏訪脇遺跡・宗円堀遺跡・市堀遺跡・古里遺跡・小中原遺跡において掘立柱建物跡群が検出され、広い範囲

で集落が形成されていたことが判明している。その中で馬塚松遺跡・諏訪牟田遺跡は青磁・白磁等の磁器が多く出土し、中心的な集落であったものと思われる。また、建石ヶ原遺跡では長方形周溝墓も検出されている。



第1図 各遺跡の位置



第2図 農業センター遺跡群の時代別遺跡の推移

農業開発センター遺跡群各遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	時代	遺構	主な遺物
1	窪見ノ上	縄文早期	集石遺構	岩本式土器・石斧
2	馬廻	縄文早期		前平式・石坂式土器
3	三反牟田	縄文後期		石鏃
4	吹上小中原	旧石器 縄文早期 古墳 中世	落とし穴 石槍集積遺構 竪穴住居跡群 掘立柱建物跡群	細石器 前平式土器 須恵器Ⅰ式
5	建石ヶ原	旧石器 縄文晩期 中世	道跡 方形周墳墓・溝	三稜尖頭器・細石器 入佐式土器 青磁
6	古里	中世	掘立柱建物跡群・溝	青磁・白磁
7	西原	縄文早期		
8	諏訪牟田	縄文草創期 縄文早期 縄文晩期 弥生終末 古代 中世	集石遺構 竪穴住居跡・埋設土器 竪穴住居跡 掘立柱建物跡・溝 掘立柱建物跡	隆帯文土器 前平式・石坂式土器 入佐式土器 土師器 青磁
9	諏訪前	縄文晩期 弥生終末	埋設土器・土坑 竪穴住居跡	入佐式土器・玉類 ドラゴンの絵画土器
10	馬塚松	縄文早期 弥生前 中世	高床倉庫 掘立柱建物跡群	石坂式土器 石包丁 青磁・白磁
11	尾ヶ原	縄文早期 縄文前・中期 縄文晩期 弥生中期 古墳	集石遺構 埋設土器 小児用合口壺棺 竪穴住居跡	前平式・石坂式・桑ノ丸式 曾畑式・深浦式・春日式土器 打製石斧・石錘 須玖式・黒髪式土器 成川式土器・須恵器Ⅱ式
12	諏訪脇	縄文晩期 中世	埋設土器 掘立柱建物跡	玦状耳飾り
13	宗円堀	旧石器 縄文晩期		ナイフ形石器・細石器 管玉
14	大門口	縄文晩期	柱穴列	玦状耳飾り
15	市堀	中世	掘立柱建物跡群	
16	頭無迫田	縄文早期	集石遺構	石坂式土器
17	頭無	縄文早期		平椀式土器
18	神原	旧石器 古代	礫群 溝	細石器 須恵器
19	桜谷	旧石器 縄文早期 弥生中期	石鏃製作跡 竪穴住居跡	ナイフ形石器 石坂式・押型文土器 入来式土器・刃痕のある土器
20	荒田	旧石器		ナイフ形石器・細石器
21	秋葉	縄文早期		石坂式・押型文土器
22	中尾	縄文草創期 縄文早期	連穴土坑・集石遺構 集石遺構	隆帯文土器
23	南原内堀	縄文中期 縄文晩期	埋設土器	阿高式・西平式・指宿式土器 管玉
24	加治屋堀	縄文晩期		

成川様式土器の様相

中村耕二

農業開発総合センター遺跡群では、日置市吹上小中原遺跡・尾ヶ原遺跡・諏訪前遺跡・諏訪牟田遺跡において成川様式の時代の竪穴式住居跡や土器溜まりが検出され一括資料が出土している。特に吹上小中原遺跡・尾ヶ原遺跡においては成川様式土器と須恵器が同一住居内から出土しており、編年の指標となるものと思われる。これまで中村直子等による分類・編年が確立しているところではあるが、もう少し細分できないか検討してみたい。

1 諏訪前遺跡1号住居跡

4m×3.8mの方形プランで、住居内からは多量の土器片が出土している。また、「ドラゴン」を描いたと思われる絵画土器（壺形土器）も見られる。甕形土器は底部は中空の浅い脚台で、胴部はやや張るものである。口縁部は「くの字状」に外反し、内面の稜は明瞭なものである。器面は全面ハケ目調整と下半部にヘラケズリが施されるものがある。壺形土器は、底部は平底で胴部はあまり膨らまないもので、胴部に刻目突帯を廻らすものと、突帯を有しないものがある。弥生後期の松木菌式に続くもので弥生時代終末に位置付けられるものと思われる。

2 諏訪前遺跡2号住居跡

5.2×5.7mの略方形プランで、5箇所の間仕切り状の突出部がある。遺物は少ないが、甕形土器・壺形土器・鉢形土器等が出土している。完形の甕形土器からみると1号住居跡と類似しているが、脚台の高さ及び口縁部内面の稜線がややなだらかな点を考えると1号より後出するものと思われる。

3 吹上小中原遺跡土器溜まり

半径約2mの範囲に甕形土器・壺形土器・鉢形土器等が固まって出土しており、土器溜りとして処理した。甕形土器は中空の脚台で口縁部は「くの字状」に外反するが概してなだらかで、内面の稜線は明瞭ではない。器面はヘラケズリのみ、ヘラケズリとハケ目のみと様々である。また、頸部のくびれ部から口縁部へかけてハケ目によるカキ上げ技法がみられ

るのが特徴である。壺形土器では全体の形状を見られるものがないが、底部は丸底で胴部が膨らむタイプと思われる。諏訪前遺跡の1号・2号住居跡出土の土器より後出するものと思われる。

4 吹上小中原遺跡4号住居跡

一部が削平されているが、推定で4.8m×3.6mの長方形プランで住居内から多量の土器が出土した。その中には須恵器（蓋・高坏・大形甕）も含まれており共判する成川式土器の年代を考える上で好資料となる。須恵器はTK208平行のI期の段階と思われる。共判する成川式土器をみると、甕形土器は中空の脚台から胴部はやや張り、上位にすれ違い突帯を有する。口縁部は突帯部から内湾し端部近くで短く外反する独特の器形を呈するものと直行気味に外反するものが見られる。壺形土器は、丸底の底部から胴部は膨らむもので最大径が胴部上位の肩部に近い部分にある。すれ違いの突帯を廻らすものと突帯を有しないものがある。高坏の脚部はゆるやかで、裾部で大きく広がるもので、杯部の下位は水平に近く接合部から上方へ立ち上がるものである。接合部には明瞭な段が認められる。これからは中村直子編年の辻堂原式に比定できるものと思われる。

5 尾ヶ原遺跡2号住居跡

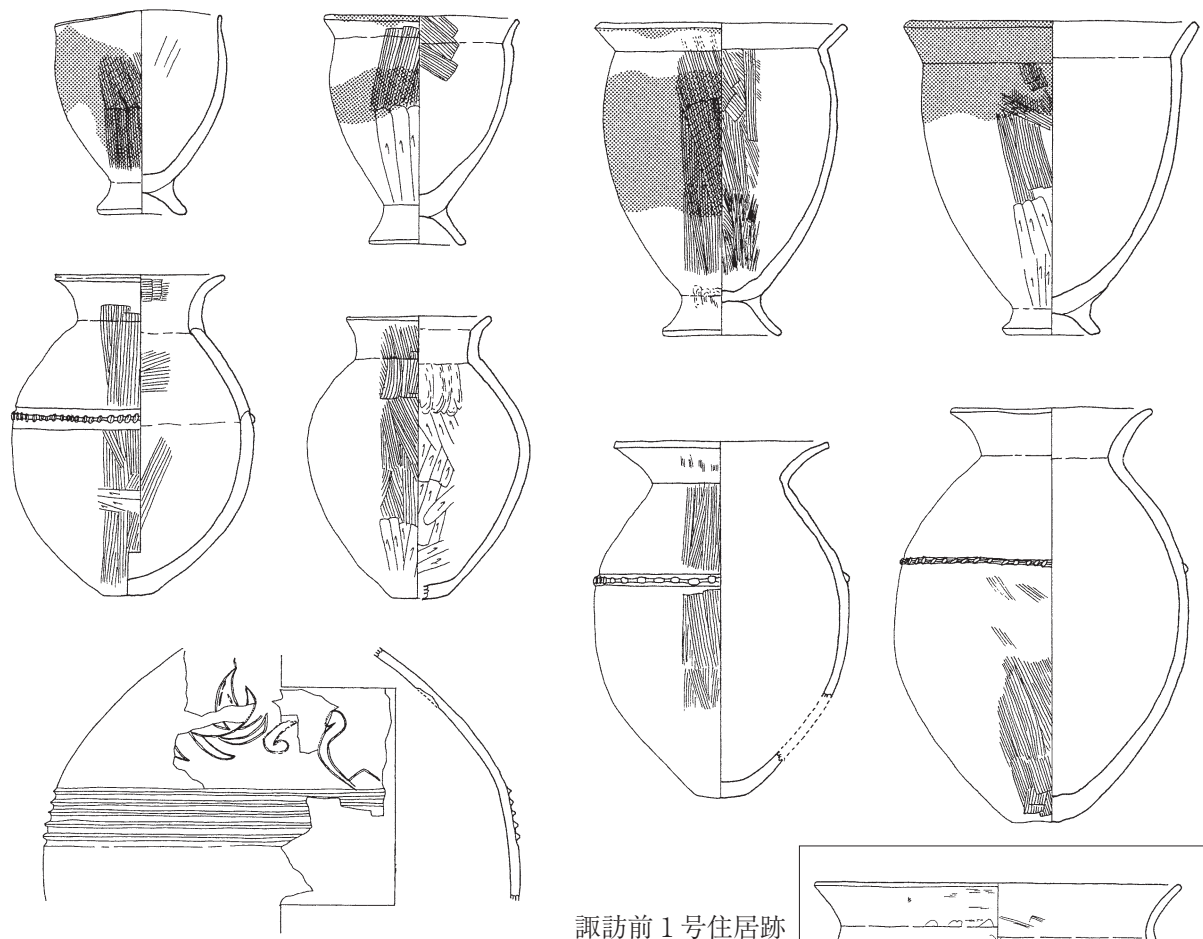
3.23×3mのほぼ方形プランで住居内からは須恵器を含む土器が出土している。甕形土器は胴部上位に刻目突帯を廻らし、口縁部が内湾するものである。壺形土器。高坏では完形になるものが無く情報不足である。須恵器は須恵器Ⅱ式と思われる杯である。笹貫式土器に比例出来よう。

6 尾ヶ原遺跡3号住居跡

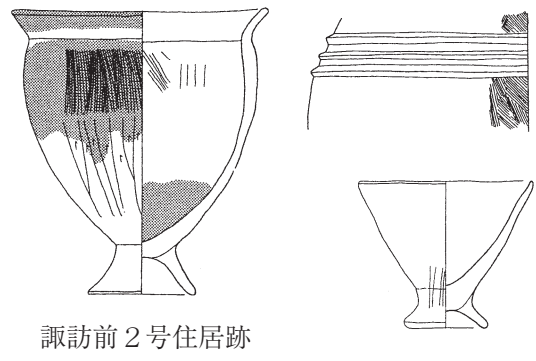
4.4×4.5mの方形プランで住居内からは須恵器を含む土器が出土している。甕形土器などの成川式は3号住居跡とほぼ同様の笹貫式と思われるが、須恵器は2号住居跡のものよりやや古いと思われる。

7 尾ヶ原遺跡4号住居跡

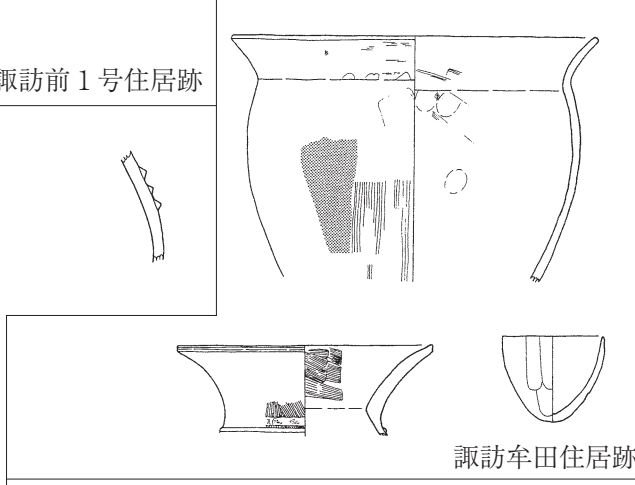
4.8×4.4mの方形プランで住居内から須恵器を含



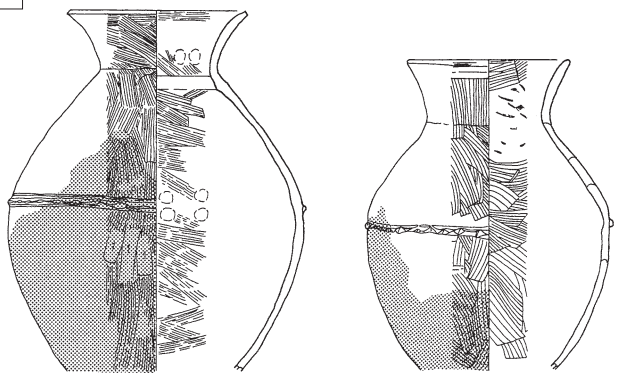
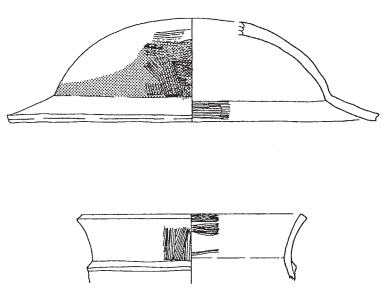
諏訪前 1号住居跡



諏訪前 2号住居跡



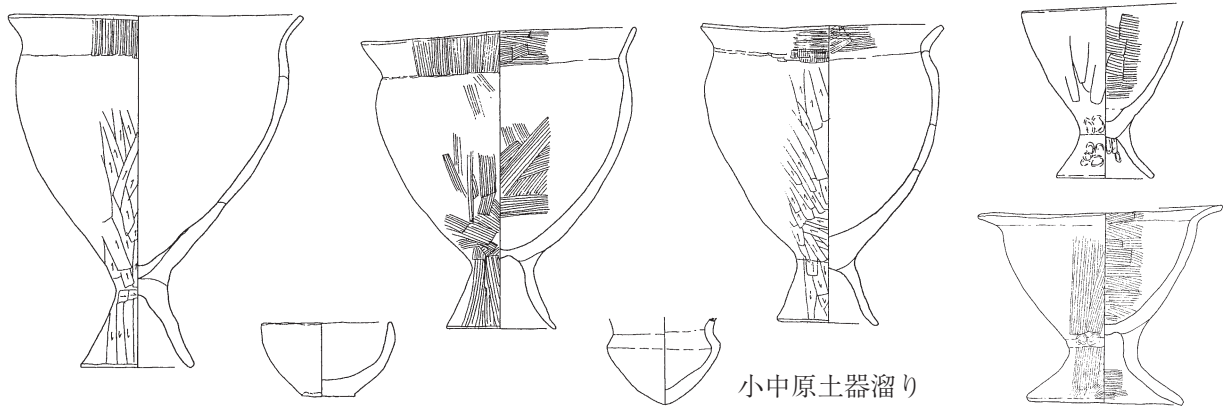
諏訪牟田住居跡



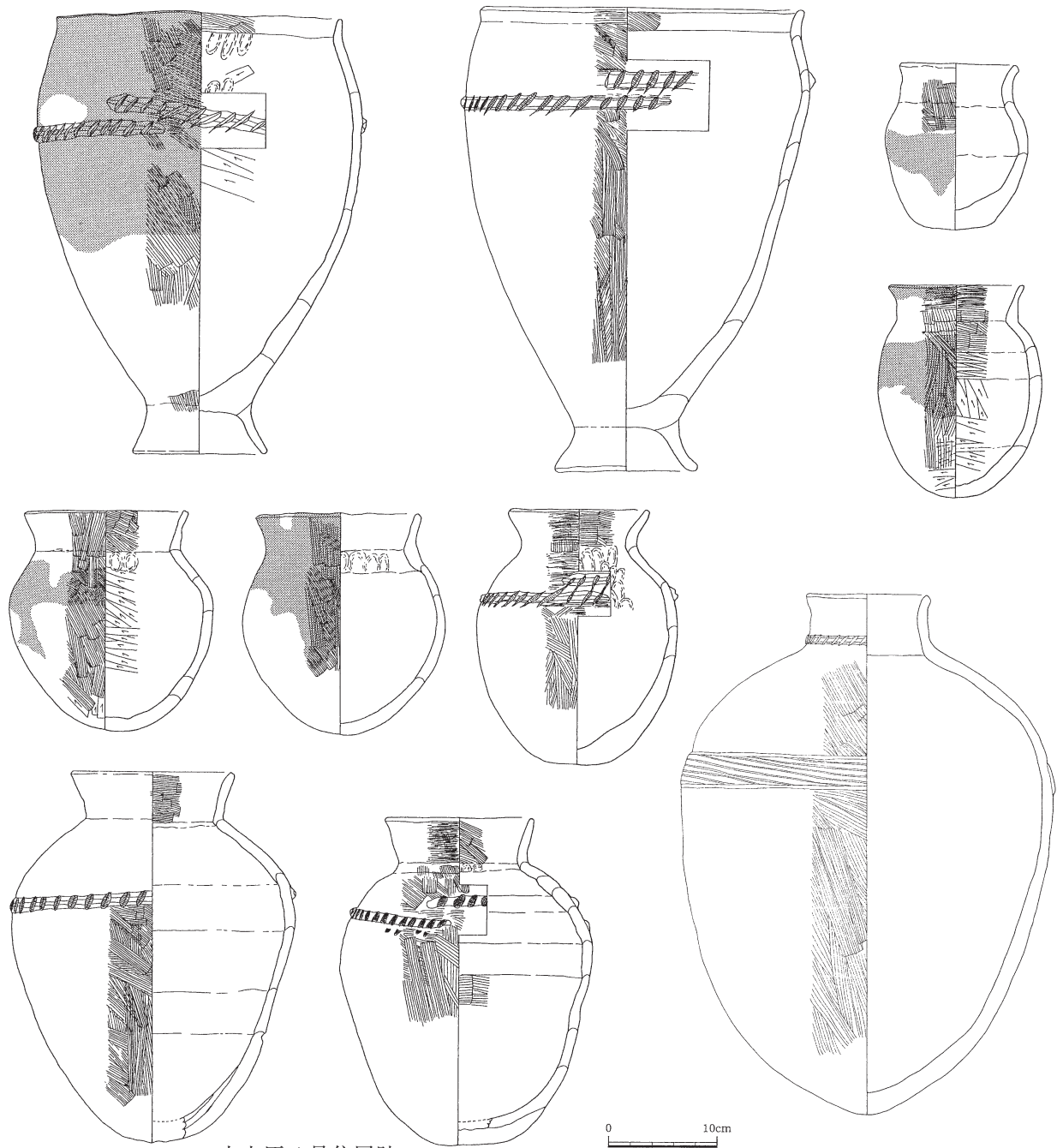
尾ヶ原 1号住居跡



第3図 諏訪前・諏訪牟田・尾ヶ原遺跡住居内土器

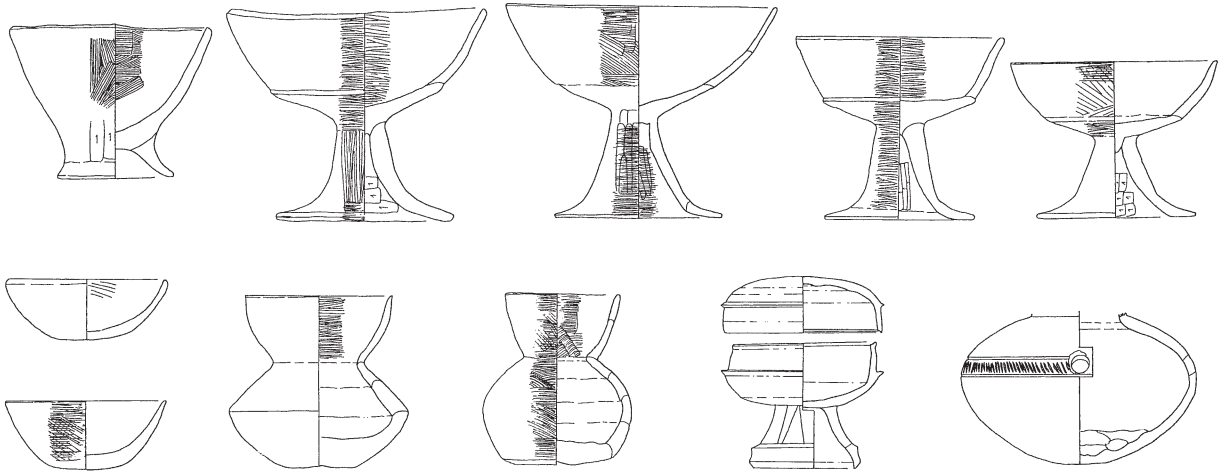


小中原土器溜り

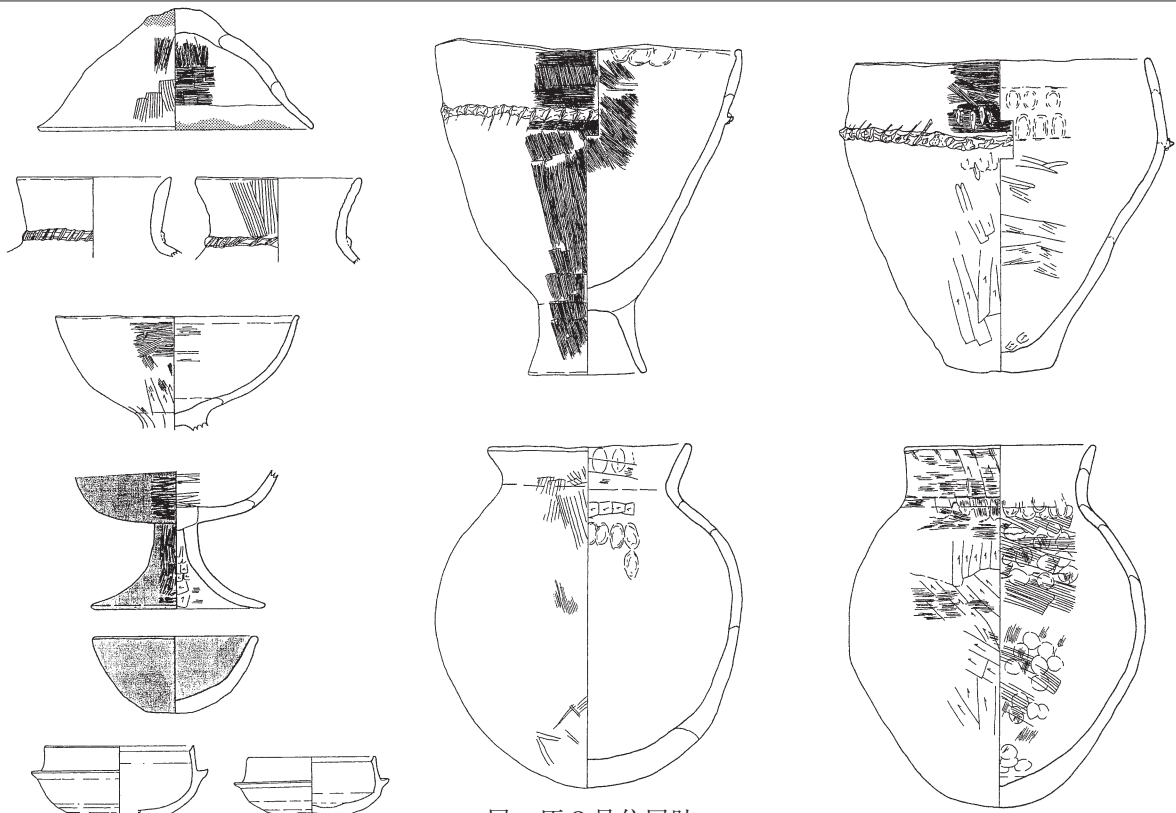


小中原4号住居跡

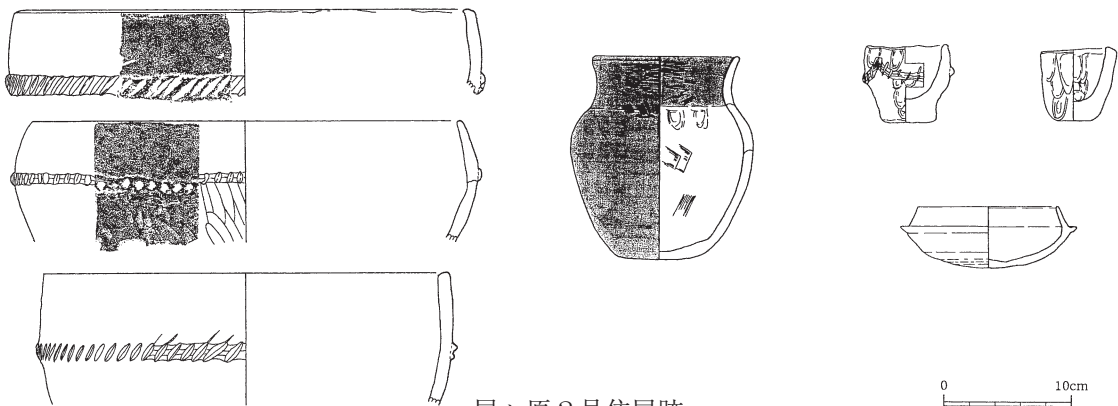
第4図 小中原・尾ヶ原遺跡 住居内出土土器



小中原 4号住居跡

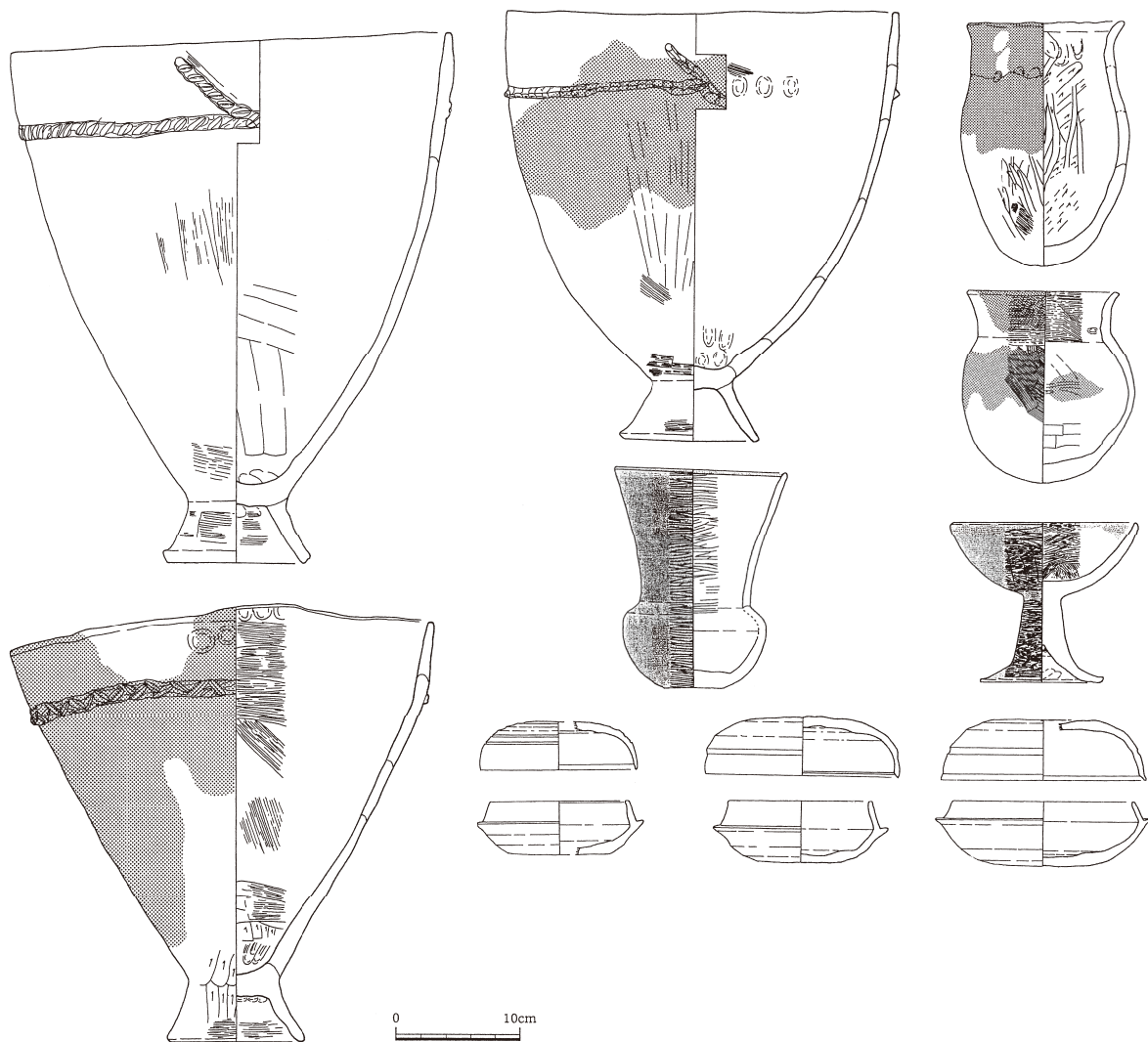


尾ヶ原 3号住居跡



尾ヶ原 2号住居跡

第5図 小中原土器溜り 住居内土器



第6図 尾ヶ原遺跡4号住居跡

む土器が出土している。須恵器及び土器は2号住居跡と類似しており、ほぼ同時期と考えられる。

8 諏訪牟田遺跡住居跡

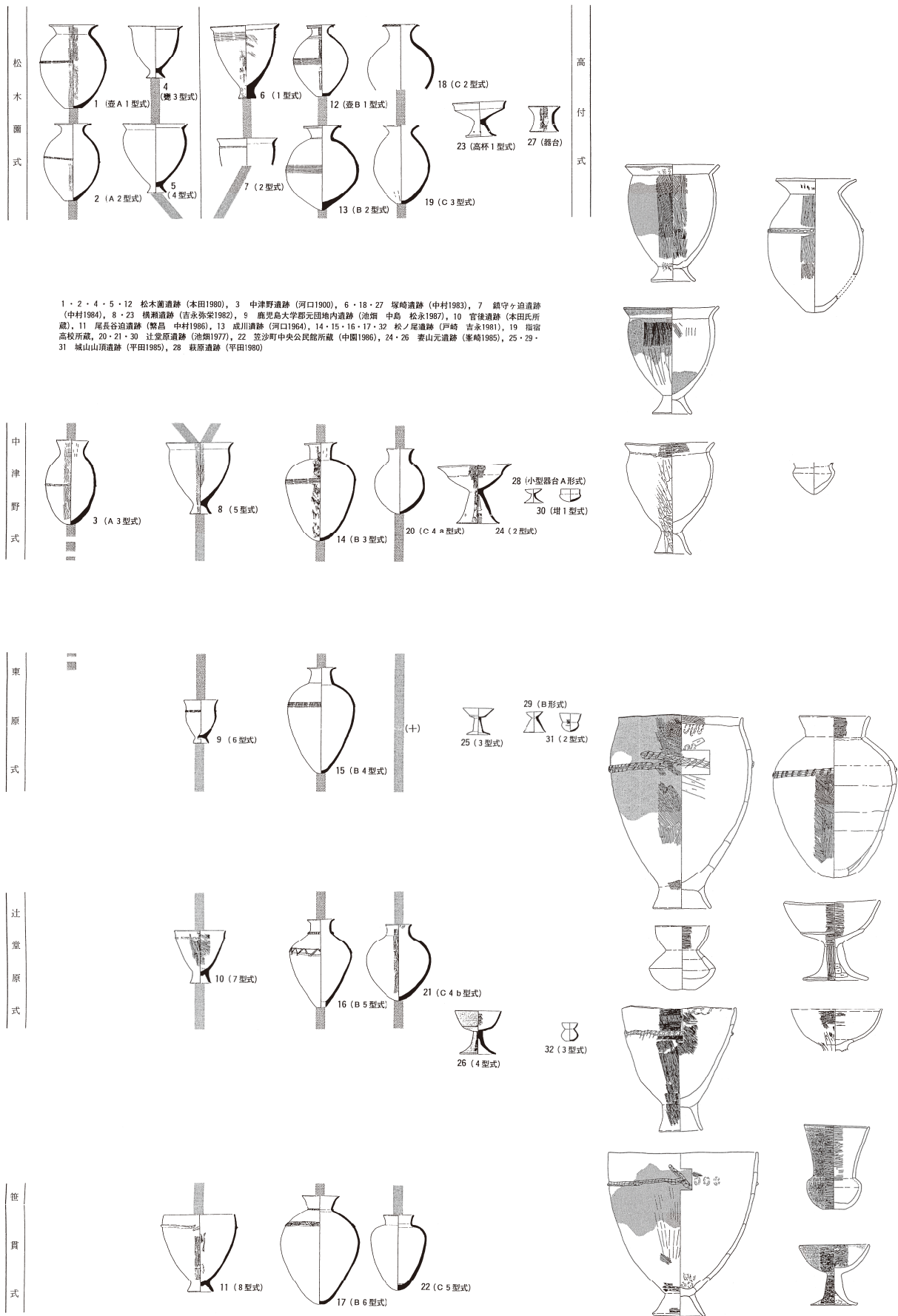
方形の両側に張り出しを有する特異な形状の住居跡である。住居内からは少ないが甕形土器・壺形土器等が出土している。甕形土器は口縁部が外反するが、内面の稜線は明瞭ではない。

農業開発総合センター遺跡群内から出土した成川様式土器についての編年試案を試みたいと考える。

諏訪前1号・2号住居跡出土の土器群と吹上小中原の土器溜りの土器群では若干の時期差が見られる。諏訪前遺跡の甕形土器では口縁部内面の稜線が明瞭で底部の上げ底も浅いものである。また、壺形土器

では、底部が平底に近い丸底気味で、松木菌式に後続し、弥生時代の範疇に入るものと思われるが、小中原遺跡では、甕形土器の口縁部内面の稜線が明瞭で無くなり、埴に近い器形の土器も見られる点から、中村編年の中津野式に比定できる。その編年の中でも器台、疍等がみられ器種が豊富になることが指摘できる。本論では、この段階を中津野式の新段階と位置付けて古墳時代に入るものと考えたい。

須恵器I式を伴う小中原遺跡の4号住居跡の土器についてみると、前述の諏訪間遺跡、土器溜まりの土器群とは相当の時間差が考えられ、中村氏編年の東原式の段階が欠如しているものと考えられる。甕形土器の口縁部に内湾した後外反するという独特の器形が見られるが、壺形土器、高坏、埴についてみ



第7図 成川様式土器編年試案 (中村直子編年に加筆)

ると中村編年の辻堂原式に比定出来るが、須恵器Ⅰ式を伴うことから、5世紀前半頃と考えられる。

尾ヶ原遺跡では2号・3号・4号住居跡で須恵器が共判している。それらについてみると、3号住居跡では須恵器Ⅱ式、2・4号住居跡では須恵器Ⅱ式のMT15型式～TK10型式の特徴を有しており、6世紀前半代が考えられるが、3号住居の須恵器がやや先行するものと思われる。

いずれも成川様式の中では笹貫式の範疇でとらえ

られるものである。現段階での編年で、6世紀代の成川様式土器については、笹貫式とされているが、須恵器Ⅲ式を伴う6世紀後半のものもあり相当の時間幅がある。また、土器そのものにも変化がみられることから今後細分化が必要となるものと考えられる。

<参考文献>

中村直子 1987「成川式土器再考」『鹿大考古6号』
鹿児島大学法学部考古学研究室

農セの押型文土器について

新中なるみ

農業開発総合センター遺跡群（以下農セ）では、調査・報告した23遺跡中13遺跡で押型文土器が出土している。（鍛冶屋堀遺跡は表採遺物なので対象から外している。）本年度報告の荒田遺跡・桜谷遺跡でも押型文土器が多数出土している。荒田遺跡では下剥峯式土器以前の土器が数点しか出土しておらず、押型文土器が広範囲で出土していた。また、桜谷遺跡でも特徴のある出土状況が見られた。南九州の押型文土器は大分編年を中心に多岐にわたって研究され、論じられている。これらのことをふまえて、農セの押型文土器についてまとめていきたい。（掲載遺跡順は表1を参照。）

はじめに各遺跡の押型文土器の主な器形をあげてみたい。（図中の番号は紙面の便宜上改めて打ち直してある。）窪見ノ上遺跡では、直行した口縁部を持ち、内側には一部施文があるものと底部に厚みがあり安定したもの（1）や外反した口縁部を持ち内側に原体条痕と横位の施文が施されたもの（7）が出土している。また、外反した口縁部を持ち内側に施文の施されたもの（15）が出土している。馬廻遺跡・吹上小中原遺跡では内側に施文のある口縁部付近の土器（17・16）が出土している。大門口遺跡では平底の底部ではあるが胴部が開いており、外面の下部は無文の土器（24）が出土している。尾ヶ原遺跡ではやや直行した口縁部を持ち、内側に施文のないもの（6）が出土している。また、外反した口縁部を持ち、内側に施文のあるもの（12）が出土している。諏訪前遺跡は縦位に施された山形押型文の胴部（23）

が出土している。諏訪協遺跡ではほとんどのものが外反した口縁部を持ち内側に施文のあるもの（13・14）が出土している。また、外側の施文のあとナデ消しを施されたもの（18）が出土している。頭無迫田遺跡にも施文のあとナデ消しを施されたもの（22）が出土している。宗円堀遺跡では外反した口縁部を持ち、内側に施文のないもの（21）が出土している。本年度報告の3遺跡を見てみると中尾遺跡は外反した口縁部を持ち内側に施文のあるもの（10）がほとんどであった。また、外反した口縁部を持ち、内側に施文があるもので、内側施文が原体条痕で胴部にも横位の条痕文が施されているもの（本報告書番号211・212）が出土している。荒田遺跡では直行した口縁部を持ち口唇部が平坦で内側に施文のないもの（2・3）。外反した口縁部を持ち内側に施文のあるもの（9）。外反した口縁部を持ち胴部にふくらみを持ち、内側に施文のあるもので外面にナデ消しのあるもの（20）。外反した口縁部を持ち、内側に原体条痕と横位の施文が施されたもの（8）が出土している。また、押型文と条痕文が施されたもの（本報告書番号232）が出土している。底部では厚みがあり安定したもの（本報告書番号228）と平底の底部ではあるが胴部が開いて安定性のないもの（本報告書番号231）が出土している。桜谷遺跡では、直行した口縁部を持ち、内側に施文のないもの（4・5）と外反した口縁部を持ち内側に施文のあるもの（11）。外反する口縁部を持ち、内側に施文があり、外面にナデ消しのあるもの（19）が出土している。また、

A類

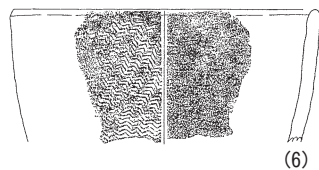
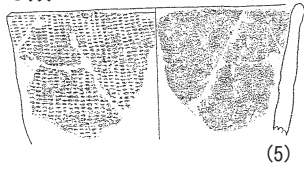


B類

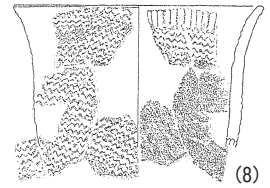


0 10cm

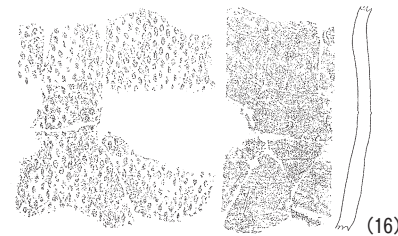
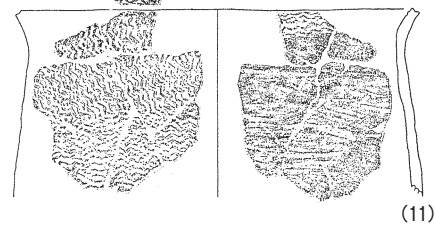
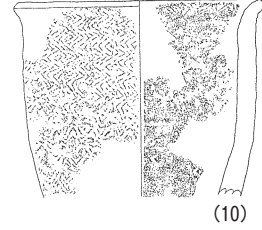
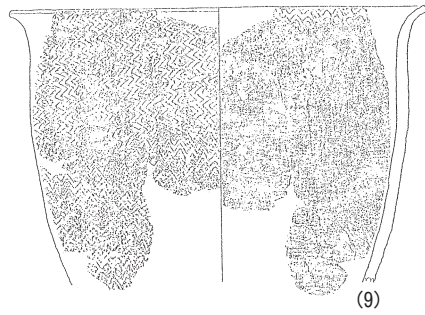
C類



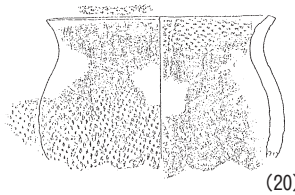
D類



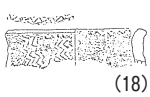
E類



G類



F類



未分類



0 10cm

(1) (7) (15) 窪見ノ上 (16) 馬廻 (17) 吹上小中原
(24) 大門口 (6) (12) 尾ヶ原 (23) 諏訪前
(13) (14) (18) 諏訪脇 (21) 宗円掘 (22) 頭無迫田
(10) 中尾 (3) (8) (9) (20) 荒田 (4) (5) (11) (19) 桜谷

第8図 農セの主な押型文土器

貝殻刺突文と山形押型文が混同して施された土器（本報告書番号517）が出土している。

この押型文土器を分類していくと次の通りになる。（第1図）

- A類 直行した口縁部を持ち、口唇部が内側に入り、内側に施文が一部あるもの。施文は山形文で横位。（1）
- B類 直行した口縁部を持ち、口唇部は平坦で内側に施文のないもの。施文は山形文で斜位。（2～4）
- C類 やや外反した口縁部を持ち、内側に施文のないもの。施文は山形文と楕円文で横位と斜位。（5・6）
- D類 外反した口縁部を持ち内側には原体条痕と横位の施文が施されているもの。施文は山形文と楕円文で横位と斜位。（7・8）
- E類 外反した口縁部を持ち内側に横位の施文が施されているもの。施文は山形文と楕円文で縦位が多いが斜位や横位もある。（9～17）
- F類 外反した口縁部を持ち内側に横位の施文が施されているもの。外側にはナデ消しが施され

ている。施文は山形文と楕円文で縦位。（18・19）

- G類 外反した口縁部を持ち胴部にふくらみのあるもの。施文は楕円文と山形文で縦位。（20・21）

次に、これらの土器と同一グリッドから出土した土器を表1に示した。A類の（1）は岩本式土器・前平式土器が同一グリッドから出土している。このグリッドは岩本式土器が多く完形品が出土している。B類の（2）は出土範囲が広く、集中して出土している所では、加栗山式土器・桑ノ丸式土器・右京西タイプが同一グリッドから出土しており、（3）は桑ノ丸式土器・塞ノ神式土器・右京西タイプの土器が同一グリッドから出土しており、（4）とC類の（5）は下剥峯式土器・桑ノ丸式土器と同一グリッドである。D類の（7）は石坂式土器・桑ノ丸式土器と同一グリッドである。E類の（9）は広範囲の出土で加栗山式土器・桑ノ丸式土器・中原式土器・塞ノ神式土器・右京西タイプの出土が見られる。（12）では石坂式土器が出土している。（13）は桑ノ丸式土器・手向山式土器が出土している。（14）は手向山式

表1 農業センター遺跡群の押型文土器出土数と同一グリッド内の土器型式

掲載総数	土器型式	グリッド (掲載個数)	主な土器 (第1図)	分類	岩本	前平	加栗山	石坂	下剥峯	桑ノ丸	中原	手向山	平舟	塞ノ神	右京西	
1	窪見ノ上遺跡	37	B-5(5) C-6(3)	7・15	D・E			○		○						
			B-6(3) C-5(15)					○	○		○					
			J-4(3)	1	A	○	○									
			K-4(2)				○									
2	馬廻遺跡	7	C-4(6)					○								
			D-4(1)	17	E			○		○						
3	小中原遺跡	1	L-1(1)	16	E		○									
4	大門口遺跡	1	E-13(1)	24												
5	尾ヶ原遺跡	25	C-3(10)	12	E			○								
			D-3(2)					○	○							
			L-10(2)	6	E											
6	諏訪前遺跡	3	I-11(3)	23												
7	諏訪脇遺跡	106	B-3(51)	13・18	E・F					○		○				
			C-2(7)								○			○		
			C-3(5)	14	E								○			
			D-1(5)									○				
8	宗門堀遺跡	1	L・K-18(1)	21	G	○		○	○	○				○		
9	頭無迫田遺跡	5	J-5(1)									○				
			J-10(3)	22												
10	中尾遺跡	24	B-13(12)	10	E											
11	荒田遺跡	61	U-10(1)	2	B		○			○					○	
			T-8・9(8)	3	B						○			○	○	
			S-8(1)	9	E		○				○	○			○	○
			L・M-6(12)	20	G						○					
12	桜谷遺跡	74	E-9・10(2)	4・5	B・C				○	○						

土器が同一グリッドで出土している。(16)は加栗山式土器が出土している。(17)は石坂式土器の完形品と桑ノ丸式土器が同一グリッドで出土している。F類の(18)は桑ノ丸式土器と手向山式土器が出土している。G類の(20)は桑ノ丸式土器が出土している。(21)は接合面が大きく多くの土器が出土している。(6・8・10・11・19・22~24)では同一グリッドでの出土は見られなかった。

また、A~G類に分類したものをあわせたものを表2に示した。A類は(1)のみであるが、岩本式土器と前平式土器が出土している。B類の(2・3)は接合範囲が広範囲で多くの土器が出土している。(4)は下剥峯式土器と桑ノ丸式土器が出土している。C類は下剥峯式土器と桑ノ丸式土器が出土している。D類は石坂式土器と桑ノ丸式土器の出土である。E類は加栗山式土器以降のものが出土しており、広範囲の土器の出土状況である。F類は桑ノ丸式土器と手向山式土器の出土であった。G類は(21)は多くの土器が出土しているが、(20)は桑ノ丸式土器の出土となっている。

表2 同一グリッド出土土器と分類のまとめ

	岩本	前平	加栗山	石坂	下剥峯	桑ノ丸	中原	手向山	平権	塞ノ神	右京西
A類	○	○									
B類			○		○	○				○	○
C類					○	○					
D類				○		○					
E類			○	○		○	○	○		○	○
F類						○		○			
G類	○			○	○	○	○				○

これらの遺跡の中で、特徴のあるものは桜谷遺跡の出土状況である。桜谷遺跡は、押型文土器が単独で集中して出土している(P.177第17図X類参照)。この遺跡は他の土器型式でも出土状況に特徴があり、岩本式土器・前平式土器・加栗山式土器・吉田式土器がM~O-13~16区で出土し、石坂式土器・下剥峯式土器がQ~T-19~21区で出土している。また、桑ノ丸式土器がQ-17区で出土している。他の土器型式では重なりが見られるのだが、押型文土器は単独で集中して出土しているということがわかる。この遺跡は石坂式土器の出土量が多く、次いで押型文土器が集中して出土している。この集中した押型文

土器を詳しく分類したもの以外でも見てみると、表面がナデ消しされたもの(本報告書番号477)や外反した口縁部を持ち内側に施文があるが口唇部が山形になり、その口唇部と頸部に刻目が施されたもの(本報告書番号481)などもあり、ただ押型文土器とまとめるわけにはいかないようなものがある。また、掲載されている73点のうち65点はP-15・16区を中心とし、集中した範囲に出土しているが、残りの8点のうちE-9・10区で出土した2点(4・5)は直行した口縁部を持ち、内側に施文のないものである。また、J-13区で出土している2点は山形押型文で同一個体と思われる胴部・底部(本報告書番号458・472)である。N-14区(本報告書番号454)で出土しているものは山形押型文の胴部である。O-22(本報告書番号491)は直行した口縁部を持ち外側はナデ消しが施され内側に施文がないものが出土している。T-20(本報告書番号514)では楕円押型文の底部が出土している。

次に、この分類を既存の押型文土器の型式にあてはめてみると、A・B類は桑ノ丸式土器の器形に押型文を施文した(新東1990)ものにあたる。また、A~C類は弘法原式土器(水ノ江1998)、上野原遺跡第10地点縄文早期中葉土器編年案の押型文土器様式(八木澤2001)ではⅡ期・Ⅲ期、岩永編年(岩永2006)ではⅠ期、山下・栞畑編年(山下・栞畑2007)では第1段階にあたる。さらに、D~G類はヤトコロ式土器あるいは出水下層式土器にあたる。上野原遺跡第10地点縄文早期中葉土器編年案の押型文土器様式(八木澤2001)ではⅣ期・Ⅴ期、岩永編年(岩永2006)では、Ⅱ期~Ⅲ期(新)にあたり、また山下・栞畑編年(山下・栞畑2007)では第2段階・第3段階にあたる。このように押型文土器の編年は細部において異なった見解が乱立しているようであるが、大筋の編年の流れに関しては概ね一致しているようである。また分類したのも必ずしも編年にそっているわけではない。しかし、この現状について、堂込秀人氏は「まず、異なる土器型式の共時性の証明や、地域性の検討、分布域の重なる遺物の垂直分布状況などが示される必要がある。」(堂込2003)という指摘もあり、他の地域と多少違いがあっても問題はな

いだろう。さらに、桜谷遺跡ではE・F類が単独で出土しており、先の検討の通り、E・F類と時期差があると思われるB・C類の出土はE・F類とは離れた所である。また、他の遺跡でもA～C類とD～G類が同じグリッドから出土していることはない。これらのことや南九州貝殻文系土器との関係などから、農セの押型文土器とその出土状況は桑ノ丸式土器から手向山式土器までの間に出水下層式土器の単純期があったことを示唆しているのではないだろうか。この問題について堂込氏は「型式学的にも桑ノ丸式土器→押型文土器→手向山式土器→平楯式土器→塞ノ神式土器と一系統式で連続していくもの」(堂込2003)と指摘しており、また、八木澤一郎氏は「貝殻文円筒形土器群の完全なる終焉は、いわゆる「出水下層式土器」と呼ばれる土器群が出現するまで下る」(八木澤2001)という点においては、農セの押型文土器も整合している。さらに、出水下層式土器が単独で存続する期間について八木澤氏は「極めて短期間であるが存在する」(八木澤2001)と述べている。しかし、この存続する期間に関して農セの押型文土器では言及する材料を見つけることができなかった。

このように農セの押型文土器は、薩摩半島西南部でも出水下層式土器が単独で出土し、またその単純期が確認されたという点で、長い間検討が必要とされていた南九州の押型文土器の様相に関しての重要な資料に位置づけられるだろう。この資料を活用した新たな見解が出されることを期待したい。

今回、農セの押型文土器をまとめるにあたり、力不足でなかなか結論を導き出すことができなかった。また、解釈などの違いについては、今後の課題とし、ご容赦いただきたい。今後は、南九州貝殻文系土器との関係や石器組成などさまざまな点から論究していきたい。

最後にこのまとめを書くにあたり、黒川忠広氏にご指導を頂いた。ここに記して御礼申し上げます。

<引用・参考文献>

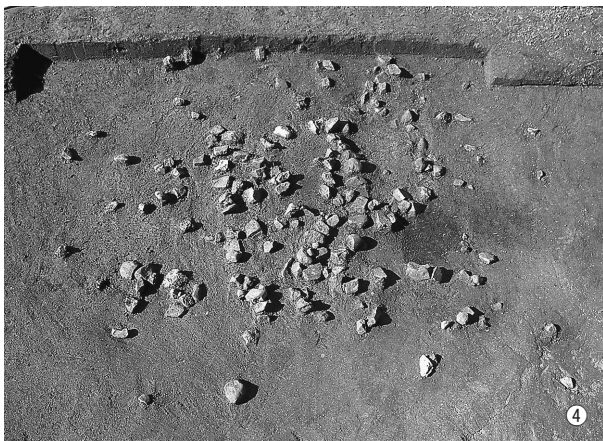
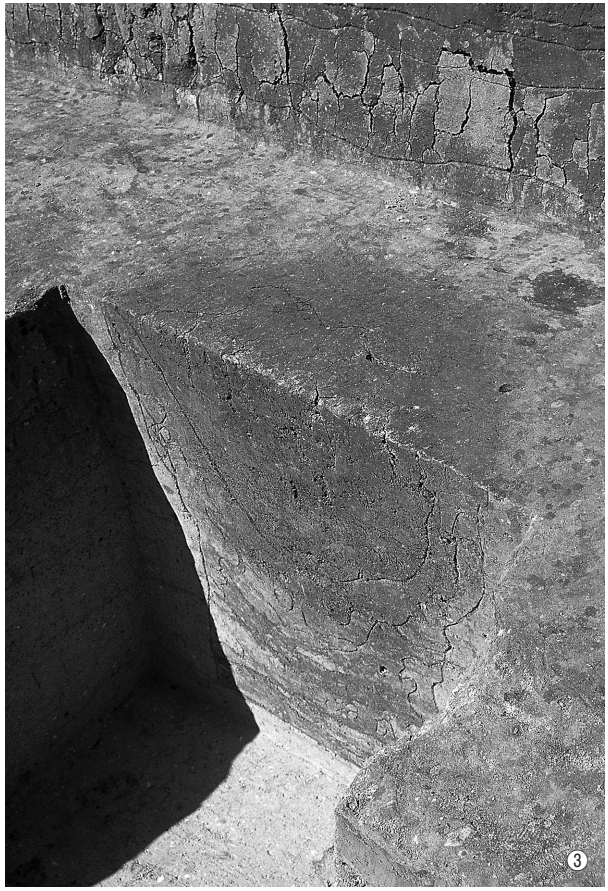
出水市教育委員会 2000「出水貝塚」 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(11)
 岩永哲夫 2006「南九州の押型文土器」 宮崎考古

第20号
 上杉彰紀 2006「南九州における縄文時代早期前半の様相」～平底円筒形押型文土器の位置づけをめぐって～」九州縄文時代早期研究ノート第4号
 大坪芳典・遠部慎 2000「南九州の押型文土器研究についての覚書」 鹿児島考古No.34
 遠部慎 2000「ヤトコロ式土器と出水下層式土器の関係―押型文土器研究史の一断章「ヤトコロ式土器」成立―」九州旧石器第4号
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002「上野原遺跡(第2～7地点)」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(41)
 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2001「上野原遺跡(第10地点)」 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28)
 木崎康弘 1998「中九州西部押型文土器の編年」九州の押型文土器―論攷編―
 黒川忠広 2003「南の押型文土器」 利根川24・25
 坂本嘉弘 1996「東九州の押型文土器研究の現状と課題」九州の押型文土器―論攷編―
 新東晃一 1990「縄文早期土器の補修」南九州縄文通信No.3
 堂込秀人 2003「南九州における押型文土器文化期の存在」 利根川24・25
 町田勝則 2003「押型文文化の石器を考えるにあたり」 利根川24・25
 水ノ江和同 1998「九州における押型文土器の地域性」九州の押型文土器―論攷編―
 八木澤一郎 2003「堂込秀人「南九州における押型文土器文化期の存在」を読んで」―縄文早期中葉期における南九州回轉施文系土器の系譜と様相の確立に向けて(予察)―」 利根川24・25
 山崎純男 平川祐介 1986「九州の押型文土器」考古学ジャーナルNo.267
 山下大輔 栗畑光博 2007「南九州貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係」 縄文時代第18号
 横手浩二郎 2003「九州における近年の押型文土器研究動向」 利根川24・25

写 真 图 版



中尾遺跡全景
縄文時代草創期 遺構検出状況 (B~D-9~11区)



①土層断面（C-9区西壁） ②・③旧石器時代落とし穴状遺構
④・⑤縄文時代草創期 1・2号集石遺構



縄文時代草創期

①～④ 3～6号集石遺構 ⑤ 調査風景 (C-10～11区)